特277
476

修正版

大阪 郷土の觀察

大阪市國民學校教育研究會

特277-476

始

序のことば

大阪市國民學校教育研究會國民科地理委員の努力により、過去一ヶ年間、地理月報として、初等科四學年の鄕土の觀察教授細目を作成し、本市各國民學校に頒布したが、今回之が完結を見るに際し、之を取纒め、更に毎時の指導例を加へ出版する事にした。

惟ふに、兒童が日常見聞する鄕土を詳細に檢討し、この小天地の中にも皇國本然の姿容の實在することを認識させ、其觀察を基礎として、政治・經濟・文化各般に亘つての組織機構の狀態、地圖の見方等、國民科地理への入門的取扱をなし、皇國民錬成の礎を築かんとするものが、鄕土觀察のねらひである。

以上の趣旨に依り本大阪鄕土の觀察は大阪市國民學校初等科第四學年の鄕土觀察の取扱を目標として編纂したものである。換言すれば大阪鄕土觀察の教師用と云ふべきものである。然し之を他地方の國民學校に於て、鄕土觀察取扱上、參考に資するを得るならば欣幸の至りである。

昭和十七年四月一日

發行所寄贈本

76W10415

修正のことば

文部省の「郷土の觀察教師用」發行に先だつて「大阪郷土の觀察」を編輯頒布してから早や一ケ年經過致しました。回顧するに頒布後教師用の內容と懸隔のないやう只管乞ひ願つてゐました處其の後文部省から郷土の觀察教師用が發行され、其の內容を比較檢討するに「大阪郷土の觀察」と殆んど一致してゐました。編輯に從事した委員一同讀者諸彥に御迷惑を掛けなかつた事を思ひ安堵の胸を撫で下した次第でありました。

然し過去一ケ年「大阪郷土の觀察」を基にして郷土の觀察を取扱ひましたが、教材に依つては取扱ひの困難な箇處もあり、又兒童の學力より程度の高い指導の部面もありましたので、此のたび教師用を基礎として、一ケ年の授業を顧みて、此處に一大修正を致しました。

尙修正に際しては防諜に關して意を拂つて置きました。子供の時から人に言つてよい事とわるい事との區別位は知らしめて置く必要があるかと思ひます。特に都市の子供は饒舌であります。防諜の訓練も郷土の觀察指導の重要な一部面かと思ひます。

何といつても郷土は兒童の誕生地であります。父祖代々こゝに居住して、皇國のために奉公の誠を捧げた地であります。しかも郷土は皇國の一部であり、わが國土の縮圖であります。郷土の事象を觀察把握することは、やがてわが國土國勢の具體的な理會に資し、國土の一環としての郷土愛護の精神に擴張せられ、皇國の使命の自覺に昂揚せられるものであります。

以上の意味に於て「大阪郷土の觀察」を十分活用せられ大東亞民族を地理的に、精神的に、即ち日本的世界觀をもつて指導し得る大國民教養の一助とせられんことを希望して止まぬ次第であります。

昭和十八年四月一日

凡例

一、本細目は大阪を中心にした鄉土觀察の教師用として編纂したものである。
一、偶數の頁は授業細目を奇數の頁には其の指導例を示した。
一、二頁一時間分を本體として限定したことは或は窮屈を感ぜられるむきもあらうが、眞劍に考へ、誰でもが利用するものとすれば最も便利ではないかと思ふ。
一、郊外に出て指導する場合、例へば山・川・平野・海・お宮等は一時間分を一頁單位にしないで數時間を經めて記載して置いた。
一、鄉土の範圍は樣々に考へられるが、足のおよぶところ、目の屆くものが觀察の實體でなければならぬ。從つて其觀察材は所謂學校を中心とする學校區域内に求むることを本體とする。但し大阪城を中心とする地域、四天王寺の天王寺公園及阿部野橋附近・大阪驛附近・淀川と毛馬閘門附近・柴島水源地・大阪港等については各校共是非一度觸れなければならぬ重要教材であらう。
一、各題目及取扱要項は大阪市のどの學校に於いても取扱はれるやうに考へて配當したが、各學校に於いて夫々校下環境が異なつてゐるのだから、各々校下に適するやう適宜取捨せられたい。
一、地圖といふ題目を別に設けなかつたが、各教材を通じて最初は繪圖、それから寫景圖、平面圖といふ順序に指導し、第三學期の終りに地圖について知らせるやう、かうして五學年になつて地圖が讀み得らるゝやうに工夫して置いた。
一、教材の配當は概觀から部分へ、部分から全體へと發展し、又學校から通學區域へ、大阪市へ、遠足地をも加へて大阪府へ發展させるやうに仕組んである。
一、天氣は四回に分けて教材を配當し、題目は一年中に於て特徴ある季節を以つて表はしたが、春夏秋冬の氣候の理解出來るやう且繼續觀察をなし得るやうに配當してあるから其の心構へをして取扱はれたい。
一、鄉土の特殊性を强調するの餘り偏狹な愛鄉心を養はぬやう。他地方との共通性をよく考へてその共通性の上に立脚した特殊性を正しく知らせる。つまり皇國民錬成を主眼として取扱ふやう、授業要項、取扱上の注意、指導例等に一段の工夫をしてある。
一、しかし頁に制限があるために記述にも掣肘を加へられ繁簡よろしきを得ず、尙推敲の餘地もあると思ふ、御氣付の點は御指敎を望んで止まない。

昭和十七年四月一日

編纂役員一同

大阪市國民學校教育研究會國民科地理研究部役員

參與	大阪市視學	眞銅拾三
理事	逢阪國民學校長	田中範四郎

（順序不同）

委員	南津守國民學校長	岩田龜三良
同	木川國民學校長	北野寅太郎
同	集英國民學校訓導	富田忠雄
同	湿美國民學校訓導	濱田惠一
同	林寺國民學校訓導	安積三平
同	姫里國民學校訓導	小林晴二
同	大阪第一附屬國民學校訓導 師範女子部	內田安守
同	厩野國民學校訓導	中井貢
同	西天滿國民學校訓導	豐谷修一郎
同	集英國民學校訓導	寺野增太郎
同	阿倍野國民學校訓導	和田政雄
同	大阪第一附屬國民學校訓導 師範男子部	三杉孝
同	大阪第二附屬國民學校訓導 師範	上藤潔
同	石田國民學校訓導	中野憲一
幹事	千本國民學校訓導	岡田里志

大阪郷土の觀察目次

見はらし……二
私の學校……一〇
野原・山・川……一六
家から學校……二〇
梅雨……二三
町の位置・面積・人口……二四
町の家……二六
海……二八
二百十日……三三
役所……三四
彼岸……三六
隣組……三八
野原・山・川……四〇
町の配給所……四六
町の店……四八
工場……五〇
道路・停車場……五四
河川……五六
航空・通信……五八
神社……六〇
節分・氣候のまとめ……六四
寺院と史蹟……六六
町の歴史……六八
大阪市（沿革）……七〇
大阪市（史蹟）……七三
大阪市（自然）……七四
大阪市（人文）……七六

月別時間配當表

月別・授業時數	大題目	小題目	頁數	配當時間
四月 四時間	見はらし	見はらし	二	四
五月 四時間	學校と家 郊外	私の學校 野原・山・川	一〇 一六	三 一
六月 四時間	郊外 學校と家 天氣 町	野原・山・川 家から學校 梅雨 位置・面積・人口	二〇 二二 二四	一 一 一 一
七月 三時間	町 郊外	町の家 海	二六 二八	一 二
九月 四時間	天氣 町 天氣 町	二百十日 役所 彼岸 隣組	三二 三四 三六 三八	一 一 一 一
十月 四時間	郊外 郊外 店と工場	野原・山・川 野原・山・川郊外のまとめ 町の配給所	四〇 四六	二 一 一
十一月 四時間	店と工場 店と工場 店と工場	町の配給所 町の店 工場	四八 五〇	一 一 二
十二月 三時間	交通	道路・停車場 河川 航空・通信	五四 五六 五八	一 一 一
一月 三時間	神社と寺院	神社 節分 氣候のまとめ	六〇 六四	二 一
二月 四時間	神社と寺院 町 大阪市	寺院と史蹟 町の歴史 沿革	六六 六八 七〇	二 一 一
三月 三時間	大阪市	史蹟 自然 人文	七二 七四 七六	一 一 一

郷土の觀察教師用と大阪郷土の觀察の比較

大題目	郷土の觀察教師用	小題目	頁數	時間配當	作業
一、見はらし（四時間）	展望		二	④	寫景圖 方位距離圖
二、學校と家（四時間）	學校	私の學校 家から學校	一〇 二〇	③ ①	測定 平面圖
三、郊外（七時間）	山・川・海など	野原・山・川 海	一六 四〇 二八	⑤ ②	寫景圖
四、天氣（四時間）	氣候	梅雨 二百十日 彼岸 節分 氣候のまとめ	二二 三三 三六 六四	① ① ① ①	グラフ 觀測 測定
五、町（五時間）	村や町	位置・面積・人口 町の家 役所 隣組 町の歴史	二四 二六 三四 三八 六八	① ① ① ① ①	地圖
六、店と工場（五時間）	産業	町の配給所 町の店 工場	四六 四八 五〇	② ① ②	
七、交通（三時間）	交通	道路・停車場 河川 航空・通信	五四 五六 五八	① ① ①	地圖
八、神社と寺院（四時間）	神社と寺院	神社 寺院と史蹟	六〇 六六	② ②	
九、大阪市（四時間）	村や町 史蹟	沿革 史蹟 自然 人文	七〇 七二 七四 七六	① ① ① ①	地圖

教材（四月四時間中の第一時）

教材　見はらし

（四時間中の第一時）

要旨

児童の生活の場所である郷土を屋上等なるべく高い所から展望させ、その景觀を大觀させることによつて、「觀土の觀察」の興味と態度を養ひ、方向を興へ、郷土に對する親しみを感じさせると共に、その觀察に即して郷土に於ける正しい方位を知らせる。

要項

1 教室での指導
2 現地での指導
　イ 自由觀察
　ロ 觀察事項の發表
　ハ 八方位の確定
　ニ 主要地物の方位

注意事項

取扱上の注意

1 「見はらし」であり、それは「四方の眺め」であるから、なるべく天氣のよい日と、十分四方の展望餘裕の出來る場所とを選んで其の効果を大ならしめねばならぬ。場所としては學校の屋上の展望臺が最も好適地であるが、屋上のない學校では最上階の教室の窓を利用するがよい。學校附近に高層建築があるならばそれを選ぶもよい。又お天氣が悪ければ日を繰りかへるがよい。然し二十米以上の高所からの撮影や寫生は防諜上禁止されてゐるから第二、三時の指導については注意せねばならぬ。

2 見はらす以前に教室に於て觀察前の指導を行ふがよい。その一つは兒童の管理である。現地への途中や、現地での兒童の管理に注意して危險を避けると共に、他の學級に對する學習妨害にならぬやう顧慮し、又兒童の現地での觀察態度を基礎づける必要がある。他の一つは觀察内容について平素の觀察が極めて漠然としたものであつたことを反省させることにもつて、彼等をして平素の觀察が極めて漠然としてある通り、この指導を行ふことに依なり、又見はらすことの喜びと期待を持たせることにもなつて郷土觀察の態度を方向づけることが出來るのである。

3 方位の定め方で簡單なものは次の三法である。參考までに掲げておく。
（イ）太陽の位置による法――正午に太陽のある方角が大體南であり、日出・日没の方向が大體東・西である。
（ロ）時計に依る法――時計の短針を太陽に向け、太陽と短針と時計の中心の三者が一直線になるやうにすれば、短針と十二時とのなす小弧の角の二等分線のなす方向が常に南である。（但し午前六時より午後六時までに限る。）
（ハ）磁石による法――磁石があればこの方法が最も便利である。但し磁石は正しい南北を指示せず、土地によつて多少の偏差がある。現今大阪では西偏約四度半であることに注意を要する。

4 本時は第三時に取扱ふ方位距離圖の作業の伏線となるのであるから「主要地物の方位」の取扱に於ける主要地物は第三時と同一の地物を選擇しておくべきである。

教具　磁石　紐　白墨

連絡　カズノホン二・私タチの村　初等科算數二・方位

指導例

◇教室での指導

「今日は屋上から見た町の景色を勉強するのだが、屋上から見た景色を思ひ浮べることが出來ますか。」「屋上から東を見ると何が見えますか。」と問うて見る。又「〇〇神社は屋上から見たらどちらの方に見えますか。」等、逆に問ふのもよい。かうして平素の觀察が極めて漠然としてゐたことに氣付かせることによつて、今後の學習を「正シク、タヘシク、明ラカナ觀察」へと方向づけると共に、屋上から見はらすことの喜悦と期待とを持たせる。

教室から屋上へ移動する場合には二列縱隊で靜肅に行動させ、他の教室に迷惑をかけないやう注意し、屋上での規律についても前以てよく注意を與へ、危險のないやうにせねばならぬ。

兒童を校外に引率するやうな場合、四十人、五十人、時には六十人近い學級兒童を一單位として指導することは極めて困難であり、不徹底に終り易く、觀察態度も眹け離いから、全兒童を四班位に分劃し、各班に班長（世話係）を設けておくと今後何かに便宜が多い。

教室を出たならば班別に整列させ、班長の指揮で無言靜肅に屋上へ移動させる。

◇現地での指導

屋上に着いたならば班別に整列させ、指示を與へた後自由に觀察させる。此の際四班を四方位に配置し、順次位置を轉じつゝ各班を夫々一團となつて行動させるのも面白い。その間教師は兒童の觀察態度の傾向を觀取しておく。

自由觀察は極短時間に止め、終れば兒童を一隅に集めて觀察事項を發表させる。觀察の着眼のよい者や、觀察の精緻な者には賞讃を與へ、誤つた觀察に對しては他の兒童の發表によつて之を批正する。

一應の發表を終へたなら、今度は「東の方に何が見えましたか。」の如く、方位を限定して發表させて見る。此の際用ひる方位はその地方で慣用される方位を用ひてよいが、それが正しい方位との間に普通四十五度以内の誤差を持つてゐることを教師は知つてゐなければならぬ。これは社會生活の便宜上、その地方の主要な道路、特に主要な十字路に依つて東西南北の四方位が定められるからであつて時には正しい方位との誤差が四十五度以上に及ぶことさへ珍らしくない。かうした郷土社會の方位が學校にもそのまゝ用ひられ、道路に平行及び直角な線に圍まれ、普通矩形をなしてゐる校庭の相隣る二邊を以て、夫々東西及南北方向と定めてゐる學校が極めて多いことであらう。かうした環境に育つ兒童であるから、初めは此の慣習に依つて觀察させ發表させるがよい。

尚此の自由觀察と觀察事項の發表を融合させて、教師と全兒童とが一團となつて見晴らしつゝ話し合ふのも良い方法である。

以上が終れば方位の指導に入る。それには先づ兒童の使用する方位が正しいか、正しくないかを驗べる方法を問ふて見る。多くの兒童は「磁石」を使用することを知つてゐるであらう。その時教師は磁石を示してその用ひ方を指導し、屋上の一點を定めてそこに磁石を置き、先づ南北方向に紐又は綱を張らせる。次に東西方向にも紐を張らせ、然る後東西線、南北線を白墨で屋上に描かせる。四方位の確定が濟めば八方位に及び、北東・北西・南東・南西について復習する。方位の確定に當つては注意欄にも記した通り、大阪では磁針の北は眞北より四度半だけ西偏するから、眞の北は磁針の北より四度半だけ東になるわけであるが、兒童には之に觸れず、教師の方で紐を張る際手心を加へる程度に留めるがよい。方位の確定が終れば主要地物（五乃至十箇）の方位を正しい方位によつて發表させ、第三時の方位距離圖作業の伏線をしつかりと張つておく。

教材（四月四時間中の第二時）

教材 見はらし

（四時間中の第二時）

要旨

前時に引續いて屋上から鄉土の景觀を觀察させ、之を寫景圖に描かせることによつて、觀察を正確ならしめると共に、寫景圖の意味を體驗に訴へて知らせ、次時の見取圖指導の豫備とする。

要項

1 教室での指導
　八方位の復習
　學級教室での四方位の確定
　寫景圖の描き方の指導
2 現地での指導
　寫景圖作業

注意事項

取扱上の注意

1 學級教室に於ける方位確定は、教室が兒童の生活場であるだけ、それだけに價値の多いものであるから是非實行するがよい。教室の中央を基點として前時の方法に準じて方位を測定し、紐と壁面との切合ふ點に、夫々東・西・南・北と記した紙片を貼付し、今後何かと機會ある毎に之を利用して正しい方位を身につけさせるべきである。

2 寫景圖は鳥瞰圖ともいひ、又繪圖とも言ふ。地圖の最も原始的なものであつて、鐵道の沿線案内等によく用ひられてゐる。山は山の形を、建物は建物の形をそのまゝ描くもので、尋常小學地理書附圖の例圖にも繪圖の例が地圖と對照して示されてゐるから、教師は之を參照してよく理會した上で、作業前教室でその描き方を說明するがよい。

3 屋上から見晴らした鄉土の景觀（景色）については、地理學的歷史學的なむつかしい事はさておき、主要な建物の名や、その内容については教師は豫め十分な調査研究をしておかねばならぬ。その學校に赴任後間のない教師は尙更である。之を怠ると鄉土觀察、隨つて鄉土の認識理會に於て教師が兒童に劣る結果となり、本課指導の最重要條件を失ふことになる。本課指導に當る教師はせめて通學區域内を隈なく歩き廻つて實地に觀察を行ひ、主要事象のみならず、街角のポストや公設市場の雜沓、さてはうどん屋や雜貨屋の店先から夜店の光景に至るまで、眼前に思ひ浮べ得るほどに兒童の鄉土を理解し知悉しておくことが望ましい。かうした教師でなければ到底兒童の鄉土感情にまで觸れた指導を行ふことが出來ない。

4 寫景圖は眼に見たまゝを簡單にスケッチすればよいのであるが、寫生力の少い初等科四年の兒童のことであるから、到底四方位に亘つて本時限中に描くことは無理である。兒童を四班に分つて四方位に配置し、兒童一人當り一方位の寫景圖を描かせ、之を教室の背面に貼出して見させることによつて、寫景圖作業を終ることにするがよい。

準備

磁石　紐　東・西・南・北と記した四枚の紙片　畫用紙、畫板及色鉛筆（兒童）

連絡

カヅノホン二・私タチノ村　初等科算數二・方位

指導例

◇教室での指導

先づ前時の樂しかつたことを話し合つてから方位の復習に入る。八方位の名稱を復習し、方位を知るには磁石を用ひるのが便利であることを繰返しておく。

次に教室に於げる方位を問うて見る。前時に實習した屋上と、兒童の現在ゐる教室との位置の關係によつて、大ていの場合は教室での方位が不明瞭なのが普通であらう。そこで教師は「此の教室での正しい方位をしらべて見ませう。」と告げて、前時の方法に準じ、教室の中央から見た四方位を決定する。即ち教室の中央に磁石を置き、前時に使つた紐を磁針の方向に張り、紐が壁面と切合ふ點に夫々北・南と記した紙片を貼付する。次にそれに直角に紐を張り、同樣東・西と記した紙片を貼付する。更にその中間位たる北東・北西・南東・南西をも實地に練習しておく。

此の作業が終れば「それではこれから屋上へ行つて東西南北の景色を寫生しませう。」と告げ、寫生は寫生であるが圖畫を描くのではなく、寫景圖を描くのであることを知らせ、寫景圖の見本を見せ又教師は假想の寫景圖を描いて見せることによつて、寫景圖の意味とその描き方を納得させる。

尙時間の都合上、四方位について四枚の寫景圖を描くことが出來ないから、注意欄に述べた通り、四班の兒童を四方位に配置して描かせるがよい。

◇現地での指導

畫板と畫用紙と鉛筆を持たせて兒童を屋上に導き、直ちに寫景圖作業に取掛からせる。

教師は此の間兒童の作業を巡視し、適當な注意や指導や指示を與へる。

寫景圖はスケッチ或はクロッキー式に直截簡明に描き、而かも短時間に描かせ、景觀の特徴を描寫させる。色鉛筆で色彩を加へさせるにしても極淡彩に止める。建物や街道等の主要な事象には固有名詞を圖中に書き加へさせるがよい。事物の名を知らない兒童の質問には隨時答へてやるだけの用意がなければならないことは注意欄に述べておいた。

寫景圖作業の終つた後尙時間に餘裕があれば兒童を教室に引率するか、又は屋上の一隅に集めて作品を展覽するがよい。

恐らくは時間が不足を告げる程であらうから、その場合は教室の背面に兒童の作品を貼付し、自由に比較觀察させると共に、自己の描かかつた他の三方位の寫景圖について注意して觀ておくやう指導するがよい。

◇備考

1 前時の注意欄にも述べておいたが、戰時下の今日、二十米以上の高所からのスケッチは、寫眞撮影と共に防諜上嚴禁されてゐるからよく注意せねばならぬ。

普通の學校の屋上や露臺や展望臺では、二十米を超えることは先づないが、百貨店其の他の高層建築の屋上は二十米を遙かに超えてゐるから、かういふ場所を利用する際は必ず警察署へ屆出ておく必要がある。

2 連絡欄に記しておいたカヅノホン二の四十九頁「私たちの村」の挿繪は、立派な寫景圖である。

教材（四月四時間中の第三時）

教材 見はらし

（四時間中の第三時）

要旨

前時に引續き屋上から郷土の景觀を觀察させ、郷土の主要地物の距離を目測させることに依つて、距離目測の基礎的修練を行ふと共に、主な地物を記號を用ひて、方位距離圖に記入させることに依つて、郷土並びに地圖を理會する基礎とする。

要項

1 教室での指導
　方位距離圖の描き方の指導
2 現地での指導
　主要地物までの距離目測
　方位距離圖の作業

注意事項

取扱上の注意

1 距距目測の基礎修練をするのが、本時の一目的であるが、距離の目測はなか〳〵困難なものである。それで郷土の主要地物の中で、學校から丁度五〇〇米とか一〇〇〇米とか、一五〇〇米等の距離にあるものを一つ二つ選んで知らせ、之を基準として他の地物への距離を目測させるがよい。隨つて教師は豫め郷土の主な地物への距離を圖上で測定しておかねばならぬ。

2 圖上での距離測定は次のやうにすればよい。即ち圖上に物差を當てゝ學校と地物との圖上での直線距離を測る。今これが五糎であつたとし、此の地圖の縮尺が二萬分の一であつたとすると、5cm×20000 即ち5cm×20000と計算して實距離が一〇〇〇米であることを知るのである。

3 方位距離圖はザラ半紙一枚に納まる程度のものとし、謄寫版で印刷するがよいが、各學校でよく調査研究した上、毎年使用し得るやうに活版で印刷しておくと便利である。方位距離圖の距離の刻み方は各學校の實狀に即して選定するのであるが、これは次の主要地物の選擇に依つて決定さるべきものである。即ちこの方位距離圖の一隅に豫め選定し、第一時にも取扱つておいた五乃至十箇の郷土の主要地物の固有名詞と、それをあらはす記號を刷込んでおくのである。此の記號について「郷土の觀察」教師用書の四頁及一四頁の記號を參照し、なるべく一般的な記號を用ひなければならぬ。

4 此の課の指導に當つては大縮尺の大きな郷土地圖がほしい。これを作製することは莫大な勞力と時間を必要とするけれども、教師はパンタグラフ等によつて適當な郷土地圖を擴大淨書し、着色した上、之を掛地圖に表裝しておき、郷土の觀察の授業に際し、隨時活用してほしいものである。

教具

郷土地圖、方位距離圖（兒童用及教師用）

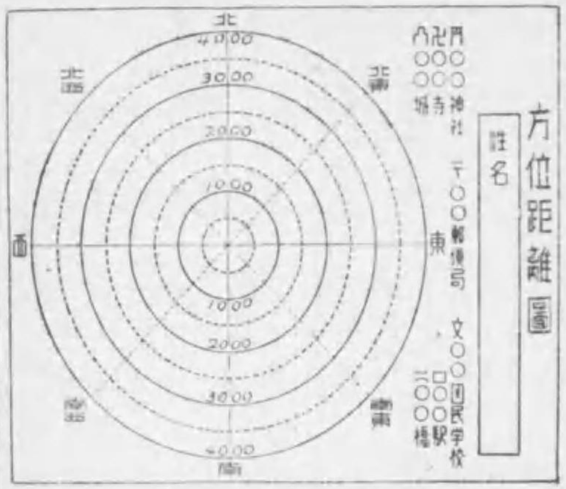
連絡

カズノホン二、私タチノ村　初等科算數二、方位

指導例

◇教室での指導

「前時には寫景圖を描きましたが、今日はもつと簡單に描いて周圍の景色を全部描くことにしませう。」と告げて、方位距離圖を配布し方位距離圖の描き方を說明する。即ち次のやうに方位距離圖の作業用紙の一部に刷込んでおいた地物名に注意させ、これらの地物の方位は前々時に調べたことを想起させる。そして本時の作業には方位だけではいけないこと、距離を調べる必要のあることに氣付かせる。



然る後一地物、例へば○○驛が眞北に在つたことを想起させ、しかも學校から○○驛までは丁度一○○○米距つてゐることを教へ、豫め教師が小黑板に板書しておいた教師用方位距離圖上にこの驛を記入して、本時の現地作業の示範を行ふ。此の際方位距離圖の中から驛の記號を發見させ、その記號を使つて教師は教師用方位距離圖に作業を行ひ、兒童も之に倣はせる。これが濟むと、「○○驛はこれで濟みましたから、ほかのものの距離を屋上から調べ、それが濟んでから、それらをみなさんの方位距離圖に描いてもらひませう。」と告げて、兒童を屋上に引率する。

◇現地での指導

現地に着くと直ちに距離目測の指導を行ふ。それには先に教室で教へた○○驛の距離一○○○米を基準として他の地物の距離を類推させるのである。兒童の距離觀念は極めて曖昧なものであるから、定めし突飛な答も飛出すであらうがそれらを適當に誘導して教師が豫め圖上で測定しておいた正しい距離（但し概數）へと導く。

これが一通り濟むと前々時に取扱つたこれらの地物の方位を想起させ、距離と方位を結合して方位距離圖へ作業させる。同一種類の地物を二箇以上選擇した場合は圖上にそれらの固有名詞を記入せねばならぬが、さうでない場合はその必要はない。

方位距離圖の作業に當つては教師も兒童と共に小黑板上に同一作業を行つてもよいが、情況によつては兒童に自由に作業させた後、教師が一齊批正の意味で、兒童に作業結果を發表させたり、ながら小黑板上に作業を行ふもよい。何れにしても作業が濟んで時間に餘裕があれば、各自の作業した方位距離圖によつて地物の方位と距離を讀取らせ之を發表させて、讀圖の練習としたいものである。

教材（四月四時間中の第四時）

教材　見はらし
（四時間中の第四時）

要旨

前三時間に亘つて觀察し作業させた結果、兒童の觀察態度が漸次出來て來たことであるが、本時は更に之を綜合的に復習し練習すると共に、一層觀察を深めて展望し得る限りの鄉土の事象の分布に着目させ、各方位に於ける鄉土景觀の特徴に注意させる。

要項

1 主要地物の名稱・特徴並にその方位と距離の綜合的復習
2 事物の分布
　山・川・海
　田・畑
　道路・鐵道
　工場
　商店
　大建築
　史蹟・名勝
　其の他
　がどちらの方にあるか
　どちらの方に多いか
3 各方位の景觀の特徴
　イ 北寄りの方に何が多いか。
　ロ 東寄りの方に何が多いか。
　ハ 南寄りの方に何が多いか。
　ニ 西寄りの方に何が多いか。

注意事項

取扱上の注意

1 本時は前三時間に亘つて觀察し來つた鄉土の景觀を整理し綜合し以て兒童の鄉土觀察の態度と方向を確立するのが主要目的であるから、前三時間に取扱つた事項と密接に關聯しつゝ取扱ふべきである。

2 要項(1)「主要地物の名稱・特徴並にその方位と距離」の取扱に於ては、主要地物についてはは主として前三時間の復習を行ふがよい。即ち「方位」に於ては學校の丁度眞北・眞東……等に富る地物を、又「距離」については學校から丁度五〇〇米、一〇〇〇米……等にある恰好の地物を特に印象深く取扱ひ、鄉土の方位を實地に確認させると共に距離目測の基礎をしつかり修練すべきである。

3 要項(2)「事物の分布」の取扱に於いては、事物を指示し、兒童にはそれの存在する方位やそれの卓越する方位を擧げさせる。而して本物としては今まで三時間の間觀察の中心として來た主要地物に拘泥することなく、上欄に示したやうな種々の事物の中、鄉土に關係深いものを選ぶべきである。

4 要項(3)「各方位の景觀の特徴」の取扱に於いては方位を指示し、兒童にその方位に於ける特徴景觀を擧げさせる。即ち要項(3)と(4)は立場を逆にするものに過ぎないのであつて、此のへんの所は指導例に於いて具體的に述べておいた。

5 兒童自身が自分の家を學校の屋上から發見すれば大へん喜ぶことであるから、兒童の家の方位と距離を發表させることによつて、方位と距離を興味的に取扱ふことも面白いであらう。

教具

鄉土地圖

連絡

カヅノホン二、私タチノ村　初等科算數二、方位

指導例

◇主要地物の名稱・特徴並にその方位と距離

最初から屋上に引率して直ちに本時の指導に入る。先づ本項では第一時第三時に共通材料として取扱つた主要地物の名稱や特徴を復習する。しかもその際それらの地物の存在する方位とその地物までの距離を復習し、鄉土に於ける具體的な方位と距離をしつかり摑ませることが大切である。例へば「向かふに見えるあの鐵骨コンクリートの骨の見える建物は何でしたね。」と尋ねて「大阪驛です。」と答へさせ「さうでしたね。あの驛は大阪の陸の玄關として毎日たくさんの汽車が發着し、たくさんの人が乘降りする大切な所でしたね。」「大阪驛はこゝからどの方向に當るのですか。」と言つて「眞北より一寸東寄りです。」と答へさせ、すかさず「大阪驛までの距離は？」と突込んで「丁度一粁です。」と答へさせるやうにするのである。

◇事物の分布

こゝでは今までのやうに主要地物のみに限らないで、展望の視界に入る限りの鄉土の事象についてその配置即ち分布を問題とするのである。これが即ち眞の鄉土の展望であつて、大觀であつて、全地物、全事象を觀察の對象とする。然しその取扱に當つては教師の方から鄉土に卓越する事象につき順次之を指摘し、之について重點的に指導すべきであつて、徒らに散漫な單なる眺めに陷ることは極力避けなければならぬ。

例へば「工場はどちらの方にたくさん見えますか。」と問題を提出し、「西から北にかけてたくさん見えます。」と答へさせ、兒童と共に西北方面の工場地帶を展望しつゝ話し合ふのである。その際煙突の數等を數へさせて、他の方位に於ける煙突の數と比較させ、東の方や南の方にも工場が存在するけれども、その數が比較にならぬ程少いことをはつきり摑ませるやうにするのである。かやうに數へるといふことは漠然たる「多い。少い」の觀念よりは一歩進んだ方法であり、態度であつて、觀察を精緻ならしめる所以であるから、適宜採用すべきである。但し數へることの出來ないものは强いて數へることなく、全體的直觀によつて比較させるべきであることは論を俟たない。

◇各方位の景觀の特徴

これは前項の逆の觀點に立つて鄉土の景觀（景色）即ち事物の分布を觀察させるものであつて、前項と共に鄉土の地物を孤立的に見ず、事物を集合即ち群に於いて觀察し把握させるものである。

例へば「東寄りの方に何がたくさん見えますか。」と問ひ、「大きな建物がたくさん見えます。」と答へさせる。更に進んでは「大きな建物がたくさん見えます。主なものは、〇〇ホテル、〇〇ビル、〇〇新聞社、〇〇百貨店等です。」或は「〇〇ホテル、〇〇ビル、〇〇新聞社、〇〇百貨店等の大きな建物が立並んでゐます。」と答へさせる。

× × ×

以上で四時間にわたる「見はらし」の指導を終つたのであるから、時間の許す限り、質問を受けて應答するなり、或はそれを共通問題として兒童に考へさせるがよい。

教材（五月四時間中の第一時）

教材　私の學校（三時間中の第一時）

要旨

學校の名稱を通して、國民學校の精神を知らせ、學校の位置を大阪市全體より眺めさせてその位置を明らかにする、又學校の歴史を知らせる事によつて愛校心を養ふ。

要項

1 學校の名稱
　イ 大阪市○○國民學校
　ロ 學校の徽章
　ハ 國民學校の精神
　ニ 改まつた二、三について
2 學校の場所
　イ 大阪市○○區○○町
　ロ 大阪市の……例東部
3 學校の歴史
　イ 開校記念日
　ロ 設立年度
　ハ 設立より何年か
　ニ どこより分れてきたか
　……（新しい學校）
4 隣接國民學校名稱・位置・方位等
5 校舍について
　イ 正門の向　例：西向
　ロ 校舍の方向　例：南北
　ハ 寒安殿はどこにあるか
　ニ 自分は常にどちらに向つて坐してゐるか　例……西
　ホ 木校舍、木の高さ

注意事項

取扱上の注意

1 學校の名稱については昭和十六年四月改稱されたのであるから兒童の頭に印象深い事と思ふ。之と同時にその目的（天皇陛下のお役に立つ國民をつくる）を明かにし、改つた事項の一、二、について説明する。

2 御眞影の下賜は學校の歴史上重要事項であることを知らせ、日本が天皇を中心とする特殊な國家であり、學校が天皇に歸一し奉る國民の教育所である重大使命を有する所以を理會させることを忘れてはならぬ。

3 學校の名稱、學校の徽章に、各々歴史と意味とがある事を知らせること。

4 學校の場所については、區によつて大阪市のどの邊り、（中央部、東部、西部、南部、北部）に位する程度に指導する。

5 學校の沿革については、設立舊き學校はその學區の昔からの發展が豫想され又新市街の如く設立淺き學校はその學區に於ける目覺ましき發展によることを想像させる。

6 「設立より今日まで何年か」については、明治・大正年度に建築された學校に於てはやゝ難問と思ふ。適當に指導も算出させる。

7 前時と連絡し學校の向等を知らせ、八方位の觀念を益々明瞭にする樣指導する。

準備　學校沿革の大要　設立年月日　隣接學校の名稱及方位

連絡　算・三・上（校舍ノ高サ）　讀・三　國旗掲揚臺

指導例

私の學校の指導に於ては　一、學校の名稱　二、學校の場所　三、學校の歴史までは教室内に於て指導し隣接學校以下の項目は屋上又は適當な場所に於て指導する案であるが、初めから屋上（適當な場所）で指導を行つてもよい。

◇教室での指導

一、學校の名稱　二、學校の場所　三、學校の歴史　以上の三項目の指導は簡單な事項であり前頁參照の上充分指導し得る事と思ひ省略する。

尙屋上に出る前に兒童のノートに前教材で指導した如く垂直に交る二直線を引かせ、その交叉點上に本校と記入させ、又その線の兩端には夫々上に北、下に南、右に東、左に西と書き入れさせる。これを持たせて屋上（適當な場所）に集合させる。

授業時間中で他學校の迷惑にもなり、又殘餘の時間も少い事であらうから靜肅敏速に行動をさせる樣注意が肝要である。

◇屋上の指導

前時屋上での見晴しに於て指導した如く兒童を引率し屋上（適當な場所）に集合させる。觀察物は前教材の中、特に隣接校のみ選ぶのであるから短時間になし得る事と思ふ、即ち指導者は北方に位置する學校を指さし前時のことを復習しながらその名稱及方向等を兒童に發表させ北方であることを再認識させる。漸次西（東）廻りをなし一々について名稱を問ひその方向を發表させる。一廻轉し基の位置にかへればノートを開かせ學校の位置を圖上に記入させる。尙今少し正確に記入させようとすれば豫め針を數本用意させておく。ノートの縦の線を常に南北線に一致する如く保たせながら、先づ中央の交叉點に針を立てる。針を通して隣接學校を望見させ中央針と學校の姿が一致する點に用意しておいた第二針をつき立て二つの針を結べば割合に正しい方向を知り得るのである。この樣にして次々に體を廻し針を立てこれを中央と結べばよいのである。距離については縮尺の觀念乏しく正確な事は期待し難いから近い學校は近く遠い學校は遠く表現出來てゐればよい程度に指導する。しかし餘りにも極端に遠近が圖示されてゐる者や反對に表はれてゐる者方向の正しく書けてゐない者等は適當に個人指導をなし訂正すべきである。

出來得れば方向距離の正しく表現した模範的に圖を指導者において作製しておいて之を最後に兒童の前に掲げ符號の指導、縮尺の指導をなせば尙一層有効であらう。正門の向、校舍の方向、御眞影奉安庫の向等を兒童に答へさせ又磁石を使つて實測させ磁石の使用方法について指導する事も大切である。時間が許せば校舍の高さ、木の高さ、國旗掲揚柱の高さ等についても實測させればよい。（算數と連絡）

教材（五月四時間中の第二時）

教材　私の學校
（三時間中の第二時）

要旨

簡單なる學校平面圖を與へ、これによつて方位・縮尺の觀念を明らかならしめると共に圖上に著された學校と實地とを對照させることによつて、讀圖力を養ひ、併せて學校に對する親しみの念を一層深からしめる。

要項

1 學校の平面圖配布
2 讀圖指導
○方位
イ　方位の決定
上―北　下―南　右―東　左―西
ロ　正門　裏門等の方位
ハ　我たちの教室の位置及び方位
○縮尺
イ　縮尺の必要
ロ　五百分の一（何分の一）の意味
3 圖面と實地を對照させる
○方位を主として

注意事項

取扱上の注意

1 第一時指導した學校の方位（學校正門の向・校舍の向等）について問を發し兒童に答へさせて、方位の觀念を明らかならしめておくこと。
2 學校の平面圖を與へ、圖上では上は北、下は南、右は東、左は西なることを知らせる。
3 兒童に與へる平面圖は次の如き程度のものとす
○學校の圖面は簡單な平面圖を用ひ校舍は二階以上は省略して一階だけを描き教室名等は次時の作業として課したいと思ふから豫め書いておかないのがよい。
○校舍が正しく北より南、東より西に建てられてゐる場合はそのまゝ圖上に示し兒童に與へればよいのである。しかし建物の方位がやゝ偏つてゐる場合に於いても指導の便宜上北より南、東より西等に訂正した圖を描き、これによつて指導する。
○方位縮尺を必ず圖面の下部に書き示しておくこと。
4 與へた平面圖によつて先づ正門、裏門等の位置をさがさせ、その向はどちらを向いてゐるかを發表させ、圖上に於ける方位と實地との一致をはかる。
5 「我たちの教室」を圖上にさがさせ教室の入口、黑板、教室の窓はどちらを向いてゐるか等を調べさせ圖面による方位の見方に馴れさせる。
6 縮尺の必要は全兒童了解し得ることである。しかし縮尺何分の一といふ言葉に對しては理會してゐない兒童が多いのである。
即ち平面圖を描く場合何分の一かに縮めて描くのが普通であり縮める割合が圖の下に書かれてあることを知らせ、五百分の一ならば、五〇〇糎（五米）の長さを圖では一糎に書き著はれてゐることを明らかにする。
7 圖面と實地を對照させる場合圖面のおき方を考へさせ、指導しなければならぬ。

準備　教授用（學校平面圖）　兒童用（學校平面圖）

連絡　算・三・下　學校の圖面・方位　初・圖畫・一　學校の花だん初・圖畫・二　教室の圖

指導例

簡單な學校平面圖を與へ、これによつて方位・縮尺を指導し讀圖の初歩的指導をなすと共に自己の生活環境を深くながめるの態度を養ふ。

◇教室での指導

1 方位

「學校の正門はどちらを向いてゐますか」と尋ねれば、西ですとか東ですとか答へるであらう。これから發展し校舍の方位等を尋ね既に學んだ學校方位に關する觀念を明瞭にし次の學習の基礎となす。

指導者は豫め作製した學校平面圖を與へ、地圖を見る場合（書く場合）上は北、下は南、右は東、左は西なることを復習し、紙の上下左右の端に北・南・西・東と文字を以て書き入れさせる。

「正門はどちらを向いてゐるか」と尋ね、圖を讀むことによつて兒童に發表させ、又校舍の方位（東―西、北―南）等も發表させる。

「我たちの教室」の位置を圖上にさがさせ、赤鉛筆にてしるしを入れさせる。又教室の入口、黑板の向、教室の窓等の向を調べさせ間違なく發表出來るやうになつて次の說明に移つてゆく。

兒童に與へる學校平面圖については前頁を參照して作製すること、又圖上「我たちの教室」をさがさせる指導に於いて二階又は三階に教室がある場合には一階ではどの教室に當るかを調べさせこれに基づいて記入させるのである。

又兒童に與へる圖の縮尺は「百分の一」「二百分の一」の如き兒童に理會し易き縮尺を用ひ、必ず「何分の一」を明記し併せて縮めた尺を圖の下部に書き示しておくこと。

2 縮尺

大きな面積を占める學校を一紙面に書き表はすのであるから、どうしても縮めて書かねばならぬ事は兒童すべて了解し得ることである。

しかし縮めることを「縮尺」の言葉で言ひ現すことは未だ指導してゐないことであるから、こゝで簡單に指導することゝする。

さて「縮尺五百分の一」とは五百糎のものを一糎で書き表はしゐてることで、圖上で一糎のものは實際は五〇〇糎（五米）なることを明らかにし、圖の下に書かれてある縮めた尺について理會させ、この「縮めた尺」をもつて圖上に書かれたものゝ長さを測ることが出來るのだと指導すればよい。この實際的取扱ひは次の時間に指導することゝする。

◇實地での指導

兒童を引率し校舍、校地の全般を見渡し得る場所（屋上又は運動場）に集合させ、圖面と實地を對照させて、方位の見方の徹底をはかる。この場合、圖面の置き方が問題のところである。

前に指導した如く圖面の上は北なることを再び發表させ、指導者は手をあげて北の方位を示し、その方位に紙面の上を一致さす如く置けばよい。しかし中に間違つて置く兒童も居ることであるからよく氣をつけて指導せねばならぬ。

次に現在立つてゐる場所を圖上にてさがさせ、赤い丸をうつて明瞭にす、正門・裏門・校舍の方位・砂場・花壇等の位置をみさせ、圖上で、それがどこに書かれてゐるかを指摘させ併せて現在地からどの方位にあたるかを發表させる。

かくすることによつて、兒童は平面圖に親しみの念を懷く樣になり、次時の指導と相俟つて、その目的とするところを徹底させる。

教材（五月四時間中の第三時）

教材　私の學校
（三時間中の第三時）

要旨

學校の校舍を圖上並びに實地について測らせ縮尺の觀念を明らかにすると共に、今まで無關心で眺めてゐた學校の諸設備を地圖上に表現させることによつて自己の生活環境を深く觀察する態度を養ふ。

要項

一教室作業
○設備の配置を圖に記入させる。
○校舍の長さ……（圖上測定）
2 屋外作業
○校舍の長さ測定
3 まとめ

注意事項

取扱上の注意

1 前時指導した事項について問を發し、方位・縮尺の正確に把握されてゐるかどうかを調べなほ一層徹底を期す。
2 御眞影奉安所・國旗掲揚臺・職員室・標本室・小使室・花壇・飼育室・砂場等の位置を答へさせ、學校の圖面にそれらの名前を記入させる。
3 縮尺五百分の一（三百分の一）の意味を質し、圖上に於いて一糎なれば實際は五米（三米）なることを徹底させると共に、圖の下部に示してある縮めた尺によつて校舍の長さを測定させる。
又は兒童の持つてゐる尺にて計らせ十糎と測定量を得れば五百倍して五十米と實長を算出させる方法もあるけれども、乘法の程度やゝ高く四年の一學期にある兒童には稍〻困難なりと思はれる。
4 屋外に引率し圖上測定によつて求めた長さを今度は實物に當り測定させ、圖の正確さを知らせると共に與へられた平面圖を一層しらべようとする心持を養ふ。
○校舍の長さを調べるには兒童を班別に分け、一班十名程度となし各班に班長を命じて班長をして統率させ、班毎に卷尺を與へて測らせればよい。
○もし卷尺の數がそろはない場合には各自一米餘りの紐を用意させ、之をつなぎ合はせることによつて一班十米とし、之を以つて測らせる。
5 最後に兒童を校内全般を見渡し得る樣な所（屋上又は運動場）に集合させ、平面圖を正しく置かせてその地點から正門・裏門への方位、距離等を問ひ兒童に答へさせて、圖の讀み方を一層徹底させる。
6 學校の平面圖に着色させるとか、又は自分の家の平面圖を書かせてくるとかを課題として提出する。

準備

學校平面圖　卷尺（又は兒童各自一米餘りの紐）

連絡

算・三・下　學校の圖面・方位　初・圖書・一　學校の花だん　初・圖書・二
教室の圖

指導例

◇教室での指導

前時指導した事項を尋ね方位・縮尺が正確に理會されてゐるかどうかを調べてみる。前時間の最後に屋上（運動場）にて調べた事柄についても尋ね、これより發展させて學校の諸設備を圖上にてさがさせ之等に名稱をつけさせる。
又圖上に記入されてゐないものを見つけ出した場合には、前後左右（北・南・東・西）の關係を明らかにした後、之を圖に書き入れさせる。即ち記念碑等が圖に記入してない場合「記念碑の北は何か」運動場です「南は」正門です「東は」講堂です「西は」校舍ですと答へさせ、圖上ではどこになるかを見つけ出させ、どの位の大きさにどんなに書けばよいかを考へさせ、しるし（記號）を使つて表はす記號の初步的取扱ひをなし、Ω をもつて記念碑を表はすことを知らせる。
又、校舍の長さを圖上によつて測定させ、後實地について測らせ縮尺の觀念を明らかにすると共に圖の正確さを知らせる。
圖上に於いて校舍の長さを測らせる方法。
○コンパスによる測定法
圖の下部についてゐる「縮めた尺」にコンパスをあはせ十米に開かせて、この十米が何回あるか、五回あれば五十米、五・七回あれば五十七米であることを見つけ出させる。
○尺により測り後算出する方法
兒童の各自持參せる尺にて校舍の長さを測り數値を求めてこれを縮尺五百分の一なれば五百倍して計算の結果求め出す方法等がある。
しかし四年程度の指導に於いてはコンパスによる方法が實際的であり「縮めた尺」を活用する意味からも適當であらう。

◇實地での指導

圖上で測定したものと實地とを對照させる意味に於いて一箇所か二箇所指定し、この實長を測らせる。時間も短く又他の學級はそれ〴〵授業中であるから他の迷惑にならぬ樣絕體に沈默させ、正確迅速に測らせることが肝要である。
○卷尺による方法
一班を十米程度にし一班に一箇宛卷尺を與へて測らせる、卷尺が充分にあれば班員を少くして行へばよい、しかし四年程度の兒童中には卷尺の讀み方を知らぬ者も多數ゐる事であるから先づ卷尺の目盛の讀み方を指導し、しかる後に測定に移らねばならぬ。
○紐による方法
しかし前の方法は卷尺が豐富に用意されてゐる場合には可能であるが、卷尺が一・二個しかない場合に於いては不可能となる、そこで兒童各自に一・〇五米位の紐を用意させ一班十名であればこれをつなぎ合せて十米となし、一班五名とすれば五米となる。之を以て校舍の長さを測らせる。
以上によつて圖上測定數値と實測値の近似を知らせて縮尺の意義を一層明らかならしめる。
最後に兒童をあつめ圖面と實地を對照させつゝ方位・距離を發表させ、以上二時間指導のまとめとなす。

備考

前年度研究會發表の「大阪鄕土の觀察」に於いては步測、卷尺測等によつて校舍運動場を測定させこれに基づいて平面圖を書き上げるといふ指導方法をとつてゐるが、やゝ程度高く取扱に適しないので文部省案に基づいて以上の如く訂正した。

教材（五月四時間中の第四時 六月四時間中の第一時）

教材 野原・山・川

（四時間中の第一時・第二時）

要旨

都會から一歩出た子供にとつては青葉の山々さては黄ばんだ麥畑、その間に點綴する苗代等の一つ一つの田園風景は親しみ深いものであらう。その景の夫々は皆互ひに相結び人と相結んでの存在である。その氣持は今子供に解らなくても親しみ深いものと云つた感じを子供に持たせ子供等が持つてゐる觀念を自分達の生活との關係に於いて觀察する方向づけを與へてやりたい。

要項（野外）（次頁に續く）

1 目の屆く限り見えるもの
- ○山—雲
- ○川—橋・舟等
- ○池
- ○野原と作物
- ○村—家・工場等
- ○道と乘り物等

2 山のこと
- ○山の名と形・高さ・傾斜・地質
- ○山の歴史

注意事項

取扱上の注意

1 五月中に行はれる郊外進出なり、又遠足を利用するやうにしたい。そのために二時間を充てた。本題材は必ず實地でやるやうにしたい。

2 出發以前に於て教師は豫じめ觀察地を選定し豫備調査をなしておく事が必要である。從つて要項はその觀察地の模樣によつて適宜取捨し現地に合ふやうにしたい。又現地の模樣によつて要項にある如き觀察材がない場合もあるから、二學期の郊外の題材とよく見比べて適宜取捨せられたい。此の場合考慮しておくのは遠足地なり、又郊外進出豫定地を第一學期、第二學期同一場所にするか、又變更するかに依つて異なつて來る事を充分に注意しておくべきである。

3 觀察は展望のよく利く場所を選定して觀察したものを自由に發表させるがよい。子供の觀察は恐らく個々的な事象をのみ發見して答へるであらう。その答を教師は良く吟味し一通りの發表が終ればそれを適當に分類して說明を與へて行くが良い。けれどもその說明は餘り深入りせず個々事象の相關性を包含したゆとりのある說明を與へ子供が自然に發見出來るやうにしたいと考へる。

4 山地に於いて觀察する際には山に對して相當突込んだ說明を與へてやるとよい。難しい話は與へないでもよいと思ふが、山道と傾斜との關係、小さな流れ、地肌、樹木の種類等に注目させ山が果してくれる有用性と云つた點に力向づけて綜合的に取扱ひたい。

尙山を遙望する地點ならばその山の名前、高さ等に觸れ山の連續してゐる事に注意させ、峠等を指摘する事が必要である。

又山に對する歴史との關聯性も充分に考へておくべきで若しも千早、金剛山等が子供の口から發する場合にはそれに聯關して楠公父子の誠忠を話すことを忘れてはならない。

金剛山（一一一二米） 二上山（五三二米） 生駒山（六四二米） 妙見山（六六二米）
葛城山（八五七米） 六甲山（九三二米）

教材（五月四時間中の第四時 六月四時間中の第一時）

要項（前頁より續く）

3 川のこと
- ○川の自然（流水方向・速度・水色 川原・川の侵蝕・堆積・堤防・右岸左岸等）
- ○川の利用（用水の取入口・工場用水・交通等）
- ○川と生活（境界に利用・河川治水の歴史等）

4 池のこと
- ○池と田畑

5 耕作景のこと
- ○田と畑の區別（水利の便・不便）
- ○耕地の形と大いさ
- ○現在の作物と種類分布
- ○耕地の經營

6 村のこと
- ○村の大いさ・形 民家の分布
- ○村と村の距離

7 道のこと
- ○畦道・小道
- ○道の用途

8 農をする人々の努力

9 作業をさせる
- ○寫景圖を書かせる。

注意事項

取扱上の注意（前頁より續く）

5 川の附近に於いて觀察する際には川に就いて大體左の如き點を考慮したい。

イ 自分等の立つ場所が堤防であるか右岸か左岸かを先づはつきりさせる。又堤防の高さなどを測量させるも面白いし、川幅の目測練習をなし、發橋を步測させて比較する等のことも面白い。

ロ 又河川に見出せる諸種の施設もよく觀察させるがよい。量水標、樋門等に注意させ、何にして灌漑に用ひられるかを考へさせる。水車等が掛けられてある時はよく觀察させる。そして尊き水の流れである事に注意させる。

6 耕作景は子供として氣付くのは作物であらう。その作物の種類を敎へその有用性を說いてやる。即ち我々人生との關係を明らかにしてやる。そして其の邊に施設されてゐるであらう野井戸・はねつるべ・風車・堆肥舍等と關聯づけて農を營む人々の勞苦に想到する樣に觀察させたい。

尙繼續的に觀察する樣に注意を與へておくがよい。

7 聚落・道路景については餘り深入りさせないがよい。唯神社が發見さるゝならば神社を中心として孜々として勵む人々の姿と云つたものを話してやるやうにする。

8 尙さん〳〵と降り注ぐ初夏の陽光、夏の訪れを思はせる空、雲風の動き、青葉の森、黄味がゝつた麥、出揃つた苗代、そこはとりん〳〵の草花、鳥虫など自然と人の心も淸新な感じに引入れられる。その淸新な感情を織り交ぜて前記要項を主として行く心遣ひも欲しいものである。

9 適當に寫生などをさせるも良い。此の際には出來得る限り忠實に立體的感じを出す樣工夫させるがよい。若し同一地點を來學期再び訪れるとするならば良き手掛りとなるから。

指導例

◇出發まで

教師側に於て豫め適當な地點を撰定しておく事が必要である。學校の郊外進出豫定地、又は遠足地の配當表に入れておくやうにするがよい。そして豫備調査をなしておく事が望ましい。現地を中心として陸測地圖で以つて研究しおくと尙更よい。

◇現地での指導

適宜展望の利く地點を占める山腹と云つた場所などがよいかと考へる。青葉は次第に濃綠ならんとする候、將に發刺とした清新感が邊りに漲つてゐるだらう。口々に何かを云出さんとするを制して「これからこの場所で勉强するのだが今日の勉强は野原を主としてやりたい。それでみんなが先づ自分の目の屆く限り見える野原の景色について何でも見たもの等を云つてもらふ。」と切出して暫時觀察せしめる。

偖子供の答を聞く。子供等はそれこそ思ひ思ひに答へるであらうが、それを適宜指名しながら答へさせ、その際には出來得ればその觀察したものを指示させ乍ら答へさせるがよい。山の事を云ふものもあるだらう、川の事を云ふもの、池・作物のこと、或は村・工場の事、時には雲などを言出し、一脈の微笑味を漂はす子等もあるだらう。それらの答へを肯定してやるがよい。出盡した頃を見計つて「君達は良く見てゐるが氣のつかない所がある。」と注意してやる。「それは脚下を忘れてゐる事だ。」と注意して山の說明に入る。「今山のどの邊におるだらうか。」と問ひ掛けて見るがよい。山の中程とか或は山の腹などを答へるだらう。そこで山腹と敎へてやるがよい。頂上であれば山の頂といふ事を敎へ、或は麓であれば山麓と云ふ事などを敎へ、引續き谷があれば谷を、そしてその水が何處から出て何處へ流れて行くかを注意させるがよい。草叢から滴り出る水などが發見されゝば好都合である。樹木にも鋭き目を向けさせる。知つてゐる木の名などを擧げさせるのも面白い。そしてその木がどんな所に使はれるかと云つた風に人生との關係をおぼろ氣にでも觸れておく。

山を望見する箇處では山の形について注意させる。高い所と低い所がある。「人々はどんな所を通つて行くだらうか。」と注意を投げ掛け峠の存在を知らせる　山の高さなども知らせるが良い。算數と連絡をつけて山の高さは平均海水面よりの垂直高であること、著名な山の高さについて知らせる。

かうして山の自然的方面を濟ませてから山について知つてゐる事を問ふて見る。子供は遠足で行つたとか、或は兄と登山したとか、寺へ詣つたとか答へるであらう。時としてはトンネルがあると答へるかも知れない。その答は皆んな人生との關聯に於てのものである事に注意するがよい。その答を更に追究して「君等は何故山へ遠足などするのだらう」「何故山の中に寺があるのだらう」と問ひ掛けて見ると面白い。

「身體を丈夫にするため」とでも答へてくれゝば結構であるが、恐らくこの答は滿足なものがないと思ふ。そこで敎師が說明を與へてやる。けれども理論的に與へ樣として却つて難しくなるかと思ふ。

◇現地での指導（前頁より續く）

そのために實例を擧げて「皆さんも知つてゐる通り、楠木正成公は千早、赤坂に城を築かれ、金剛山を背景にして戰はれ小楠公は飯盛山を背にして四條畷で戰はれ、又畏くも　神武天皇は孔舍衛坂で御苦戰あそばされた。信貴山・生駒山等には寺があつて人々が多くお詣りする。この樣に大變人々と昔から關係があるし、又今の人々も山で身體などを鍛へ、近頃ではグライダーの練習などもする。ほんとに山と私共は切つても切れない關係があるのは山が私達に色々と利便を與へてくれるからで、一つの例は山が立派な陣地、前に話した大楠公の千早城などの樣になつてゐるからである。さう考へて行くと皆さんにも解るだらう。」と、でも話してやりたい。

時には此の樣な歷史的な事項を先きに操り上げて話してやるもよいかと思ふ。

川の堤防などで觀察する際には右岸か左岸かをはつきりさせる。下流に向かつて立たせて見るが良い。そこで必然的に上流・下流の話義を知らせなければならない。次に川にある諸施設をよく觀察させる。大和川・淀川等の河川であれば橋のこと、樋門のこと、川船のこと、護岸工事のこと等が見られるであらう。それらの點について說明を與へ、人々が如何にして川を、否水を大切にしてゐるかに話を進めて行く。河に對する先輩の頌德碑等があれば話をしてやるがよい。

山腹等から眺めて河川を知らせる際には前述せる谷川の流れを追究させて尋い水の一滴が寄り集まつて溪流となり小川となつて流れて行く樣を指示してやる。そしてその水が田に引かれる點に注意させる。水車が掛けられてあるならば好都合である。「どうして水車などを掛けてあるのだらう。」と、問ふて見る。子供はたんぼに水を入れるためと答へてくれるだらう。尙そこで更に「田には何故水が必要なのか。」と、尋ねて見る。稻を育てるためにと歸着點を見出すであらう。そこで水田と云ふことを知らせ稻を作るために水が必要なことを說き、更に野井戸のある事、或は風車なども存在してゐる事と聯關させて說く。

けれども此の觀察をなす時分は苗代のみで大部分は麥畑であらう。又所々にれんげ畑もあるだらう。それが爲めに水田の事は子供の頭にぴんとしないかも知れない。それで現在の作物の分布、特に麥について知らせ、五穀の一としての重要性を知らせ、もう直ぐに刈りとられて後は水田となる。その用意として苗代のあることを附加してやる。此の樣にしてたんぼが巧みに利用せられてゐる事に關心を持たせ繼續的に觀察する樣に注意させる。しかし時にはれんげ畑などを不思議がる子供があるだらう。その時には唯徒らに遊ばしてあるのでなくて、たんぼに榮養分を與へてゐる事を日光と植物の關係を簡單に話してやるがよい。かくて水と日光、たんぼと稻・麥・野菜とそれらの間にあつて努力する農民の姿を見出させる樣にしたい。その人々の住家として村があること村から田へ行く道、更に小徑のあること、その小徑によつて田が區劃せられてゐる事等綜合的に工夫しつゝ取拔ふやうにしたい。常に我々の生活と根基に於いてつながりのある事を念頭にしながら、尙寫景圖は忠實なる寫生がよいと思ふ。畫用紙の裏面に說明を自分でつけさせておくと面白い。

（敎師用書參照）

教材（六月四時間中の第二時）

教材　家から學校（一時間）

要旨

通學地圖を與へ、之れに毎日往復する通學路・地物等を記入させ、又は距離を測定させる等の作業を通して、方位・縮尺・符號等の觀念をまた〳〵明瞭ならしめると共に地圖に對する關心をたかめさせる。

要項

1 通學地圖を配布
2 學校の位置
3 我が家の位置をさがさせる
　イ 圖上での說明：（方位・縮尺・地物）
　ロ 「我が家」に赤丸をつけさせる
4 通學の通筋
　イ 通學路記入
　ロ 通學路上の主な地物の位置を記入させる
　（記號の讀み方・描き方指導）
5 家から學校までの距離測定

注意事項

取扱上の注意

1 本時指導に當り先づ通學地圖（謄寫刷にした學校通學區域圖）を用意しなければならぬ。
2 通學地圖を配布し先づ地圖上での學校の位置をみつけ出させる。學校は教師用書に示してある如く校舍と運動場を示す程度に著はし兒童をして直ちに指摘させる樣にしておくとよい。
3 指導者は兒童中より一、二名ぬき出して、その兒童の家の所在地を明らかにすると共に說明を加へて〇〇橋が地圖ではこゝ、〇〇ビルがこゝと實際の地物が如何に表はれてくるかを知らせる。
4 各自兒童に自已の家の所在地を調べさせ地圖上に赤丸を入れさせる。その間机間巡視をなし個別指導によつて訂正をしなければならぬ。
5 家から學校までの通學路を鉛筆にて記入させ、その通學路上に存在する主な地物を記號によつて記入させる。
　記號の決定については兒童との話し合ひの中に定める。主なものは文部省教師用書一四頁に掲載されてゐるからこれに準據しその外は適當に決定すればよい。
6 通學路の距離を測定させるのであるが先づ圖上にて測定させ、實地については課外とし步測等の方法によつて測らせてみる。
　道路は屈曲せる場合が多いのであるから、糸を通學路上に一致させこの長さと縮尺とを對照して實際の距離を見つけ出させるか。又はコンパスにて一部一部の直線距離を測り縮尺に對照させて實際の長さを出させ、最後に之等を加へて距離を算出させるかの方法をとり、縮尺の利用に馴れさせる。
7 汽車・電車・バス等によつて通學せる兒童及び學校に極めて近い兒童に對しては適當な題材をあたへ指導すること。

準備

教師用學校通學區域圖　兒童用通學地圖（學校通學區域圖）

指導例

◇教室での指導

本時指導に當り先づ通學地圖を謄寫刷にて作製し用意しなければならぬ。この地圖は白地圖となし地物の名稱等は記入しないでおくこと、學校の平面圖で書いて於いた如く方位縮尺（千分の一）及び縮めた尺等は必ず圖の下部に明記して欲しい。

本時は家から學校までの通學路を調べることを知らせ、通學地圖を配布する。これに基づいて先づ學校の位置を探させ各自指でおさへさせる。（學校は校舍と運動場を別け示す程度に表はし一目判別し得る如くにして置くこと）〇〇國民學校と鉛筆で書き入れさせ、次に兒童中の一名をとつて「〇〇君の家はどこだらう」と問ひ教師用の圖上にて指さゝせる、その行く道についてこれは〇〇橋、次の角は〇〇ビルと圖上に於いて實地の樣子を大體想起させる程度に說明を加へる、しかる後自分の家の所在地を地圖上にて考へさせ、こゝに赤丸を打たせて位置を明瞭ならしめる。

〇〇君の家は學校からどの方位かと尋ね「北東です」の答へが出れば、通學地圖上で實際表はれてゐるかどうか吟味させ方位の見方を指導す。

次に自分の家から學校までの通路を赤鉛筆にて記入させ、屈曲箇所にある「たばこ屋」「〇〇ビル」途中にある神社・寺院の場所に點をうたせ、「〇〇ビル」「〇〇橋」の如く圖に記入させる。地圖上ではいろ〳〵の地物を記號で表はすことを知らせ、學校は「文」で寺院は「卍」で、郵便局は「〒」での如く指導し、之等を以て表現させる。たばこ屋ならば「たばこ」で表現させてもよい。主なものは文部省鄕土の觀察教師用書一四頁に準據し、それに記載してないものは適當に兒童と約束し定めればよい。

「〇〇君の家は學校からどの位離れてゐるか」と問ひ「〇〇米です」と答へれば「地圖上で測つて見なさい」と（前時指導した方法を想ひおこさせて）圖上測定を行はせる。しかし優秀兒童なれば直ちに作業し得るのであるが、やゝ難しい作業であるから、次の二三の方法中一を選んで之を說明しその方法によつて測定させること。

○コンパスによる方法

コンパスを下圖の「縮めた尺」に合はせ、百米或は二百米に開かせ、コンパスの開きが何回あるかによつて距離を測定させる。即ちコンパスが五回あれば五百米、五回と少しあれば五百米とあとは目測により四十米と測定せしむる方法である。

○糸による方法

1 糸を通學路に一致させる（通學路は屈曲してゐる場合が多いから、糸による方法は適當であらう）糸を全部通學路に一致せしめ終つたならば、それを伸ばし通學地圖の下部に示す「縮めた尺」に對照させて距離を見つけ出す方法である。
2 又糸を伸ばし糸の長さを物指しで測つた上、千倍、千五百倍して實距離を出させる方法もあるが、之は算法がむつかしく四年初期の指導としては適當でないであらう。

◇實地での指導

地圖と現地とを對照させ、又學校から家までの距離等は步測によつて測らせる等、地圖の實際的活用は課外指導に俟たねばならぬ。

備考

學校から家までの距離が百米以上も距つてゐる場合に於いては面白く指導し得るが、學校に非常に近い兒童又は電車・バスにて遠くから通學する兒童にとつては指導し難いことになる。この樣な場合指導者は適當な題材を選擇して課すべきである。（例へば氏神樣から學校までとか〇〇ビルから學校までの如し）

教材（六月四時間中の第三時）

教材　梅雨

（一時間中の第一時）

要旨

日常生活に大きい影響のある、日々の天氣、季節變化の現象は朧氣ながら感覺されてゐる所であるが、兒童をしてもう一層進んで日々の天氣模樣を觀察させ、且つ之を記錄する習慣をこれから養ひたい。

此の頃は雨量の多い梅雨期であるからその測り方、その比較又は氣溫の測定などの簡單な事象から初めることゝする。そしてこの梅雨の農業上必要なことを知らせると共に衞生上の諸注意にも觸れる。

要項

1 梅雨の季節に特に著しい事象に氣づかせる
2 雨の大小の測り方
3 寒暖計
4 田植と梅雨
5 衞生上に注意
6 梅雨のあと

注意事項

取扱上の注意

1 梅雨の季節に特に著しいものに氣づかせる。
うつたうしさや、蒸暑さ、草木の若芽や苗代の苗が一面に綠色となつて來る。梅や櫻の實も段々色づいて來る。又それが日一日と大きくなるのも目に見えるやうである。蛙、その他の動物も次第に運動が活潑になつて來たなどのことに注意する。

2 雨量の測り方。
普通は雨量計といつて圓筒形に作られたもので計る。圓筒の半を地中に埋め、あたりを芝生にする。これは雨滴の飛び入るのを防ぐ風の影響を受けぬやうにする爲である。此の設備がなければ雨の降つた時に上下等しい器物を適當な場所に置いて計る位でもよい。

3 寒暖計。
空氣の溫度を寒暖計で計るには①直接寒暖計を日光に曝露しないこと。②通風を良くし、而も風に吹き曝されぬやうにする爲百葉箱内に設備する。然しこの設備がなくても前二項に注意すれば教室でも大した支障はない。

4 田植と梅雨。
常に雨といふと「いやだなー」と感じる兒童にも、田の植付けにはなくてはならない大切な雨であることを十分知らせる。この雨が一寸でも少ない又空梅雨となれば凶作と云ふ憂目を見なければならないことに注意する。

5 衞生上。
この時期には風通しの惡い物置や戸棚を開けるとカビ臭くなつてゐる。いやな臭がする。食べ物の腐り易いのもこの時である。着物等にも垢がついてゐるとすぐかびがつく。大切なものは密閉した器に入れておく。又生物を食べないやうに身のまはりをきれいにする等の注意をする。

6 繼續觀測の方法指導
これから繼續して觀測することゝなるので記錄の方法について注意をする。

指導例

◇雨上りの校庭にて

學校の庭木に止つてゐる「アマガヘル」が盛に鳴いてゐる。その「アマガヘル」について色々言はせて見る。なか〳〵見つけ難い。保護色をしてゐるからです。雨の降る時には盛に鳴き立てます。此の頃は毎日のやうに鳴いてゐます。このやうに動物が天氣豫報のこともやつてくれるのです。」と、先づこの不思議な現象に興味を持たせる「毎日降り續いてゐる雨、その中でも何時が一番澤山降りましたかそれはどんな具合で分りますか。」と尋ねてみる。兒童の答も區々であらう。たゞさう感じたといふ兒童が多いことゝ思ふ。それでは明瞭にならないからどう測れば正しく測れるだらうかといつて考へさせて見る。と、「それは降つた雨を逃がさずに初めか

ら溜めておくのです。」と、その測る器械を知つてゐる兒童に發表させて見る。殆んどの兒童にはたとへ學校に備付けられてゐても注意して見ないであらう。又簡單な測り方として底と口と同じ廣さの槽に降つた雨を溜めて、その溜つた水の深さをメートル尺で測らせて、これをミリメートルで讀む方法もあることを教へてもよい。又備付けられてゐない時にはブリキ板でも得られるならば教師の手で作つてもらひたい。

それから「雨にはシト〳〵と靜かに降る雨、斜に降りつける雨、矢のやうに急直下する雨と色々の降り方があります。」「この頃の雨はどんな降り方の雨が多いですか。」と言つて、シト〳〵降る梅雨の特徴にも注意させる。

「雨の降る日と晴れた日とどちらが樂しいですか。」と尋ね、晴れるのを一日千秋の思ひで兒童は待つてゐることだらう。降り續く雨に教室内の遊びにも飽いてゐる。「皆さんにはいやな雨もお百姓さんにとつて大切な雨です。お百姓さんは雨の降る中で稻の植付けに多忙なのです。この雨がなくては稻の植付けが出來ないのです。」と言つてこの梅雨の重要性を知らせる。

毎日の如く降つた雨は運動場の細い砂を洗ひ流し低い方へと集つて流れるやうす、次第々々に太い流れとなつて河へ低い方へ流れ込む。堀溝は河糸の觀察ともなつて面白い。次に珍奇な氣雲の切れ間から太陽が見える空のやうすを觀察させる。このやうに晴れ間を見出して校庭に出て觀察させることは兒童の運動不足を補ふにより機會ともなる。又カビの生え易い、物の腐り易い時であるから特に衞生にも注意する。

◇校庭から教室へ

廊下の柱に吊された寒暖計の前に立たせて目盛の讀み方を聞いて見る。「上からのぞき込んだり、下から見上げたりするやうなことなく、眞直に見える高さで正確に讀み取るのです。」この寒暖計の目盛一つの讀み方でも輕率にしないやうに讀み誤りのないやうに綿密に科學する心を養ひたい。

◇教室にて

今後繼續して觀測することゝなるので記錄の方法に就て指導する。

1 觀測の範圍は一度に全部を始めないでもよい。能ふ程度に順次擴充するやうにしたい。

2 定期は午前十時が適當である。十時は氣溫も一日の平均に近いものである。日々の氣溫をグラフに記入させる。また各月の平均氣溫を計算させてグラフを作らせる。月平均氣溫は日々觀測した溫度を合計し、その月の觀測日數で除したものでよい。

3 記錄の方法の一例を擧げて參考にする。

月日	天氣	雨量	風向	風の速さ	其の他
五・二	○	30 20 10 0 10	↗	├	朝露は多かつた青ぎりの芽がほころびかけた

イ、天氣（晴曇）は　○快晴　①晴　◐曇　●雨　⑪雪　◉霧雷等天氣圖の符號で入れる。
ロ、雨量は毎觀測時に記入しないで降雨のあつた時だけ特に計つて入れる。（便法ではあるが）
ハ、氣溫は一見要を得るやうグラフにする。
ニ、風の向は八方位に區別したい。
ホ、風速は、軟風 ├　和風 ├┤　疾風 ├┤┤　强風 ├┤┤
烈風 ├┤┤┤　颱風 ├┤┤┤　二百十日の所で授ける。
ヘ、其の他の欄は充分廣くとつて種々のことを記入する。
○氣象上特異の現象のあつた時（露が多かつた。霞がこめた。夕燒がよかつた。暈がかゝつた。さば雲が出たなど）
○私達の生活（單衣物にきかへた。かやをつゝた。手がいたい程つめたかつた等）
○動植物のうごき（櫻の花がひらき始めた。柳の芽がめだつて來た。蛙がないた等）

◇備考

雨量計

雨量計は受水器と、雨量桝、溜水瓶の三つから出來て居る。受水器は口徑二十糎の金屬製圓筒で拔き差しが出來るやうになつてゐる。そしてその繼目まで土中に埋めるやうになつてゐる。その圓筒内には圓筒と略同口徑の漏斗と溜水筒とが這入つて居る。雨が降ると此の漏斗によつて中の溜水瓶に這入る樣になつて居る。雨量桝は受水器に入つた雨水の量を測るもので粍を單位として度盛をしてゐる。

教材（六月四時間中の第四時）

教材　位置・面積・人口

（四時間中の第四時）

要旨

町の位置・面積・人口の大要を知らせ、特にその歴史的發展の樣子を考察させる。尙人口について季節或は時間的に變化あれば、それらの動きを把握させる。

要項

1 町の位置
　市のどの邊か
2 町の面積
　どれ位か
　市・區の面積とくらべて
3 町の人口
　何人か
　市・區の人口とくらべて
　密度は
4 發展の樣子
　面積の上では
　人口の上では
5 人の動き
　季節に依る動き
　一日中の動き
6 町の人々
　どんな人々か

注意事項

取扱上の注意

1 町の位置については、大阪市より見てどの方向にあるかを取扱ふ。例へば市の中央にあるとか、或は南東部にある等を調べさせる。適當な高所があれば町を展望させるとよい。

2 町の面積では、數量的に示すことが大切である。更にこれを大阪市及びその區の面積と比較させる。

3 町の人口に於ては、面積と同樣、數量的に示し、且これを大阪市及びその區の面積と比させる。尙面積と人口とを關係的に考察するため人口密度の重要なことについて說話し、その計算法を指導する。

4 面積の上で增減のあるところでは、之を取扱ふ。尙その理由が分れば簡單に觸れることが望ましい。この際古地圖等あれば、ごく簡單に現在の地圖とくらべて、その增減の模樣を具體的に示すとよい。

5 人口は年々變化して行くものは勿論、適當な年を選擇して敎授者に於てこれをグラフにし提示する。時間が許すならば兒童作業として棒グラフに表現させる。その際人口增減の理由について考へさせ、發展の樣子を取扱ふ。

6 大阪市の如き大都市に於ては一日の中でも、午前と午後、或は晝と夜との間には人口數の異動がある。例へば銀行・會社・官廳等の多い地域では、晝間多數の出勤者のため可なり人口數が增加してゐるが、夜間は閑散になつて終ふが如き現象を見る。かうした人の動きについては、詳細に調査することは困難であるが、その傾向を知り、動向を察知し得るやう錬成することが大切である。

7 こゝで取扱ふ人口と云ふのは、抽象的な人を取扱ふのでなく、どこまでも兒童と密接に結び付いてゐる具體的な鄕土の人々でなければならない。隣、近所の人々は勿論のこと、そこに出入する人々（例へば季節的に參拜する人、商用のために來る人、勤務のために來る人等）は、すべてその他のものと關係を持つてゐるわけであるから、さうした點は取扱ひの際に充分留意して置くことが肝要である。

指導例

◇町の位置について

「私達の住んでゐるこの町は大阪市のどの邊にありますか。」と質問して、大阪市の中央部にあるとか、或は南東部にある等を大阪市の地圖に依つて調べさせる。

◇町の面積について

面積は地理では常に出て來るとこ　のものであつて、今後、五年六年と進むに從つて隨分と出會ふことであらう。それらの基礎となるものであるから、その數字は記憶させるやうにする。さうして「自分達の住んでゐる町の面積を大阪市や或はその區の面積とくらべて見ませう。」と云つて比較させることが大切である。かうした數量的表現の處理方法を十分指導して置く。

◇町の人口について

面積が終ると今度は人口を取扱ふ。これも面積と同樣に數量的に取扱ひ、更に比較することが大切である。人口と面積の兩者が明らかになれば、これを綜合して見るために人口密度を算出するがよいことを敎へる、さうして今後どこを習つても人口密度は常に比較の對象となることを敎へ、その算出方法を充分理會させる。この際理數科算數と充分連絡をとつて置かねばならない。「數字で表されたものは、他とくらべて見るとよく分るのです。」と云つて面積・人口の如き數量的表現を以てするものゝ取扱ひでは比較するところにその意義を持つてゐるものであることを充分理會せしめ、地理事象考察の有力なる資料であり、貴重なものであることを知らせる。

尙「皆さんは、大阪市や、この區の面積・人口をどうして調べたのですか。」と尋ねて、それ〴〵の學習の根據を明らかにさせて、更にかうしたものを調べる爲の統計書や書物等を簡單に話してやる。

◇發展の樣子について

その學校區域も年と共に種々增減したことであらう。かゝる場合は地圖に依つて表してやるのがよい。これは最も具體化されたものであり、且讀圖の初步指導としても大切なことである。更にその理由が分れば簡單に話をする。

人口となると、これは年々變化して行くから適當に年を選擇してその增減を觀察させる。この際敎授者は棒グラフなり、折線グラフにしてその變化を調べさせる。若し時間が許すならば、「皆さん、これを一つ圖に表して見ませう。」と云つて作業させることが望ましい。かうした讀圖の際、適當な古地圖があれば、現在の地圖とくらべてその變化の樣子を觀察させる。この取扱中に兒童はどうしてこんなに人口が增加したのだらうとか、或は減つたのだらう等の疑問を起すことであるだらう。そのとき理由を說明してやればよい。

◇人の動きについて

大阪市の如き大都市では人の動きが實に多い。そこでこれらの動きを把握させねばならぬ。殊に市の中央部の官廳・銀行・會社等の多い地域では、晝間は出勤者の多數が集中し、夜間は郊外の住宅地域に歸るため閑散になつて終ふ。それと反對に郊外の住宅地域では相反する現象を呈することになる。そこで兒童に「晝と夜とどちらが人口が多いでせう。」と訊けば、大抵はよく知つてゐるであらう、かゝることが實は大切な勉强の材料であることを知らせ、我々の日常接してゐる足下の問題が即ち地理事項であることを充分理會させる。

◇町の人々について

「町の人々としてはどんな人達をあげることが出來ますか」と訊き、隣近所の人々等日々接してゐる人々には勿論のこと、季節的に參拜のため來る人、商用のため來る人、勤務のため來る人等も我が町と關係あることを理會させる。

教材（七月三時間中の第一時）

教材　町の家

（三時間中の第一時）

要旨

町の家の分布の狀態、發展の樣子を知らせ、更にその種類、風土との關係を通じて町の家の特色を理解させる。

要項

1 町の家の分布の狀態
　どんな處に位置してゐるか
　どの方面に多いか、少いか
2 町の家の歷史
　古い家と新しい家
3 町の家の種類
　どんな家が多いか
　○住宅・工場・商店等
　○木造建・コンクリート建等
　○平屋・二階建等
4 町の家の工夫
　雨・風・雪・地震・火災・水害・高潮・防空・寒暑・日當り等の利用方面

注意事項

取扱上の注意

1 先づ學校の屋上等の高い處から町の樣子を概觀させてから臨地指導に出かける。尙現地に行く前に、豫めどんなことに注意すべきか、又調査するのであるかを指導して置く。

2 町の家の分布については、どんな處に位置してゐるのか、例へば、川岸とか、臺地上であるとか、或は海岸近くである等その町の家々を大觀させる。又どの方面に人家が密集してゐるか、或は比較的少いのはどこか等を觀察させる。

3 町の歷史では、古くからあつた家とか、最近建てられた家等を分る程度に調べさせたり、設話等をしてその町の發展振りを觀察させる。特に市の周圍部はかうした發展の樣子が明瞭に表れてゐる故大切な觀察事項である。

尙家の歷史等に關したことは兒童にとつては調べる上に困難を來たすであらうから、近所の古老に訊くなり、家の祖父や祖母等に尋ねることがよい旨を話し、その調査方法の指導を忘れてはならない。

4 町の家の種類では、どんな家が多いか、例へば住宅が多いとか、工場が多いとか、或は商店が多い等色々であらう。又家の構造・形態・建築材料、或は家の使ひ途等で兒童が疑問や興味を持つてゐる場合は平易に說明してやつてもよい。

5 町の家の工夫では自然的な雨・風・地震・水害・高潮・寒暑等に對して色々と利用したり防いだりしてゐる點を充分觀察させる。又防空・火災等の人爲的な方面に對してはどんな施設をしてゐる等も大切なことである。例へば西風を受ける爲に西に窓を開けてあるとか或は火災等に對して防火用水や井戸を用意してゐる等色々とあるであらう。

6 季節に依りて町家に變化があれば、それを取扱ひ、尙積極的に觀察を要するものには特に注意を與へる。

指導例

◇町の家の分布について（屋上の指導）

學校の屋上から町の家を展望し乍ら「私達の住んでゐる町の家々は一體どんな處にあるのでせう。」と問題を提出して町の家の位置を考察させる。兒童は一般に事象を小さく觀察しようとする故、出來るだけ大觀させるやうにする。さうして川岸にあるとか、臺地上にある等について觀察させる。この際例へば海岸近くの處では臺地上の處とか、或は川岸等と比較し乍ら設話することが大切である。

次に「學校を中心としてどの方面に家が多いだらうか」と質問して家の密集してゐる處と比較的稀薄である處を區別せしめ、「それは何故であらう。」とその原因を追求して唯漠然と事象を眺めるのではなくどこまでも科學的に觀察しようとする態度を養ふことに努める。

◇町の家の歷史について（現地での指導）

「かうして町の家々を見てゐると、皆一樣に見えてゐますが、古くからあつた家と最近出來た家があるわけです。」といつて町の發展振りを現地に於て觀察させる。兒童は一軒一軒の新舊に氣をとられ、綜合的に觀察出來ない故適當に補說する。

「町の家の歷史の如きものは家で訊くのも一つの方法です。」と話して調査の方法を指導して自ら課題を解決する態度を作り上げて行く特に市の周圍部等に於ては將來どの方面に發展して行くだらうかと將來への觀察の誤を向けさせるやうにする。

さうして將來の發展する地域の持つてゐる地理上の理由等も兒童に分る程度に說明し關心を持たせるやうにする。

◇町の家の種類について（現地での指導）

「町の家を見ると色々の種類がありますがどんな家が多いでせうか」と質問して平素何の氣なしに見逃してゐた事も大切な研究の題材であることに氣付かせ、それの調べは實地についてすることを注意して適當な處を踏査する。町の家の種類として例へば住宅の多い處とか、工場の多い等夫々の特色を現地に於て指導をする。さうして各自重要なこと又疑問等はその場で質問をし、解決すれば適宜之を記帳するやう訓練することも大切である。

尙家の構造や建築材料の特色のあるもの等も注意するやう指導するのである。

◇町の家の工夫について（現地での指導）

町の家では自然的な方面に對して、或は人爲的な方面に對して色々と工夫をめぐらしてゐるから「町の家で工夫されてゐる點を見付けてごらん。」といつて人々の地理的努力の姿を充分觀察させる。例へば低濕地にある家では、「この邊の家は雨が降つたときは困るだらう。」と云つて、家の排水の模樣に留意させる等適當な問題をとり上げる。最近の如く防空の見地より火災に對しての施設としての防火用水や井戸のことなどは最も戰時下の鄕土觀察として見逃し得ない點である。又毒ガスに對しては風の方向と窓の關係より町の家を注意して考察することの必要を知らしめる。かくして町の家に親しみ愛護の念を涵養して行く。尙町の家の種類なり、工夫について季節的に變化のあるところでは、それに觸れ、今後繼續的に觀察しなければならないものは注意を與へて置く。

教材（七月三時間中の第二時）

教材　海（二時間中の第一時）

要旨

潮干狩や、水泳に海と親しみ、又親しむべき位置にある子等に對して、郷土の海が持つ香り高き地理や歴史を知らせ、海國日本の子供として海に對してより深い親しみと理會とを與へる。

要項

1 海の概念
　廣い
　平坦
　世界に通ずる
2 海の自然
　潮汐
　波
　海水
　海風
　陸風
　風
　潮汐
　潮流
　沿岸流
　高潮

注意事項

取扱上の注意

1 海岸に近くの學校では二時間連續して觀察させるがよい。又觀察させ得ない處では水泳等に行つた場合に觀察の時間を取るやうにしたい。

2 要項は理科的であるが決して理科的に深入りするといふのではない。あくまでも郷土觀察として綜合的に子供の生活と結びつけて取扱ふやうにしたい。要は親しみ深い海としての觀點を基調にして將來に於ては海が我等の活鍾臺であるといふ點にまで豫想して取扱ひ度い。

3 今までは陸上の觀察であつたが廣々とした海岸を見て、子供等は多大の興味を與へるだらう。從つて色々な質問が飛び出すことゝ思はれる。その質問に應じて地球の圓いこと、地球に引力のある事等にふれてもよい。

4 海水には鹽分のあること、海風・陸風・風・潮汐・潮流現象のあることを確認させ、尙防波堤（防潮堤）砂丘なども觀察させたらよい。

5 海水の色についても觀察させる必要がある。海水は量の少いときは無色であるが量の多い時は藍色を帶びる。これは海水は赤色及び黄色の光線を吸收するからである。また異物の混ずるためその色を變えることがある。海水中には夜光蟲その他の動物があつて暗夜波間に燐光を放つことのあることを知らせたらよい。

6 海岸近くの學校では海風・陸風・潮汐等の觀察を繼續して行はせたらよい。

連絡　よみかた　三、海　初國三、潮干狩

其の他

1 大阪灣の潮流は紀淡海峽より入つて淡路島に沿ふて北流し神戸附近で東に大阪灣より南下して紀淡海峽に出る。

2 高潮とは暴風による津波で地震津波の如く寄せ返しをせず、漸增漸減するもので速度は普通人の疾走以上である。昭和九年九月二十一日の高潮被害は夫々の資料によつて充分說明するがよい。

指導例

◇海の概念

潮干狩や水泳に行つた時、海岸の見はらしのよい所に兒童を集めて觀察する。今まで陸上の觀察であつたのが海に變つたので兒童もよろこんで目に見えるものは何んでも調べて質問するだらう。これを要項に從つて順序よく指導して行く。先づ「前方を見て下さい。」と云つて、廣々とした海に目を向けさす。其處は陸上とちがつて起伏のない平坦な所であること、こゝを船出すると世界の何處へでも行けることを考へさせる。水平線の彼方から浮んで次第に近づいて來る船を見させて、地球は圓いものであることを說明する。沖より寄せてくる波は、絶えず濱邊に打上げてゐる。寄せては返す白浪を追つて、其の狀態を觀察さすのも面白いであらう。

◇海の自然

次に濱邊の標子を見させる。砂濱であれば砂や小石を手に取つて、圓くなつてゐることを氣づかせ、之は絶えず波に洗はれて摩擦により角がなつたことを說明してやる。防風林があれば、何のために林を作つたのであるかを尋ねて樹木の種類を調べさす。防波堤も同樣に取扱つて行く。砂丘があればこれも見逃がしてはならない。海上より吹いてくる風のため濱の砂が吹き寄せられて小山の樣になつた事を知らせる。

「海水をなめて見ませう。」と云つて、しほからいことを知らせ、海水には鹽分のあることを確認させる。又我等が日常使用してゐる鹽は海水より取つてゐることを敎へ海水の色も見させて、海の淺い所は色が薄く、深くなると濃く藍色になつてゐることを見せる。

沖より吹いてくる風は海の香をのせて、心よい感じを與へる。日中は海より陸に向つて風が吹き反對に夜は陸から海に向つて風が吹くことを說明し、これを海風・陸風と云ふことを知らせる。難しい說明はさけたい。なほ海風・陸風の現象は海岸地方に住んでゐる兒童には繼續して觀察する標に云つて置く。又この現象は海岸地方に著しく、この交替時に一時風の止む時があつて、これを朝凪・夕凪といふ事にも觸れる。夏の夕方風がすつかり止んで蒸し暑く、人々がみんな涼み臺に出て、團扇を使つてゐることを思ひ出させ、あれが夕凪であることを說明する。

暫く海岸に立つて觀察してゐると海水の增減があるだらう、これを見させて海水に滿干のあることを認めさせ、これは太陽や月の引力によつて起るものであり、日に二回の滿干のあることを敎へる。なほ太陽や月や地球や其の他の天體は皆引力のあることを說明し、海水の地球より離れないのは、地球の引力によることを知らせる。

潮流・沿岸流等著しい現象のある場合は、兒童にも觀察出來るが普通困難であるから、こんなこともあるといふ程度の說明でよからう。高潮は普通は見られないから、暴風とか低氣壓の場合に此の現象が、あるといふ程度に止めたい。

◇備考

二時間連續して觀察する。

教材（七月三時間中の第三時）

教材　海　（二時間中の第二時）

要旨

陸に上げられてゐる船の樣子、漁夫の活躍を知らせ、漁業と我等の日常生活との一聯關を考察させると共に海に榮ゆる日本の海外發展を強調したい。

要項

1 海の人文
　船（汽船）
　魚介
　漁業
　港
　棧橋・燈臺・防波堤・倉庫
　潮干狩
　夏の海の賑はひ
　保健
2 海の歷史
　みをつくし
　ちぬの海
3 海に榮ゆる日本

注意事項

取扱上の注意

1 濱に上げられてゐる船、沖行く汽船を觀察させて、それ〴〵の用途を知らせる。
2 我等の口に入る漁介の種類をあげさせ、漁業と我等の生活との聯關について知らせる。
3 漁夫の生活を實際に觀察するためには地曳網等を見學させるとよい。
4 港を觀察し得る時はその施設について說明する必要がある。但し餘り深入りせず簡單にその用途を說明する程度でよい。
5 我が國は四面環海であり、我等の祖先は古來海に親しみ、海に活躍した歷史を知らせる。
6 海の歷史として芽淳海（チヌノミ）と云はれる由來を述べて皇國日本の神武創業の昔を思ばせ、八紘一宇の大精神は遠く東亞に、又世界に海水を通じて通ふものゝあることに思を致させておくが肝要と考へられる。
7 海に榮ゆる日本は、太平洋を舞臺として年に共に發展し、今や東亞共榮圈の確立と世界新秩序の建設に邁進してゐる所以を話し、將來の日本を背負つて立つべき國民は海を恐れず海に親しみ、海外發展を志すと共に皇國日本の榮に貢獻せねばならぬことを知らしめたい。

連絡

初修二、日本は海の國　初音二、太平洋　初國三、出帆

其の他

1 大阪市を表象する徽章は明治二十七年四月「菖標（ミヲツクシ）」に因み制定せられたものであり、澪標は昔船舶航行の目標であつたものである。
2 茅海（チヌノミ）の海また血沼の海とも云ひ、和泉國の海上をいふ。往昔神武天皇御東幸の際、鳥見の長髓彥と孔舍衞坂に戰はれて利あらず、皇兄五瀨命傷を負ひたまひこの海で傷を洗はれたと傳へられる。

指導例

◇海の人文

前時に引續いて海の觀察を繼續して行く。

再び沖行く船を見させ、其の大・小形によつて汽船か漁船かを區別させ、嘗つて兒童がのつた經驗があれば、その話合の中から船の大體の構造を說明する。濱には大抵舟が上げられてゐるから、其處へ兒童を導いてよく觀察させる。舟の形から舵・錨・艪等の船具を十分に見させてそれらの用途についても考へさす。次に漁業の實際の狀態を觀察させたいが、これはその時機を捉えるのが困難であるから、豫め何時頃陸上げされるかを調べておいて丁度その時機に兒童を其處に導く樣にしたい。多大の海幸を積んで歸る漁船、これを迎える漁家の人々、はしやぎ廻る子供達、漁船を迎えて準備に忙しい狀態から詳しく觀察させたい。陸上に上げられた魚介を見させて、その種類を擧げさせ、我等の口に入るものはこの樣な漁夫の勞苦によつてなるものであることを知らせる。漁夫の許可を得て魚を手に取つて觀察させることも望ましい。

これらの魚介は濱から市場に送られ、我等の家庭に入る順序をも附說する。

次に港の設備を觀察さすのであるが、立派なものはなくとも海岸には、大抵棧橋・防波堤等があるから其處へ兒童を導いて行く。棧橋は舟の發着の爲に造られたものであり、之をかこんで防波堤がある。大阪港等を見學出來る所は好都合であらう。燈臺は海上の往來の交通信號でありこれによつて船は安全に航行出來ることをしらせ、燈臺守の勞苦を說明して感謝の念を起させるやうにする。附近に倉庫があれば何のために造られて居るかを考へさせ、其の構造を觀察させる。

◇海の歷史

次に我等の鄕土は特に海と深い關係があり、往昔　神武天皇御東幸の際に御立寄りになつた所であり、大阪灣が、ちぬの海とよばれるのはその當時の故事よりつけられたものであることを說明する。大阪市の徽章「みをつくし」の說明もする。

◇海に榮ゆる日本

最後は又海岸に眼を轉じて海水浴（潮干狩）に賑はつてゐる樣子を見せて、海に親しむ人々が、嬉々として遊ぶ樣を觀察させ、日本は四面海もて圍まれ、古來我が國の人々は海に親しみ、海に活躍したことを話し、我等も海を恐れず大いに海外に發展しなくてはならないことを强調する。殊に世界一の大洋である太平洋を前面に控えてゐる日本は、今後太平洋に發展しなくてはならぬことを强調し、今からその心構への必要を痛感させる。兒童が立つてゐる前面の海は遠く、東亞並に世界にまで通ずるものであり、此處を船出するものは世界何れの地にも行けることを知らせて觀察を終る。

◇備考

觀察事項が多く、又季節の加減で觀察物が異なると思はれるが、適當に取捨撰擇して指導されたい。

教材（九月四時間中の第一時）

教材　二百十日

（四時間中の第一時）

要旨

我が國として稲の開花期によく吹き荒ぶ二百十日、或は二百二十日の暴風雨について授ける。特にこの時季の暴風雨は農作物に害を與へることが少くないために人々の氣をもませることが多い。これまでの兒童の過去の經驗からこれ等の非常災變に處する心得を知らしめる。

要項

1 風の方向
　八方位を定める
2 軟風とか颱風とは
3 二百十日が厄日とされるわけ
4 颱風の季節
5 關西大風水害について
6 教育塔
7 非常災害に處する心得

注意事項

取扱上の注意

1 二百十日は大體九月一日で、この時期は立春（節分の翌日）から數へて二百十日目に當る日で、これは必ずしも荒れ狂ふとは限らないが、大體この前後には颱風の襲來することが多い。特に大切な稲の開花期であるだけに一層やかましく言はれる譯で、この前後乃ち稲の開花期前後の天候如何が重大問題ではあることに注意する。

2 風の種類

	秒速
無風	一、五米以下
軟風	一、五―三、三
和風	三、五―五、五
疾風	五、五―八、〇
強風	八、〇―一〇、〇
烈風	一〇、〇―一一、五
颱風	一一、五―二九、以上

煙が直上する
風あるを感ずる
樹の葉を動かす
樹の枝を動かす
大樹の幹を動かす
樹を倒し家を破壊する

3 颱風の季節（十五ヶ年間　全回數　二四七回）

月	回數（十五年間）	百分比（二四七回＝對シ）	月	回數（十五年間）	百分比（二四七回＝對シ）
一月	一		七月	二九	一一・七
二月			八月	五五	二二・三
三月	一		九月	五六	二二・七
四月	一	一・九	十月	二	一・三
五月	二	二・三	十一月		
六月	三	一・三	十二月		

4 關西大風水害は昭和九年九月二十一日關西地方を襲ふた大暴風雨で氣壓六八四粍、瞬間の最大風速七八十米／秒といはれてゐる。未だ例のない強い風であつた。その為に特に被害の大きかつたのは學校方面であつた。被害の大きかつた學校又は隣接校について話して聞かせる。

5 教育塔　昭和十一年十月建設されたもので教育のために倒れた先生。風水害で死んだ生徒をまつつてあることについても注意しておく。

6 非常災害時に對する心得について授ける。

其他

二百十日の厄日が暦に出た初めは天保暦が安井算哉が貞享の暦に出かけるが、初めて今日は立春から丁度二百十日目である。自分の永い經驗によると此の頃に吃度暴風雨があつて、午過から果して暴風になつた。これから毎年驗して見ると本當であつた。そこで幕府に上書して暦書に入れたといふ。

指導例

今日の天氣模様を觀察しませうと告げて、見晴しのきく屋上か學校附近の高地に連れて行く。此の指導例は學校附近の高地に連れて行つたものとして示す。先づ全兒童を一所に集めて空に注意を向ける。高く低く行き交ふ雲の形を色々なものに想像させて見る。これまで色々な讀物で見て雲の種類の簡單なもの位は知つてゐる者もあらうから發表させて見る。そして次々に觀點を換へて雲行や、雲の種類の觀察と共に大きな樹の枝、葉の搖れ方、煙突から吐出された煙の薄れ行く方向などを見させ、兒童の身體に風の當る具合などから風向を言はせて見る。もし屋上などで觀察をする時、下を見下させると危險が伴ふから、見える範圍内で觀察を進めるやうにしたい。

夏休みもすんで間もなく心配になる風は、二百十日、二百二十日の風である。「これは立春（二月四日頃）からかぞへて二百十日、二百二十日といふ日にあたるのです。この時期にはよく大風が吹き荒れます。お百姓さんが苦心をして作つた稲の花の穂盛りです。もしこの時、強い風でも吹くと忽ち花が落ちて實を結びません。それで折角の苦心が無駄になつて白い穂となつてしまひます。何も九月一日（二百十日）に吹くとは限りませんが、この頃は多いことは確かです。颱風の季節の表を讀んでやる。この風を心配するのはお百姓さんだけではありません。國をあげてこの風が人々の氣をもませるのです。」と話してやる。

兒童は皆「いやな風だなあー」と思ふであらう。

その附近の芝生の上に腰をおろさせて風の色々の種類、そよ〳〵と吹く風からびゆう〳〵と荒れ狂ふ風その中でも家を倒したり、樹を拔いたりする荒いのもある事を兒童の過去の經驗からお互に話合ひをさせて見る。

その話合ひの中に颱風に對する心得を知らせる。

暴風警報が出たら通學に特に用心する。強い風の時には雨戸・ガラス障子などを吹き拔かれない樣にしつかり戸締りをしておく。電線の切斷されて垂れ下つてゐるものには近寄らぬこと。石燈籠・石垣の傍、崖の下を通る時などの諸注意をしておく。又「こんなに強い風でも吹き續けではありません。強い弱いがあるので強い僅かの間を特に注意することが肝要です。どんな颱風でも僅か一時間位で止みますから此の間の注意が大切なのです。」このやうにして颱風の性質を話してやる。

次に昭和九年九月二十一日に襲つた關西大暴風雨について被害の最も大きかつた國民學校についてその學校又は隣接校の被害のありさまを話して聞かせる。大手前に聳えてゐる白堊の高塔、教育塔についても知らせてやる。かやうにしておいしいお米が出來上るまでのお百姓さんの苦心を偲ばせて此の苦みを切りぬけてこそ、あの樂しい秋祭りが味へることを知らせる、たゞ土地が肥えてゐる、肥料を澤山やつた、よく世話もした。だけでは豐作とはならない、その上に高い溫度とかん〳〵と照り續ける日照りといふお天氣の惠みを受けねばならないことを考へて、この天惠に感謝すると共にお天氣について一層の關心をもたねばならないことをお互に話し合ふ。

教材（九月四時間中の第二時）

教材

役所（一時間中の第一時）

要旨

我々が郷土生活をして行く上に密接な關係のある郷土の巡査派出所・郵便局電話局等を中心として役所といふものの觀念を授け、それ等の役所に働く多くの人々に恩を享けてゐることを見出させると共に感謝の念を養ふ。

要項

府廳・市役所・區役所
學校附近の役所
○巡査派出所
巡査派出所の位置と分布
警察署と巡査派出所
巡査派出所と郷土治安との關係
○裁判所
どこにあるか
どんなことをする所か
○郵便局
ポスト・郵便局の位置と分布
電報のうち方
遠達郵便の出し方
郵便貯金
○公衆電話と電話局
役所の人に對する心掛
感謝

注意事項

取扱上の注意

1 大阪市の各學校に於ては町・村の如く行政的に小單元として纏つて觀察することは困難である。從つて要項に示したものの中適當なものを採擇して觀察させたい。それを通じて役所の概念を知らしめるやうにしたい。

2 平常から學區内に於ける巡査派出所の位置は知つてゐるであらうから豫め巡査派出所の分布圖を作製してから觀察に行くこと。

3 巡査派出所はその地域の治安維持へ特殊な任務を遂行せんために都心部乃至道路交叉點等の交通量の最も大なる場所に位置してゐることを觀察させこの巡査派出所の任務と位置との關係を考察させる。

4 郷土治安の任務遂行に晝夜を問はず勤務して下さる警官は怒いものと思はしめず親しみ深い警官であることを知らせたい。

5 道に迷つた時、家を訪ねて迷つた時などの過去の經驗を話合ひさせて親切に教へて下さつた有難さに感謝させる。

6 郵便局ポストの位置は丁字形、三叉路或は十字路に位置してゐる點に注意させ、交通量とその位置が深い關係を持つてゐることに着眼させる。

7 郵便局に用達したこと、又はポストに、はがきを投函した經驗を話合ひさせながら便利な役所の働きを思はせる。

8 郷土の通信禮關の發達は郷土の文化生活の程度に大いに關聯するものであることを具體的に知らしめる。

9 役所の取扱ひに於て特に留意すべきことは、抽象的な役所を取扱ふのでなく、どこまでも具體的な兒童の生活體驗と一體となつてゐる役所を取扱ふことである。

指導例

◇觀察豫告

兒童を校庭に集めてこれから學校近くの巡査派出所・郵便局・ポストを見に行きませうと告げ

◇觀察指導

1 巡査派出所——數百米離れた巡査派出所の前で、前以てお許しを得て、赤い電燈輝く警察章に先づ注意させる。物を拾つた時に正直に屆けたこと、道に迷つた人が中に入つて壁に貼付けられた地圖で丁寧に教を受けてゐたこと等兒童の過去の經驗を想起させる。夜は五六回巡視されて不寝の番をして人々を保護して下さる。私達が安心して眠られるのもこの警官のおかげであることに感謝させる。善い人には至つてやさしい親切な警官であることを知らせ、怒いものと思はしめないやうにしたい。又人通りの多いところでは怪我のないやうに私達をまもつて下さる交通巡査、風雨を厭はず立通して整理にあたつてゐる「信號をしつかり見て通りませう。一つでも御迷惑をかけない樣に手をかけぬ樣に注意しませう。」と言つて道路を横斷する。警察署の一機關としての巡査派出所を觀察させてその働の一端を知らせる。次にこの巡査派出所はどんな處に位置して居るかを考へさせ、交通量の最も多い十字路にある事を見出させる。

2 郵便局——こゝから約百米北に進むと郵便局がある人通りの多いところであるから邪魔にならぬ樣道路の一方に位置させて人の出入する樣を觀察させ「何のために來るのでせう。」葉書・手紙を入れに、貯金に、小包を送りに等と色々答へさせ、自分も嘗て用達に來たことを想起させる。僅かの費用で正確に、迅速に渡される事を想ふ時に整つた國家の機關に感謝させる。「〒の標に赤く塗られた自轉車は各々その任務を帶びて威勢よく北を指して走つた。次にこの位置について考へさせ、やはり人通りの多いところに設けられてゐることは巡査派出所と同じであることを悟らせる。その中でもどの方面からの人が多く出入りするかを觀察させたい。時局下貯金に國債に一つでも儉約をして購ひませうといつて貯金の奬勵もしたい。金網越しに忙しさうに働いてゐる有樣を見て、しつかり勉强してやがて御國のために働き御恩に報いねばならぬことを童心に深く感得させる。

3 ポスト——郵便局の一機關である。辻々の要所々々に雨の日も風の日も立つて、その働の一部を果してゐるポストの觀察に移る。一々葉書や手紙を郵便局まで行かねばならないのでは不便でもある。そのため數多くしかも便利な場所に設けられたポストは兒童にもなじみ深いものと思はれる。

◇觀察の整理

以上の觀察をすませて教室内で兒童合同で校下の地圖上に巡査派出所・郵便局・ポストの位置を示させて、校下の役所地圖を作り教室に掲示する。

備考

觀察の材料は各學校により多少異なることゝ思ふ。こゝに示したものは市の官衙地區から離れた周圍部の一地區をとつたものである。比較的兒童の觀察に容易な、郵便局・ポスト・巡査派出所といふものを觀察することによつてこれ等の役所に働く人々より恩を受けてゐると共に整つた國家の機關に對して感謝させる。

教材（九月四時間中の第三時）

教材　彼岸

（三時間中の第一時）

要旨

四季の變化に富む我が國の惠まれた氣候、その中でも暑くもなく寒くもない春秋の氣候を彼岸といふ題下で授ける。そしてすべての物が活潑な活動をする時季であること並に太陽運行に因つて起るこの變化及晝夜平分のことを知らせると共に、國民的祭祀の彼岸まゐりについて祖先に對する報恩感謝の念を培ふ。

要項

1 彼岸
2 彼岸詣りで
3 秋(春)季皇靈祭
4 秋分頃の氣候
　秋の澄み切つた空
　田圃の稻穂、梅雨頃の觀察と比較して見る
5 太陽が眞東より出て、眞西に入る
6 晝夜の長さ等し

注意事項

取扱上の注意

1 秋分、春分の日を中日といつてこれを中間にして一週間をさして彼岸といふ。その初日を彼岸の入り、終日を彼岸の明けと呼んで我が國では昔から祖先を祀る日としてゐる。これはもと佛教から來た言葉であるのに、印度にも、支那にもなく獨り我が國にだけある美風であることに注意したい。

2 彼岸詣りで
この一週間は先祖を祀る、お寺詣りや、墓參りがどこの家々にも行はれる。中日には草餅、牡丹餅などをお供へして先祖の恩に感謝する日で、又各寺院でも彼岸法要が行はれる日である。このことは外國に例を見ない我が國獨得の祭祀である。

3 秋季皇靈祭は秋分の日に行はれる大祭で此の日　天皇陛下御親ら皇靈殿に奉祀せられてゐる御歷代の皇靈を御追慕のために御親祭遊ばされる。又これと共に神殿の天神地祇八百萬神をお祭りになる秋季神殿祭が行はれる日でもある。かやうにして國民に孝敬の道の範をお示しなされてゐるのである。

4 秋分・春分の日
太陽が赤道上に位置した時は晝夜平分で、その日には太陽は眞東から出て眞西に入る。その日は九月二十三日又は四日（秋分）と三月二十一日（春分）とであること。

5 次第に涼しくなるわけ
八月の末頃から暑さも次第に減じ爽かな秋へ、凌ぎよい氣候となるのは太陽は次第に南に見懸上の運行をして赤道上に近づいて行くからである。私達の居る處から段々遠ざかるからで、太陽からの熱を受けることの少くなるのによる。太陽の位置によつて寒暑が定まることに注意する。

其の他

春の彼岸中平均溫度　八・一度
秋の彼岸中平均溫度　二一・〇度

指導例

◇教室の指導

今日は彼岸についてしらべませうと告げて兒童の經驗を發表させてみる。「〇〇君の家のお墓はどこにありますか。〇〇さんの家のお寺はどこですか。」と、數名の兒童について聞いてみる。又「お墓にお詣りするとき何を持つてお詣りしましたか。」と尋ねてみる。お花や線香位は兒童も知つてゐるだらう。「このお寺、お墓詣りは多くお彼岸にします。お彼岸は何時ですか。」一年に春と秋との二回あること、そして春分・秋分の日を中にした一週間であることを知らせる。そして、その中日には春季皇靈祭・秋季皇靈祭が行はれ天皇陛下が御代御代の皇靈をお祭りになることは修身でも習ふことでもあるし兒童もよく知つてゐることゝ思ふが、尋ねてみる。かうして我々國民に祭祖の御模範をお示し下さつてゐる皇室の尊さを十分に知らせたい。「この日は學校もお休みですから皆さんもお家のお墓やお寺にお詣りしなさい。又國旗も皆さんの手でおたてしなさい。」と注意する。お寺、お墓詣りは老人に委せ切りにしないやうに子供の時から先祖を崇ぶ心を養ふやうにしたい。

この春分・秋分の日には晝と夜の長さが同じである。これは教師の方で春分・秋分の日出、日入の時間を豫じめ調べておいたものを示して晝の長さ、夜の長さを計算させて晝間は數分長いことを算數と互ひに連絡させて知るやうにする。又夏至・冬至とも比較させてみる。

◇現地での指導

これから外へ出て、此頃のお天氣の模樣を觀察しませうと告げて先づ見晴しのきく高地に集めて、全兒童に、そよ〳〵と吹く氣持のよい風の方向、風の强さ、雲行、雲の種類などをよく見させる。數名の兒童に風の當り具合から風の方向を、雲の走り方から雲行を發表させる。その時に吹いて行く方向を風向と考へてゐる者があるかも知れないから念の爲に注意しておく。次に、前に梅雨の際に觀察した空模樣と何かちがつた感じがしましたかと問ふて見る。「梅雨時の空はどんよりと霞んだ低い感じがしたが秋の空はどこまでもよく晴れた碧い空で高い感じがする氣持のよい空である。」ことに注意させる。

澄みきつた空にはくつきりと遠山が浮んで見える。兒童は寫生したい氣にもなるであらう。

近くの田には穗の出揃つた稻がそよ風にゆれてゐる。前に觀察した田植時のことを想ひ出させてかくも立派に成長した稻田、かくまでに作り上げたお百姓さんの苦勞を思はせる。忙しい刈入れ時を待つてゐる。

樹にはスヾメの群が羽音も騷もにぎやかに飛びまはつてゐる。又赤とんぼも樂しさうに飛んでゐる。草むらの小虫も鳴き立てゝゐる。田圃の畔に生えてゐるススキもやがて來るお月見を待つてゐるやうである。春に觀察した時からこのやうにすべてが變つた自然現象の變化に先づ注意したい。

教材（九月四時間中の第四時）

教材　隣組

（一時間中の第一時）

要旨

私の町として、最も樂しくも好もしき存在、それは隣組である。隣保精神は大政翼賛の一翼であり又根本である。私を滅し公に奉ずる精神の涵養はこの精神の強調を措いて他にない。この點に留意し其の實踐方面を指導する。

要項

1 既知事項の發表
　イ 組の家數や職業など
　ロ 組の人々に對する自己の感じ
　ハ 常會
　ニ 仕事
2 どうして隣組をつくらねばならなかつたか
3 隣組の實踐
　隣保親睦
　相互扶助
　團結
　國土防衛
4 町會
　大阪市の町會
5 子供隣組
　少年常會

注意事項

取扱上の注意

1 「遠い親類より近い他人」の古諺は、我々の先祖代々から傳はつた、本邦獨特の美風を物語る話なのである。而してこの良風美俗の失はれんとしてゐる今日、この隣組の活動が相互扶助・隣保團結の精神昂揚に如何ばかり貢献するものなるかを充分認識させねばならぬ。隣組について兒童の既知事項を發表させて見ると案外その根本理念に遠ざかつてゐる者の多いのに氣がつく。今日の隣組は單なる和合親睦に滿足せず、組員が一團となり共同生活に必須なる例へば配給・非常災害防止・防空・防諜等に對する鐵壁の護りとならねばならぬのである。こゝに高度國防國家建設の意義があり、大政翼賛の根本があるのである。

2 常會の形式や會議の模樣等についても、充分所見を發表させ常會は萬民翼賛の一形式であり、一面二宮翁の所謂「芋こじ會」で、お互の接觸し合ふことによつて自らも磨かれる會なる事を知らせ良き指針たらしむることが大切である。

3 同時に現存に於ける隣組が、或は常會が單なる親睦とか自他接觸による人格發展といふ樣な個人的なものでなく、明らかに國家組織の一機構としてその根底をます事に留意させ、その健全なる發展を希求せねばならない。

國土防衛・物資配給等の重要なる役割はすべてこの隣組が根本をなすことに注意させるべきであらう。要は小さい自己から大いなる國家目的への認識を高めるべきである。

4 町會の標準規約として
　イ 祭祀・慶弔　ロ 隣保親睦・相互扶助　ハ 學事・兵事・衛生　ニ 矯風・修養
　ホ 保安・自警　ヘ 非常災害の防護　ト 愛市心・愛鄕心の涵養
　チ 官公署との連絡　リ 各種團體の援助協力　ヌ 會員の福利增進

會員の福利增進を最後に表した所に、この會の精神がうかゞはれる。こうした點に大いに注意を喚起すべきである。

連絡

初三修　近所の人

指導例

◇指導の要點

町の觀察の最終の時間に、この隣組の觀察をさせるのである。要旨に述べた通り、本教材の主眼は單なる觀察ではなく、あくまでも子供ながらも大政翼賛の一翼として自覺させ實踐させるにあるのである。大人の云つてゐる事、行つてゐる事が果して之等の子供に何と寫つてゐるか、正しく素直に受入れられてゐるかどうかを觀察させながら指導して行かねばならぬ。まだ〳〵常會に出る人々の言葉には、子供に聞かせたくないものが多い。さうしたものを聞き知つて、受入れてゐる者があれば正しく指導してやらねばならない、正しい實踐へと導いてやらねばならぬ。むつかしい理を說くのではなく「おうちの隣組ではどんな話が良く出ますか。」「どんなにしてゐますか。」「どう思ひますか。」等の質問によつて思ふ存分その觀察を發表させたいものである。かうした所に指導上の指針が發見出來得ると思ふ。

◇第一段の指導

「あなたの隣組には何軒の家がありますか。」から發展して組員の職業とか組長さんや組員の人々の特異な部分を發表させるが良い。無邪氣な觀察がその組の性格や風格を表はさないとも限らぬ。單なる興味本位で之等を强ひるのではない。あくまでも觀察の結果である。續いて「常會は毎月何日に開かれますか。」等から發展して、其の會の狀況、例へば出缺・主な話題・時間等を發表させ、それに對する感想を述べさせ、隣組の仕事、例へば配給・防護・慶弔等に入つて行く。大體今位迄が兒童の觀察によつて得られる材料であらう。この材料を土臺として隣組設置の根本に考察を進めるのである。

◇第二段の指導

本段は教師の說話が主となるであらう。即ち前段の隣組設置の說明の發展が取扱上の注意の第一項に歸着するものでなくてはならぬ。しかもその發展は、隣組の實踐から大阪市町會の動き、果ては國家全體の動きに進まなくてはならぬ。餘り深入りせぬ程度で。

◇第三段の指導

本段は兒童の實踐面の指導である。少年團常會や學校内に於ける自治會の指導等を考へて見ると、子供ながらも實踐させるべき部面が多い。彼等の日常生活を通してその生活の指導に大いなる眼を向けなくてはならぬ。皇國民として立つ立派な一個の人として。その外なるものに捉へられることなく、その中なるものに着目して指導を進めなくてはならぬ。

教材（十月四時間中の第二時）

教材

野原・山・川

（三時間中の第二時）

要旨

第一學期に於いて同樣の觀察をなした。今學期は場所が變るかも知れないが共通的な觀察としては季節の推移點が得られるであらう。此の季節の推移を中心にして前學期には自分の生活との關聯性の方向づけを與へたが、本學期には自分の生活の基底たる鄕土との關聯に於いて親しさをより深く掘り下げて敬する氣持にまで導きたい。

要項（野外）（次頁に續く）

1 凝視する

變化があるかないか

どう云ふ風に變化したか

2 耕作景

現在の作物の種類とその分布

現在の作物の播種期と收穫期

收穫後に何が作られるか

耕作と作物

田……稻

畑……さつまいも・大豆・野菜

注意事項

1 本學期に於いて再び前學期と同一場所を訪れるならば其處に作物の變化を通して充分に季節の推移が感受し得られるであらう。その季節の推移を中心にして點々と國土が我々人生との關係を果して行つて吳れる點を指摘して、親しみから敬への强き息吹きを子供に與へたい。

2 場所が違つた場合には前學期に於いて觀察した事項を今一度思出させるが良い。それとこれとの比較は同一場所でないから出來ない譯ではあるが、前學期取扱上の注意(8)に於いて述べた景色に差異が認められるのであらうし、麥畑が水田に變化してゐるのが通例であるし、又全然別な作物であれば、それ自身又觀察材となる。亦その場所附近を注意深く繼續的に觀察してゐた子供があれば何よりであるから季節の推移感を得るには餘りに困らないかと考へる。

3 前學期は大體に於て受作期であつた。今學期は稻田になつてゐる所が多い。黃金波打つ稻田の景を中心にして我々の生活との關係をはつきりとさせる。

4 耕地と作物

耕地は田と畑に區別される。田は乾田・濕田・沼田の三種に分れ沼田（深田・ふけた）を除き乾田・濕田共に何れも田と畑との兩性を持ち、季節により又目的によつて米作と畑作が行はれる。即ち二毛作の本地方では乾田も濕田も共に夏季は水田として稻が作られ、裏作は畑地として麥類・豆類・野菜等が作られ沼田は畑の性質を持ち得ぬ田であつて夏季のみ稻が作られるのである。又同じ乾田や濕田であつても夏季米作をしないで西瓜・茄子・胡瓜・野菜等が栽培されることがある。次に畑（畠）であるが、これは地形・地質・水利等の關係で現在では米作を行ひ得ず一年を通じ畑作しかなし得ない耕地であつて、夏作には甘藷・大豆・野菜等を作り、裏作には麥・豆・野菜等を作つてゐる。尙溫室・フレーム等による促成栽培等も注意すべきである。

教材（十月四時間中の第二時）

要項（前頁より續く）

3 耕作景を中心にして（水田）

○苗代

○田植—水のこと

梅雨・池・溝・風車・井戸

○除草

明治天皇御製

○施肥

○二百十日—風の心配

○鳥害・虫害

案山子・誘蛾燈

○收穫のこと

脱穀機・乾燥・籾すり

○自分達の口に入る

○尊き米の一粒

神、國土、國民の一體的所產

4 農家の見學

5 農村と都會

○助け合ひ

注意事項

取扱上の重點

5 現在見られる稻穗の波を中心にして今日に至るまでの經過等を上記要項により話をしてやるが良い。理科的の樣に見られるけれども國民として一番重要である米のことであるから此の程度の事は必ず附加することが必要である。

その說明の中に適當に梅雨現象、又水に對する農民の配慮、或は二百十日前後に於ける心配等を織り交ぜて行くがよい。

明治天皇御製

にひばりの田にも畑にもみゆるかな廣くなりゆくしづがなりはひ（にひばりは新しく開墾された）

山田もるしづが心はやすからじ種おろすより刈りあぐるまで

斯くて尊き汗の一滴もて收穫される米粒が我々の口に入るまでの經過を話して感謝の念を捧ぐる樣に導きたい。

尙米作を中心に二月十七日（祈年祭）十一月二十三日（新嘗祭）の國家的行事があることも附加してやる。

6 休閑地利用の事にも觸れるがよい。そして食糧問題に對する關心を惹起し、正しい生活態度の確立を圖る樣に資したいものである。

7 農家の見學は觀察地に於て適宜中農階級の標式的な農家を選定して許しを乞ふた後に實地に觀察せしめたいものである。納屋・牛小屋・堆肥小屋・灰小屋・倉・穀物干場となる廣い庭、更には耕作用具・米搗用唐臼・飲料水用の井戸その他を觀察させ、出來得ればそれらの說明をも請うて農家の構造や生活を理會させ農を營む人々に對する親しみと敬への心持を涵養したい。

8 前學期に於いて書いた寫眞圖を訂正するもいゝし、又新に適宜記號等を定めて書かせるもよい。

指導例

◇現地での指導（同一場所に再び行つた時）

嘗つて觀察した地點に近づくにつれて、子供等はその景色の變化に就いて云々するだらう。再び前學期と同一の場所に立つて觀察をする。「景色が變つてゐるね。どこがどう云ふ風に變つたかよく見てごらん。」と觀察する態度を指示する。その際子供は唯單にあれとこれと云ふ風に云ひ出すのが普通である。即ち單なる視覺のみに頼らうとするが、凝視する態度がない。勿論子供としてはそれで普通だが我々としては凝視させて漸次に變化して行くものもあることに注意を向けさせるやうにしたいものである。例へば村の一角に新しい家が建築されてゐたのが今度見た時には完成されて更に次の家が今建築されてゐると云つた樣な場合もある。この樣な時には餘程凝視せねば變化に氣付かない場合が往々にしてある。

さて子供に變化したと思はれるものを問うて見る。恐らく氣の付くのは耕作景であらう。そこでどんな風に變化してゐるかと問うて此の前觀察した時の作物と現在の作物との種類の變化、即ち麥作が米作に變つてゐる事をはつきりさせる。そして今一度此の前見た時にあつた苗代を想起させて見る。苗代で育てられた稻が田に植ゑられ今見る樣な黄金波打つ稻田となつたことを知らせる。こゝで田が二度に使はれてゐる事を十分に知らせるがよい。「此の前觀察した時は麥畑であつたね、水があつたかしら。」と問うて見る。そして水がなかつた事を知らせる。そして畑と田の區別をはつきりさせるがよい。（取扱上の注意參照）

かくて現地で房々とした稔りを見つめつゝ米の作られて我々の口に入るまでを說いてやるがよい。

「前學期に觀察した時は苗代であつたね。苗代で育てられてゐる時にはお百姓さんは虫が卵をつけるのを苦心して採るのだ。それこそ一枚一枚に目を皿の樣にして可愛がつておられるのだ。そして苗代で稻が大きくなる。片方では麥が色づいてくる。麥の秋といふのが愈々やつて來る。麥を刈り取つて後は直ぐに水を田んぼに引入れる。あの見える小川などにも水が流れる樣になつて來る。その水は池から出て來るのもあるし、又大きな川から引いてくるのもある。この前に見た池の樋と云ふのがあつたね、あの樋を拔いて水を流すのだ。その水を順次にたんぼに入れる。此の樣に田んぼに水を入れることを灌漑と云ふのだ。水を灌漑用水と云ふ。そして田に水が入つて土が軟かくなると麥畑の時に作つてあつたうねを潰して鋤きかへす。その頃になると此の前習つた梅雨の頃になる。皆さんは梅雨と云ふと運動場へも出られないし、物にかびが來るし、ほんとに鬱陶しいがお百姓さんには大切な雨なのだ。水が多くある程良いのだ。といつて洪水でも困るけれども、然し日本と云ふ國は有難い國だ。その時分に梅雨があると云ふ事はほんとに神樣のお惠みだね。だから空梅雨だとほんとにお百姓さんは心配で心配でたまらないのだ。そこで梅雨で水が多くある時は池の水は出さないで大切に殘しておくのだ。大阪では池の多いことは有名である。これは五年生になつたら勉强出來るが多いと云ふことだけは覺べておくがよい」。

◇現地での指導（前頁より續く）

「水が十分あつて田んぼがうんと濕つたら愈々田植となるのだ。それこそ一家總出で朝から晩まで一生懸命になつて植えるのだ。牛を使つてたんぼをならす人、苗代で稻を拔いて束にする人、それを運んで行く人、植へる人、平生は人影が見えない田んぼに多くの人が働くのだ。男も女もみんなあの泥水の中で働くのだ。よく田舍の學校ではこの忙しい頃は農繁期といつて休業する所もある程だ。だから國民學校の皆さん位の人も出て働くのだ。その休んだだけは又夏休みなどで取戻すのだよ。縱横に紐を引張つてその交つた點の所に苗を植付けて行くのだ。だから今皆さんが見る樣に非常に行儀よく植えられてあるだらう。これは後に草をとる時に機械が入る爲めにしてあるのだ。こうして一週間も經たない中にすつかり麥畑であつた所が水田となり青田に變つて仕舞ふのだ。これで田植ゑが終つたがこれから又草とりが始まる。先程云つた樣に除草機と云ふものであの筋の中を縱横に押して行つて土を軟かにして草が生へない樣にするのだ。一回だけでない。二回、三回、これを一番草、二番草と云つて五回位もする。夏の暑い日に此の田草をとる事の勞苦をみんなも想像してごらん。ほんとに尊いものだよ。こんな苦勞して米が作られて行くのだ。畏くも明治天皇の御製にはこの勞苦を思ひやられてお詠み遊ばされたのがある。

こらは皆軍のにはにいではてゝ翁やひとり山田もるらむ

此は明治三十七年の日露戰爭の頃、若い人々が戰線に出て後に殘つた老人が山の田でせつせと働いてゐる姿を御詠みあそばされた有りがたい大御心なのだ。

その草とりの間にも石灰などをまいて肥料をやり、又一方では御天氣を心配するのだ。お米にはうんとお日樣が照つてくれる事が何よりなのだ。だと云つて水がないと心配だ。雨が多いと困るのだ。水が足らない樣になると水車で水を田んぼに入れたり、或は方々に見られる井戸からはねつるべで水を一杯一杯と汲み上げて田にそゝいでやる。ほんとに我が子の樣に心配だ。その中に皆さんも知つてゐる二百十日と云ふ農家の厄日がやつて來る。折角出かゝつてゐる稻の花をあの風で吹飛ばされる大心配がある。全部飛んでしまへば折角の苦心も氣無しになる。そこで厄日と云ふのだ。それも事無くすめば愈々實が入る頃になる。すると今度は雀が惡戯をする。それでそれを避けるために案山子が立てられたり鳴子がつけられたりする。案山子も決して飾り物でないのだ。案山子君御苦勞さまと云つてやりたい氣がするね。かうした御苦勞があつて始めて今目の前で見る稻の穗波となるのだ。まだ〳〵これから取入れの忙しさ、乾して、脫穀機にかけて、又乾して臼でひいて米俵につめて、精米されて、それから我々の口に入るのだ。どうだ皆さん、尊い米の一粒ではないか。

明治天皇が

山田もるしづが心はやすからじ種おろすより刈り上ぐるまで

とお詠みあそばされた。」

◇備考

1 早稻・晩稻の種類があれば知せてやるがいゝ。

2 同一地域でない場處に於ても大體この程度の話はしてやるがよいと思ふ。

教材（十月四時間中の第三時）

教材

郊外（野原・山・川のまとめ）

（三時間中の第三時）

要旨

前時に引續き教室に於て今までに觀察せる郊外の風景を想起させ鄉土との關聯性を明確にしつゝ、地理學習の初發的な綜合的取扱をなし觀察をより深めるやうにしたい。

要項（教室）

1 前時分までの郊外について指導せることを想起させる

2 まとめて行く（地圖を主にして）

- 山のこと——山脈等の術語を與へ名高い山の歴史、高さ等
- 川のこと——川の名稱・川の利用川の災害等
- 耕作のこと
  - 水田の分布・畑の分布
  - 二毛作のこと・農業と云ふこと

3 地圖學習に入る

- 村のこと
  - 平地
  - 山脈
  - 河川
  - 聚落

注意事項

取扱上の注意

1 前時までに觀察せる事項を平時に於いては此を取まとめ地理的な初歩學習に導いて行く樣にしたい。從つて範圍は觀察地を中心にして大阪府一圓にまで延長してよいと考へる。

2 豫じめ教師は觀察せる地點を中心としての寫景圖と景觀圖が用意してある事が望ましい。その見取圖を中心にして山のことを語り茲で今一度明確に地理的用語を與へ、兒童の體驗を語らせて山に對する親しみと云つた點を涵養したい。尙此の處で考慮しておくことは山と國史、山と信仰、山と鍛練と云つた生活部面との接觸を注意しなければならない。

3 川についても川の自然地理的な部面を明らかにしてやる。即ち觀察せる川が延長してどの川となるかと云つた風に取扱ひ、川の名稱、或は本流・支流・運河等の名稱を與へ、尙川と人生との關係を明らかにする。これは觀察せる事項を基礎にして耕作地との關係を考へさせ乍ら綜合的に取扱ふやうにしたい。出來得るならば淀川・大和川等の灌漑用水分布圖などを見せるがよい。池も附記すること。

4 かくて大阪平野の全委を話しつゝ大阪府の地圖を主體にして地圖學習に入るがよいかと考へる。地圖は之れまでに於ても子供は廣く見て來てゐるからその既有知識を基礎にして先づ寫景圖と地圖との比較から入つて、記號を充分に知らせる樣にする。そして地圖の見方と云つた點に觸れるが良い。

教具

大阪府地圖　觀察を中心とする見取圖　大和川・淀川の灌漑用水分布圖。

其の他

河川開鑿功勞者

安治川（河村端軒）木津川（中村勘助）道頓堀川（安井道頓）大和川（中甚左衞門）

雜渡新川（樋貨堀、即ち今で云ふ救濟事業として出來た）

指導例

◇教室での指導

第一學期・第二學期に觀察した事項を想起させ乍ら學習に入る。子供は恐らく前時間に觀察した事項のみを云ふであらう。それを中心にして尙あつただらうと問ひかけて、前に寫生した圖を取出させて發表させる。それと同時にその場所がどこであつたかを今一度はつきりさせておく事が必要である。

教師が描いた寫景圖を出して見せ、それを中心に之は何、之は何と云ふ風に話し合ひ乍らまとめて行くやうにする。山の歴史に觸れるも良い。高さについての話合ひもよい。峠・頂上等を復習するも良い。そして山が多く並んでゐたこれを山脈と云ふのだと定義づけて行く。川を追求して川の利用—特に耕作との關係などを今一度はつきりさせるがよい。そして耕作のことに觸れ自分達の生活が直接そのお百姓さんと關係ある事を認識させる。かくて農業と云ふ言葉を與へてやる。

こゝでその寫景圖について「この寫景圖によくわかるが第一學期と第二學期とでども景色が變つてゐたし、この寫景圖ではもし目の前に大きなものがあつたらその向ふが見えないで困るが—」と問ひかけて「どうしたら誰れにでもよくわかるだらうか。」と歩を進めて見る。そこで「もし飛行機で見たらどうだらう」と問ふて見る。中には「先生上から見たら小さくて細かいものは見えません。」と鋭くつめ寄つてくるかも知れない。その時は「低空飛行や低空でじつと止つて見たら……」と微笑的な問ひにして見たらと考へる。そして上から見下した時を考へさせて、「段々高くなつて行くと次第に細かいものは見えなくなるから大體の有樣を記號で書表はす樣にしたらどうだ。」と持ちかけて記號で書く事を話す。勿論子供は之までにも記號については大體知つてゐるから都合よいであらう。そこで教師が書いた同一場所の地圖を出して見せる。寫景圖と比較し乍ら話してやる。そして記號について充分に知らせてやる事が肝要である。

次にその場所を大阪府地圖に於いて示してやる。するとその場所は極く小さな一地域であるかも知れない。そこで始めて「何故こんなに小さな場所になつてしまふかしら。」と問うて見るがよい。「觀察した場所は大きい樣に思つたが大阪全體ではもつと廣いからこれだけしかとれないのだ。大阪の地圖でも日本の地圖から見ると又これだけしかないのだ。」と云ふ風に進めて大きな場所を畫かうと思ふとどうしても縮めなければならない事に氣づかせて、縮尺の大小に觸れておく。

前に戻つて見えた山はこれ、河はこれ、平地はこれと指示して山脈の存在を知らせ、河については本支流或は上流・下流・平地ではこれ——大阪平野を知らせ、交通機關ではこの電車・汽車と云つた風に理解させて地圖に親しませたいものである。

◇備考

1 勿論こゝでは地圖學習もやるがまとめる中に於いて前時に觀察せる郊外、特に耕作は我等の生活と密接なる關聯がある事は充分に話をする必要がある。その物資の運ばれ方、販賣の方法、そこに商業の成立つ事なども觸れておくことは肝要である。

2 地圖は大阪府管内地圖がよい。見取圖と地圖には着色しておくとよいかと思ふ。

教材

（十月四時間中の第四時）
（十一月四時中の第一時）

教材　町の配給所
（五時間中の第一、二時）

要旨

學校に近い米・野菜・果物・魚・菓子等の配給所を實地に觀察させてその物品の配給狀況を見、職時下生活必需品の配給制度に關民の有難さを知らしめ、買ふ者の心得賣る者の心得についても感得さす。

要項

一　配給所の店頭に於ける觀察
　イ　何の配給所か
　ロ　どの町會に配給してゐるか
　ハ　配給所の狀況
　○　店頭の品物
　○　店の構
　○　賣る人數
　○　賣るに要する道具
　○　貼り紙に何が書いてあるか
　ニ　今日の買手は何町會の人か何隣組の人か
　○　買手の持物
　○　買ふ時はどんなにして買つてゐるか
　（切符を渡し印をついて貰ふ）

2　まとめ
　イ　どんな品物が配給になつてゐるか
　ロ　何故斯樣な品物が配給になつてゐるか
　ハ　配給所を觀察しての感想發表
　ニ　皇國民の有難さ
　ホ　買ふ者賣る者の心得
　へ　略圖の仕上げ

注意事項

取扱上の注意

1　豫め兒童の家で日常生活必需品の配給を受けてゐる店を調べさせてその店で買ふ品物とその配給店の位置及びその配給店の名前を略圖に記入させてをくこと。

2　配給を受ける日は何日になつて居り、何日目にまはり來るかについても調査させてをく、併せて配給を受ける品物で兒童の家庭で最も不足してゐる物は何か、何故少いと思ふかについても考察させてをく。

3　物の配給が少い爲、兒童の家庭では日常生活を如何に工夫して生活してゐるかについても觀察させてをく。

4　母を助けて配給店へ行き配給を受けた時の事をよく思ひ出させ、その感想をまとめて書かせる。

5　配給店に於ける物品の賣買の狀況を觀察させて、職時下の生活必需品の配給を受けて生活出來る皇國民としての有難さを充分に兒童が感得し、配給制度の優れてゐる點を認める樣に導く事が肝要である。

6　店頭に於ける貼り紙にもよく注意して觀察させ配給店に於ける賣買人の心得を考察さす。

7　教師は配給店の配給が何時頃に行はれるかを豫め調査してをくこと。

8　第一時を觀察に、第二時をまとめとするもよく、觀察に時間を要する學校に於ては一時間半を費してもよい。要するに二時間を通して觀察とまとめを終る樣にすること。

指導例

◇觀察前の指導

イ　數日前の指導

學校附近の略圖を印刷又は畫かしめて、自分の家を記入し、且つ、生活必需品の物資の配給を受ける店を記入させ、次の鄕土觀察の時間までに機會があれば進んで行き配給を受けてをくこと、そしてそれに關する感想があれば鄕土觀察の學習帳に記入させてをく。

ロ　當日出發前の指導

先づ觀察する配給所を知らせ、その位置・順路を略圖に記入するから、よく目印になる物及び場所を見てをく事を注意し、現地へ行つて迷惑にならぬ樣、品物にさはらず、且つ無作法にならぬ樣に留意させる。

◇現地に於ける觀察

配給所の店頭に並べ、賣買、及び街路の通路に邪魔にならぬ樣に氣をつけて要項に示した事項を觀察させて行く。

即ち何を配給する店か、どの町會に配給するかを並べてある物及び貼りつけた紙・或は小黑板・當番表等によつて觀察させ、更に店の構・看板・屋號等の觀察により、その店の配給所となる前の樣子、及び鄕土生活との關係を考察させ、更に、現在の賣る人數、又は賣るために要する道具・施設等にも及び之等を如何に使用して賣つて居られるかを觀察し、買ふ者の心得を感得させ、自分の經驗に徴して考察さす。斯くして他の品物の配給所一、二の店を觀察し、それ〴〵比較して考察さす。

◇觀察後の處理

觀察及び兒童の調査によつて現下如何なる品物が配給制度になつてゐるか、何故斯樣な品物が配給になつてゐるかを考察させ、物資の偏在買溜を防ぎ、公平に一定量の必需品を配給する事により、需給を圓滑にし國民凡てが大御憲に浴す樣にされたものがこの配給制度である事を理會さす。

配給は切符又は通帳によつて行はれ、物資不足、勝たんが爲の節約に國民相互が讓り合ひ配給量に甘んじ、生活に工夫を加へ、喜んで配給制度に從ふ事が銃後國民の務である。從つて賣る人は私利私欲の爲に配給を粗げず、出來る限り親切に公平に配給すべきであり、買ふ人は順序よく自分勝手に一人よければよいと言ふ樣にならぬ等の心得が必要であることを兒童の感想發表をとほしてまとめる。

◇備考

配給所を觀察さす爲教師は學校からの距離、それに要する時間、及び如何なる時間に行くべきか、どことどこの配給所を廻るかに就て豫め調べてをく事が肝要である。又配給所の人が手隙であれば話して貰つたり或は兒童の質問に答へてもらふ樣にすれば一層觀察に興味が加はり効果が大きい。

教材（十一月四時間中の第二時）

教材　町の店（五時間中の第三時）

要旨

學校附近の目抜きの商店街を觀察させ、その通りの商店の種類・店の構・道路等の關係を調べさせ、此等の町が漸次統制經濟の影響により新しい體制に移り變る姿を知らせる。

要項

1 出發前の指導
　目的指示・略圖の頒布
　學校よりの位置・距離
2 商店街の調査
　分團別の調査
　記號を約束す
　調査、略圖に記入
3 まとめ
　商店の種類
　店の構
　道路・堀との關係
　最近商店街の變つて來た所

注意事項

取扱上の注意

1 取扱ひに當つては要項の順序は前後してもよく、學區により重點の變更は當然のことである。
2 實地に調べた事項の整理であるから出來るだけ具體的に取扱ふこと。
3 店の位置についてどんな處にあつたかを聽き、簡單に理由に觸れてもよい。
4 店の利用については季節により、或は一日中でも時間に依り異なるので、兒童の生活經驗からこれを取扱ふ。
5 同じ店で季節により商賣を變へるのがある。例へば夏は氷屋で冬は燒いも屋をするやうな店である。これ等についても兒童の生活經驗より之を取扱ひたい。
6 時局下統制經濟のため目抜きの商店が段々戸を締め、ひつそりして行く姿を觀させ戰時下の意識を強めさす事が肝要である。
7 畫店・夜店等は兒童の生活經驗を基にして取扱ひ、親しみの情を養ふと共に、必ず父兄と共に行くといふ樣に生活指導にも觸れたい。
8 學區附近の店の指導が終れば、大阪市内の有名な商店街及び非常な發展をしてゐる百貨店についても簡單に取扱つてもよい。

連絡

國讀四　十五　大　阪

指導例

◇私の家で日常買物する店を調べる

數日前に豫め各自の家で日常買物する店を調べさせておくのであるが、先づ「みんなのお家では米・砂糖・野菜・果物・菓子・日用品・學用品等は何處の店から買ひますか、お母さん等にお尋ねして調べてきなさい。」と言つて買物する商店の名と品物を羅列的に書いたものや簡單な見取圖にしたもの等を示して調べ方の參考にするがよい。しかしこの際唯まねるだけでなく色々工夫するやう導くがよい。「みんなのお家で買物する店を調べてきましたね。一度見せて貰ひませう。」と言つて兒童が書いてきたものを机上に置かせて點檢する。工夫して調べられたのがあれば「こんなによく解るやうに調べた人がゐます。」と言つて皆に示してやるのもよい。次に四五名を指名して調べて來たことを發表させて、米・炭・砂糖・野菜・鮮魚等は配給所から、その他の品物も大體同じ店で買つてゐる者が多いことを氣付かせておくがよい。

◇商店の多くある通の觀察

次に商店の多くある通を描いた小黑板を示して「今日はお店の多くある通に行つてどんな店が、何處にあるか、又買物をしてゐる人々の樣子や、お店の樣子等を見て、後で配る略圖に書いて貰ひます。書き方は色鉛筆で色別けしてもよくタメコ屋、青物屋と記入してもよい。途中の町の樣子についてもよくみておきなさい。」と言つて略圖を與へて引率し、目的地に向ふ。觀察地に到着すると方位を確め、略圖と現地を對比させて調査の範圍を定める。人通が多いから不作法なことをして人に迷惑をかけたり、お店の商賣の邪魔をしたりしないやうに注意しておく。兒童が調べてゐる時教師は季節によつて商賣を變へる店、以前と商賣の變つた店又最近戸をしめて商賣をしてゐない家にも注意させて略圖に記入させ、統制經濟となつて昔の利益追求の個人主義體制が廢れて來て、且つて華かなりし目抜きの商店街が段々さびれて行く情勢を觀察させ、深く時局を認識し、皇國民としての自覺に培ふ樣にする。

◇大阪市の有名な商店街及百貨店の取扱

斯樣な場所を學校の附近に持たぬ所に於ては觀察に出かける必要はない。斯樣な所に行つた事の經驗ある兒童の發表により專門店が多く、店の構も大きく店員の數も多い等その特徴を知らせ街路、堀等、との關係も考察さす、百貨店では品物が多く買ふに便利であること等の特質を知らせ、戰時下斯樣な所に出入する人も觀察させ、兒童の自覺を促がす。

◇備　考

1 準　備
　見取圖の範作品
　小黑板に商店の多くある通の略圖
　商店街の略圖の印刷・物を兒童數だけ
　色鉛筆
2 教師は豫め調査に適當な場所を選定し、よく調査し兒童の質問及び指導に遺漏のないやうにしておくこと。

教材（十一月四時間中の第三時）

教材　工場

（二時間中の第一時）

要旨

學校の近くの工場を見學し工場工業の特性を把握し工業の重大性を知らす。

要項

一　學校附近に工場があるか

二　工場の見學

1受付の前にて

○工場名

○工場の建物の概觀

○何を作る工場か

2工場内の觀察

○働いてゐる人の樣子

○機械の數・種類

○製造過程の大要

○製品

3工場工業のすぐれてゐる點

注意事項

取扱上の注意

1 或町では工場が軒を連ねてゐるだらう。或町では工場がないかも知れない。しかし工業は我が大阪の主要なる產業部面であるから、工場の存在しない町にある學校でも少し遠くても見學し是非觀察指導に當られたい。

2 工場の見學は適切なものと時間とがあれば實施するもよいが、必ずしもその必要はない。兒童は工場の所在、製品などについては相當知つてゐる筈であるからそれらをまとめるつもりで指導を進めるとよい。尙必要ある場合には準備として調べさせておくとよい。

3 見學せんとする場合、工場に豫め見學を願出ておく事が必要である。見學する工場は平和產業に從事する工場を選び工場工業の特徴を有する所を選べばよい。

4 工場を見學し、工業を取扱ふ際には教師用附錄（特に二頁下段終り頃↓三頁八行・五頁下段及び十四頁・十五頁）をよく讀んでおく事が肝要である。

5 全產品をしらべる場合にその原料にふれておくことは必要であるが、兒童が日常見聞しないやうなものならば余りふれなくともよい。

6 工場の立地の吟味は兒童には仲々困難なことであるから、要項中に加へなかつたが、その著しいものがあればこれにふれることは鄕土の觀察として誠に望ましいことである。

7 しかし兒童の生活とかけはなれ、兒童が了解しがたいものならば後日にゆづる方がよい。工業中最も多數をしめる種類のものは鄕土の生產的特色を如實に示すものであるから、それについては充分の觀察指導を行ふべきである。

8 工場の分布圖作製はよほど困難な作業であるが、指導者はよく調査して、準備しておく必要がある。特に工場分布圖作製に當つては防諜についてよく注意せねばならぬ。その方法は家内工業の取扱上の注意に述べてあるから參照されたい。兒童にも正確なものを作らせることは重要な作業の一つであるが、よほど時間もかゝることであり、四年生としては無理かと思はれるから、簡易な作り方を指導してやるとよい。但し之れは外部に發表しない事及び平素嚴重に保管をしておく事を必要とする。

準備

白地圖　工場分布圖　製產品標本又は寫眞類

國語讀本四　十五　大阪

指導例

◇環境

私の町では東部に木製品工場が一つ、北部に紙器工場が一つ、南西部にセルロイド工場が一つ、合はせて三工場が散在するのみである。大阪市の如く大商工業都市に於いては林立する煙突から絶えず煙をはき出して近代的工業地域を鄕土とする町もあるだらう。小工場が軒を連ねてゐる町もあるだらう。僅かに工場が存在するところもあるだらう。否少しも存在しない町もあることゝ思はれる。

こゝでは工場が極く僅かしか存在しない前述の私の町を觀察の對象として指導例を掲げる。

◇觀察前の指導

次の時間、工場に就いて學習するから自分の家の近くの工場にどんな工場があるか、この學校に來てゐる學區内にどんな工場があるかを調べさせておく、そしてその工場に通ふ人々の態度なり時間、工場の建物についても自由に觀察させてをき、略圖に記入學習帳に記入させてをく

教師は學區内の工場の中で、紡績とか、直接軍需品工場でない工場とかを調査し、之れに見學を願出ておく事が必要である。その製品を觀察するよりも一人の產業職士が多くの機械を受持つて働き、生產品が極めて多いと言ふ工場工業の特徴を把握出來る樣な工場を觀察させ樣準備する。

◇觀察

兒童に工場の見學は見學事項を他に洩さぬ事の肝要な事を知らせ工場に至る。受付の前の廣場で、工場は大きな建築物を有し、その屋根の形、及び明り窓等他の建築物と違ふ所を觀察させ案内者に禮をし、說明を受け見學する。產業職士にも感謝の氣持を以て見學し多くの機械を受持ち、多量の生產をしてゐる實情を知らせ、如何なる過程を經て製造されてゐるかにも氣をつけさす。

斯樣にして行はれる工業を工場工業と言ふ事を知らせ、何故この工場がこゝに建てられたかも考察させる。

◇觀察後のまとめ

兒童の調査した工場を略圖上に描き共同作として學區内の工場を記入し、この地方が工業の盛んな所であるか、どうかを考察させ、工業の重要性と工場工業の占むる位置を知らせる。

◇備考

1工場が澤山あり各種のものが存在する場合には白地圖記入にのみ多量の時間をとられることであるから、教授用分布圖を中心に取扱ふか或はその他の方法を工夫する必要があらう。

2教授用分布圖はなるべく種類別色別けにし、どんな種類のものが一番多いかを確かめさせ、これについて指導することは望ましいことである。

3指導前の觀察は各自由にさせるもよく、工場の多い地域に於ては私の町の地域的特色を利用して、適當に地域を分割し班別觀察などの方法もよいであらう。又白地圖に記入する場合にも各兒觀察した一分割地域のみに限定することも時間的節約の一方法であらう。

教材（十一月四時間中の第四時）

教材　工場

（二時間中の第二時）

要旨

前時に引續いて、家内工業を觀察の對象として、私の町に於いて小規模ながらも、どんな物が作られてゐるかを明らかにすると共に工場と比較して工業の意味を知らせ國防上家内工業の重要性を考察さす。

要項

1 家内工場の見學
　イ　工場の名前
　ロ　家の建て方工場と比較
　ハ　家の作り方
　ニ　機械の數
　ホ　働く人の數
　ヘ　製品
　ト　家内工業と言ふこと
　チ　家内工業のすぐれてゐる點
2 觀察後の指導
　工業の意味
　工業の重要性
　家内工業と工場工業との比較
　國防と工業

注意事項

取扱上の注意

1 工場はその施設の極めて明白な爲に兒童はその存在を確認してゐるであらうが、家内工業はその性質上割合に認識してゐないやうであるから、實地の觀察指導が必要であらう。
2 見學する場合には兒童に了解し易い適切なものを選ぶことが大切である。そして工場と比較しつゝ觀察させ、その差異に注意させるとよい。この場合技術的方面への深入りは極力さけねばならぬ。
3 分布圖は工場と家内工業とを別々に作るもよく、同一白地圖に併せ描くのも興味深いものが出來ると思はれる。
4 分布圖は種類別によつて着色したり、その他の方法で類別記入するとよい。
　工業分類の一例として府縣統計書によるものをあげておく。
　織維工業……紡績・各種織物・晒染物・メリヤス等
　金屬機械工業……金屬製錬・造船・車輛・體温計・農具等
　窯　業……陶磁器・硝子・セメント・土管等
　化學工業……人絹・スフ・和紙・漆器・火藥・石鹸・肥料等
　食料品工業……酒類・醬油・菓子・豆腐・乳製品・罐詰等
　雜工業……紙函・扇子・傘・木製品・玩具・卸・帽子等
5 分布圖を作製するばかりでなく、作り上げたものをよく見させて考へついたことを發表させ又發表の態度をつくることが望ましい。そして指導者は適切にまとめてやることが肝要である。
6 工業の意味と云つてもむつかしく定義的に授けるのではなく、兒童に會得し易いやうに具體的に指導するのである。
7 我が國現下の狀勢に鑑み、工業の重要性を理會させると共に防諜思想の涵養に充分力を致さなければならない。

準備

白地圖　家内工業分布圖。

指導例

◇環境

家内工業の全く存在しない町は極く稀で、何らかのものが存在すると思はれる。私の町には工場は少いが家内工業は割合に多い。即ち學校の北部並びに西部地域に或程度の集合性を持つてゐる。北部ではバス通りに、おけ・提灯・のり・ふすま・うどん・印刷・豆腐・机・簞笥類などの製造が、西部では南北に通ずる三つの通りに、竹かご・おけ・おかき・あめ・パン・豆腐・指物・簞笥・傘・下駄・玩具・ブリキ製品などの製造が行はれてゐる。その他の東部及南部地域は大正・昭和にかけて新しく發展した純住宅地域で机・簞笥の製造その他極少數存在するのみである。こゝでは割合に多く存在する私の町を對象として指導例を掲げる。

◇觀察前の指導

「前時間には工場について習ひましたが今日はそれとよく似たことを習ひませう。」と前提して「工場のやうな大きな建物の中でなく普通の家の中で品物を造つてゐるところがないでせうか。」と尋ねる。そして兒童の發表を適當に是認して、「今日はそれらを觀に參りませう。」といつて、家内工業の觀察に引率する。

◇現地での指導

道路に沿ひつゝ觀察するのであるが、全部を見るのでなく主要な又適切なもののみに限定する。この場合觀察の中心を次の點におく。

「どんな材料を使つて何を作つてゐるか。」「どこで造つてゐるか」「誰が働いてゐるか。」「機械を使つてゐるか。」

かくして工場と比較しつゝ「工場とちがふ點を言つてごらんなさい。」と考へついたことを言はせて、製産の場所が家の内であること、並びに小規模である點を認識させる。

◇觀察後の指導

1 分布圖を中心に

教授用の分布圖を掲示して「これは今見て來たやうな家の内で物を作つてゐるものを全部先生がしらべて畫いたものです。割合に澤山ありますね。……どの邊に多いでせうかと。」問ひ、北部バス通り並びに西部地域に集合性を持つてゐることを發見させる。この場合兒童は小さく觀る眼しか持つてゐないだらうから、なるべく大きく群を發見するやうに導くことが大切である。

2 工業の意味

「工場でもよく、家の内でもよく、厚紙から紙箱をつくつたり、竹や紙を使つて提灯を作つたりする仕事を工業といふのです。」といつた程度に具體的にわかり易く工業の意味をつかませておく。

3 工業の重要性と防諜思想の涵養

我が國の現狀に鑑み、國民生産上から、軍事上から工業の大切なる所以を明らかにし、殊に國防上から防諜思想の涵養につとめる。

◇備考

私の町に於ける全部の家内工業を觀察することは勿論不可能であるし、尚又本時以前の教材の指導に當つて實地觀察した地域と、今後に於ける觀察地域とがなるべく重複することをさけ、私の町全體を觀察させる計畫のもとに一定地域に引率することが望ましい。北部のバス通りを觀察することにしたのもこの配慮によるのである。

教材（十一月三時間中の第一時）

教材　道路・停車場

（三時間中の第一時）

要旨

町の道路交通施設、交通機關並びに交通狀況を觀察させ、交通が吾々の生活と密接な關係を有することを理會させると共に、これら交通事業に從事する人々の勞に感謝させ交通道德を涵養する。

要項

1 町の道路の分布（道路網）
- 主要道路はどれか
- その方向や交叉點の位置
- 他の地域及び重要な目的物との連絡

2 乘物と道路
- 道路の幅
- 鋪裝されてゐるか、ゐないか
- 並木や街燈・排水溝・暗渠

3 停車場
- 停留場・驛の位置と道路
- 乘物の種類と積荷の種類
- 乘物の動力

4 交通の頻繁な理由

5 現在の交通系の便・不便

注意事項

取扱上の注意

1 此の時代の兒童に交通の意義を話しても容易に理會されにくいからなるべくむつかしい語句をさけて陸上・水上・航空・通信と順序を追つて觀察させ、最後に交通とは大體こんなものであるといふことを把握させるやうにする。

2 觀察前に、自分の町を中心とした道路網圖を見せてその分布狀態、觀察の地點、主要道路と他の地域との連絡などを知らせておくがよい。

3 道路の觀察では、鋪裝の有無やその種類を觀察させ田舍の路を歩いた時の感じと比較させることによつて鋪裝してあることが人の歩行及び車馬の交通に都合のよいことを知らせ、又電車通では歩道・車道・軌道の區分を知らせる。

4 道路に面する地域が住宅街・商店街・工場などによつて道路の廣狹に相違ある場合にはその理由を考へさせる。

5 往來の狀況は交叉點附近で觀察させるがよい。

6 乘物についてはその種類・速さ・運搬能力・行先などを調べさせ、それらは何の力で動いてゐるかを知らせ、又積荷の種類を調べ、特殊な貨物と車の種類との關係を考へさせ、何處から積んで來るかなどを知らすがよい。

7 或る道路には特に人通りが多いとか、バスが通るとかいふ場合はその理由を考へさせ、町の各道路の特色を知らせる。

8 道路が附近の家屋よりも高くしてある場合はその理由を考へ、又新しく道路を通じるために家屋の立退きの行はれてゐる場合にはその道路が開通することによつてどのやうな便利があるかを知らせ將來町の發展のために現在の交通系がどのやうにあつたらよいかなどをも考へさせるがよい。又新しく開かれる土地で道路が先に敷設してある場合には都市計畫について知らせる。

準備

白地圖　絵　町の道順網圖　大阪市交通圖

連

ヨミカタ二　二十六　汽車　よみかた三　二十三自動車　二十四長い道　よみかた四
乘合自動車　初算三　正一君ノ村　小數　イロイロナ問題（六月）トナリノ町マデ歩ケ
歩ケ　初算四　私ノ家カラ　イロイロナ問題（二月）　初圖一　14汽車　初圖二男子
用　25もけいの乘物

指導例

◇出發前の指導

この町を中心とした交通網圖を用意し、先づこの地圖で道路の分布狀態の大樣を頭に入れておくと都合がよい。學校の門を出たところから「このやうに行けば何處へ行くか。」とか「この廣い通りは何といふ通りか。」などの問によつて重要道路の名稱やその方向及び他の地域との連絡の狀態を知らせておく。

次に「今日はこの町の道路や往來の樣子を調べるのだが何處がよいか。」と考へさせ「〇〇交叉點」とか「〇〇通」などを發表させる。「それではその交叉點はこの地圖で何處に當るか。」とその位置を明らかにし、そこに到着する道順にはどんなものがあるかを話合ふ。幾通りかの道が通じて居れば各班別に指定して「途中では道路の鋪裝の樣子や並木があるか、ないか、バスの停留所は何處になつてゐるかなど氣付いたことは何でも白地圖に書いておくやうに。」と豫め觀察の要點を命じておくがよい。

◇目的地での指導

交叉點で先づ氣付くことは信號燈であらう。信號の變る度に電車はどのやうに動くか、殊に異つた方向へ曲る電車はどの時に動き出すかなど二、三度見せたら了解されるであらう。尙交叉點の特別の施設に注意させ、電車の「引返し」線、信號の發令所又は直交線以外に曲つてゐる軌道などを觀察させ、轉轍か自動的に行はれることなどに興味をもたせる。其の他綠地帶のあることや橫斷する場所の標示などに注意させる。

こゝで多くの兒童を一ヶ所に集めておくことは交通の防害にもなるし觀察にも不便であるから、豫め調査事項（例へば乘物の種類、積荷の種類、電車の行先など）とその調べ方を指導して後、四ヶ所位に分けて觀察させるがよい。

適當な時間に再び集合を命じ、今調査した事項を發表させ簡單にまとめてやる。例へば「馬車で運搬してゐたものは何か。」と尋ねば鐵板であるとか竹又は木材など答へ、それらをなぜ速い自動車によつて運んでゐないかを考へさせると、乘物の關係が明らかになる。又「自動車の動力にはどんなものがあつたか。」を尋ねるとガソリン・木炭・電氣などをあげれば時局との關係を知ることが出來る。

次に歸途の觀察指導をするのであるが豫め教師の實地踏査によつて模式的な道順を選んで全兒童に注意させながら歸校し、まとめは教室でもよい。

◇觀察の處理

各自の觀察を發表させながら各道路の特色がわかるやうにする。例へば「何々通りは人通りで多かつた。」ことから「附近に町場があるから。」だとか「何々通りは、道幅が非常に廣かつた。」ことによつて將來「この道路はどこに通じてバスが通るのだ。」などこの町の發展に道路が大いに役立つてゐることを理會させる。

本時の觀察は極めて一小部分に過ぎないがこれらの交通路は、大阪市の交通系やそれ以上の廣範圍にわたる交通系に統一されて一脈をなすものであることを知らせ、吾々の生活と密接な關係を有することを感得させる。

教材（十二月三時間中の第二時）

教材　河川（三時間中の第二時）

要旨

前時の陸上交通と比較しながら水上交通の觀察をなし、大阪の發展が特に水と深い關係を有し昔から「水の都」、と言はれてきた所以を知らせると共にこれら水路の開鑿に先人の努力をしのばせ感謝の念を起させる。

要項

1 舟の通る路
　河川
　運河
　海
2 船の種類
　川船
　艀船
　曳船
　渡船
　巡航船
3 川の設備
　可動堰
　橋梁（水道管）
　渡場
　河底トンネル
　荷揚場・倉庫
4 河川愛護
　浚渫改修工事
　護岸工事

注意事項

取扱上の注意

1 河川交通を陸上の交通に比較すれば舟の通る路が川や運河や海であり、船頭は運轉手、曳船は貨物列車に相當すると説明すれば興味をもつて觀察するであらう。
2 河川交通を觀察するには橋上が便利である。舟の積荷・曳舟などの狀態をよく見ることが出來る。
3 附近に渡場・閘門・荷揚場などがあれば見させておくとよい。
4 橋梁は水陸交通の交叉する處である。橋下を船が通過する樣子を見させ、水上交通の障碍を避けるために、橋の形・構造がどのやうになつてゐるかを考へさせる。
　尙橋の名稱・河岸との關係・使用材料等を見させ水道管の附設されてゐるものなど注意させる。
5 改修・浚渫工事又は護岸工事などを見れば古人の運河開鑿の努力を話し、それによつて水害からまぬがれ交通が便になつたことなどを知らせる。
6 水上輸送と荷揚場・倉庫等の關係を知らせ、貨物にはどんなものがあるか、又その積出し荷揚げなどに注意させる。（但し防諜に留意すること）
7 市内の水路の見取圖を作製し、築港・安治川・木津川・尻無川と運河との關係を知らせることが必要である。
8 水上輸送は大量輸送で運賃が低廉なため特殊の貨物があることを發見させる。
9 船舶往來の頻繁なる河川、又は交通の少いところには橋梁の代りに渡船の設備がある。然し渡場は極めて不便なため河底トンネルを開設しつゝあること。尙その工事の困難について話して置きたい。

準備

白地圖　市内河川網圖

連絡

國讀卷五　大川・水の旅　卷七　大阪

指導例

◇現地での指導

川岸に立つて眺めてゐると曳船にひかれながら幾つもの團平船が川下からゆつくり上つて行く。それとすれ違ひに一ぱい木材を積んだ舟が靜かに辷るやうに下つてくる。船ばたが水に浸る程積んでゐる。舟を家として生活してゐる人たちがそれ〴〵の持場にいそ〳〵と働いてゐるのが見える。行き交ふ舟はどれに氣をとられるといふこともない。

急に川下の方からサイレンの音が二、三笛響いた。やがて川幅が狹く感じられる程の内海航路の船が白波をけたてゝ上つてくる。その悠々とした姿に兒童の眼は一せいにひきつけられる。

「大きいな！」「〇〇丸だ」とはしやいでくる。

「あの船はどこから來たのですか。」「四國の高松からです。」

「なぜ知つてゐますか。」「去年の夏四國へ歸へるとき乘りました。」など得意になる者もゐる。「こんなにお客さんばかりたくさん乘せる船を何んといひますか。」「客船です。」「さう客船ですね。あの向ふに荷物を積んでゐる船は何といふのですか。」あれは貨物船です。」「客船と貨物船とどんなに違つてゐるかよく見なさい。」「貨物船が荷物を引上げてゐる柱のやうなのを何といふのですか。」「起重機です。」尙岸に設備してある起重機にも注意する。

あの左には石炭を上げてゐる人達がたくさん働いてゐる。こちらの岸では機械で揚げてゐる。大きな鐵の箱のやうなものが恰度人の手のやうに忌ふまゝに操られて石炭を一ぱいつかみながら工場の中へ運んでいく。といつた樣に、いろ〳〵の會話をしながら兒童の眼を一點に集中させることが難然とした物を觀察する場合は特に大事なことである。

急に上手の渡場が騷しくなる。今通行人を滿載した渡船が岸を離れんとしてゐるところである。すると向ふ岸の渡船もこちらへやつて來だした。こちらの舟は上流へ大きく弧を描きながら渡つてゐる。「あの舟はなぜ眞直に行かないのですか。」「水の流れがあるからです。」「向ふの舟はどんなに來るか見てゐなさい。」「川下へ廻りました。」など流水との關係を數へる。

その間にも前方には石炭や砂・木材を積んだ舟がひつきりなしに通り過ぎる。それらの積荷の種類を記入させ主に團平船に積んでゐることに注意させる。これらの貨物は大抵は築港まで大きな船で積んで來るが川が淺いため港で小さな舟に積みかへることを知らせ、「なぜ早く港で陸揚げしてトラックや馬車で運ばないか。」と疑問を起させ、舟は陸上輸送よりもずつと運賃が安い上に多量の荷物を積むことが出來ることを考へさせ、水上輸送の特色を知らせる。

このやうに大きな川は陸上交通以上に舟の交通が頻繁であるから對岸との交通は渡船では危險であり、又渡場で待たされ車馬は通れないなどの不便があるので河底トンネルや開閉橋など設けられてゐることを話してやる。運河などの小さな舟しか通らないところでは橋が架つてゐるが、舟の通過に便なやうに吊橋又は橋下に信號燈が備へられてゐることなど見逃してはならない。

次には岸に並んでゐる倉庫・荷揚場（貨物の種類、どこから來たか、どこへ出すかなど）を觀察しながら位置をかへる。その間護岸工事について「このコンクリートの岸が少し高くしてあるのは、昭和九年の大風水害後に、高潮を防ぐため莫大な費用をかけて築いたものである。」ことを話し當時の慘狀をしのばせるがよい。最後に教室にかへり全市の水路網圖を示し築港から小舟に積まれた荷物はこのやうに川を上り運河に入つて市の中央に運ばれ倉庫・工場・商店等に揚げられるのであることを知らせ、大阪市の商工業の發展が河川の發達に大きな原因のあることをさとらせ、先人がこれら河川運河の開鑿に努力したことを話し感謝の念を起させるやう指導するがよい。

教材（十二月三時間中の第三時）

教材　航空・通信
（三時間中の第三時）

要旨

文明の進歩と共に近年大いに發達してきた航空・通信についてそれらが我々の生活と如何なる關係をもつてゐるかを知らせ文明の世に生れた有難さを感じさせたい。

要項

1 航空
　○飛行機の利用
　空の旅
　航空郵便
　飛行機の港
　空の燈臺
2 通信
　○郵便局とポスト
　電信
　電話
　ラジオ
3 交通のまとめ
　交通とは人や物・言葉などのゆきゝ

注意事項

取扱上の注意

1 航空機の中でも軍用機は常に見てよく知つてゐるのであるが、民間の輸送機の役割も實大であることを知らせる。飛行場の見學は最近許されなくなつたから、旅客機の發着狀況・航空設備等を說明してやるがよい。
2 空中輸送の生命は「速い」ことにあるから既習の陸上・水上交通とその輸送時間を比較して具體的に知らせるがよい。
3 電話局・電信局・放送局等の見學も出來にくいからその活動の狀況を話してやるがよい。
4 各地からの郵便を集め、その差出し日附と到着の日とから大阪を中心とした等日數圖を描かせてもおもしろい。
5 電信・電話・ラヂオ等は居ながらにして遠方と話合ふことが出來、文化の發達に重大な役割を演ずると共に、大東亞戰爭以後吾々がニュースを期待することの切なることを思ひ、今日の國防國家體制に必要缺くべからざるものであることを知らせ、その恩惠を感じさせる。
6 交通教材の取扱ひは他地域との聯關に於いて意義を有するものであるから出來る限り兒童の理解の範圍内にて廣い地域をとるべきである。
7 最後に交通教材全體をまとめて「交通」の概念をつかませる。
8 交通と防諜關係については特に注意を拂つて取扱ふ。

準備

取扱上の注意(4)の作圖には全日本或は滿洲・支那等必要に應じた白地圖を用意する。

指導例

◇航空について

「大東亞戰爭以來毎日の如く新聞やラヂオで皇軍の活躍振りが報道されてゐるから兒童の頭には飛行機といへばすぐ陸や海の荒鷲を想ひ起すであらう。これらは軍用機であるが、その陰にある民間航空機の働きを忘れてはならない。こゝで取扱ふ航空機は戰鬪してゐるものではなく、あまり兒童に關心をもたれてゐない通信や輸送に從事するものについて考へるのである。

それ故「飛行機にはどんなものがあるか。」と問へば戰鬪機・爆擊機など答へるであらう。そこでこれら戰爭のために使はれる飛行機を軍用機といふのであることを敎へ、その他に人や郵便物などを運ぶ民間機のあることを知らせる。

次に民間機の働きについて話すのであるが

「一體飛行機はこれまでに學んだ陸上や水上の交通機關よりも自由に廣い大空を飛ぶことが出來ます。その上一時間に二、三百粁も飛ぶのがありますから急用の場合は一番便利な乘物です。東京から大阪まで一時間餘りで着き滿洲の大連を朝たてば夕方には大阪に着くことが出來る程速いのです。唯今支那大陸や南洋方面で活躍して居られる兵隊さんの樣子を寫した寫眞や手紙など一刻でも早く内地の人々に屆けようとするときは飛行機で運ぶのです。」

など航空機の性能やその交通の特色を明らかにし、飛行場の見學をした者もあるだらうから旅客機の發着の樣子を話させる。尙最近には患者の急送、通商輸送の例を擧げてその利用が進歩したことを話してやつてもよい。

又夜間飛行のために航空燈臺が設けられてゐることを知らせる。

◇通信について

手紙や葉書を書き、それをポストに入れたり郵便局にもつて行つたりしたことは誰でもやつて居る。そこで

「皆さんは郵便をポストに入れにいつたことがあるでせう。一體ポストの中に入つた郵便はどうなるでせうか。」と問へば「郵便屋さんが集めに來ます。」と答へる。又「郵便屋さんはそれをどこにもつて行くのでせうか。」と尋ねると「郵便局です。」と答へ、ポストと郵便局の關係をはつきりさせる。郵便局ではそれ〴〵處理して運送し目的地の郵便局から宛名の人に渡される。これらの順序を例によつて、話してやるがよい。

◇郵便の到着日數調査

兒童の中にはいろ〳〵の地方から手紙や葉書を受取つてゐるだらう。内地は勿論、遠くは滿洲・支那・南洋等から來たものもあるだらう。これらのうち到着した日を記憶してゐるものについては日附スタンプによつて發信の日を知ることが出來る。從つて發信日と到着日とから所要の日數を算出することができ、その日數から大阪を中心とした等日數圖が作製される。

これを經續的に行へば相當廣範圍にわたつて調査することが出來る。又學校では毎日多數の受信があるから、これで補へば一層完全なものが出來るであらう。

◇電信電話ラヂオについて

急な用件が起り郵便でも間に合はぬ場合に電信があり郵便局や驛などに「カチ〳〵」と打電してゐるのを見たことを想起させる。電話については自家用電話もある家もあるからそれがどの電話局に屬してゐるかを知らせる。

ラヂオは大抵の家庭に備へられてゐるが、無線でありながら遠くの聲を聞くことが出來ることについて科學の發達したおかげを感じさせる。

◇交通の總まとめ

以上三時間にわたつて陸上・水上・航空通信の觀察を終つたのであるが、このやうに廣範圍にわたつて詳細に取扱ふことは困難であらうから手近のものに主力を注げばよい。最後にこれらの人や物や言葉などが離れた土地へ通ふことを「交通」といふことをさとらせねばならない。交通の便利な世に生れた仕合せを感じさせる。

教材（一月三時間中の第二時）

教材神社

（四時間中の第二時）

要旨

郷土の人々の崇敬の的である氏神。様に参拜し、その境域の諸事象を觀察させ、祭日の諸行事を想起させて、その精神的意義を明らかにし、神に結ばれ神と共にある日常生活に深く思ひを致させ、神ながらの國日本の尊い姿を理會させて敬神の念を益々深からしめる。

要項

1 教室での指導
　参拜の心構
　神社参拜作法
2 参拜途中の觀察

注意事項

取扱上の注意

1 お宮・お寺・學校の三者は實に日本國民の精神的郷土であり、道場である。この意味に於いて郷土の觀察で氏神を取扱ふことは、國民精神涵成上絶好の機會であるから、指導者は物心兩面の準備を萬全にし、充分その効果をあげねばならぬ。特に指導者が神に對する絶對の歸依と敬虔な態度を持つことが望ましい。知的な方面の指導はあくまで第二義であることを忘れてはならない。

2 氏神本來の意義は、氏上、即ち氏の祖神である。例へば藤原氏は、その祖神天兒屋根命を氏神とし、平氏の氏神は桓武天皇、清和源氏の氏神は清和天皇の如くである。然し今日氏といふものが次第に不明になり、從つて自家の氏神が確かでないのが殆んどである。よし明瞭であつても、當地の如く他國よりの移住者の集りである所では、そこに精神的中心となるものがなければならぬ。かくて今日ではその土地を生み給へる鎮守の神、即ち土産神を一般に氏神としてゐる。本案では後者の意味で書いた。

3 多くの兒童の中には或は自家の氏神の明らかな者もあらうし、又遠隔地より通學してゐて現に参拜せる土産神が自分の土産神でないものもあるだらうが、これ等の者にはこの取扱を通じて、夫々自己の氏神、土産神に對して、遙かに深き思を致す樣注意すべきである。

4 氏神と氏子については古田擴氏著「復習」の中の次の話が平易でよくその神德を語つてゐる。

「みな村の人はの、氏子といふて、氏神樣は村中の親なのぢやからの、それでどの氏子にも目に見えんが綱がついとるの、そして、村から外へ出る時は、お氣づかひなさつて、そろり〳〵とその綱をおのばしなさるの、歸りはの、氏神樣がおよろこびになつて、おう戻んたか〳〵といふての、綱を急いでお縋よせになるのぢや、行きは遠いが歸りは早いといふのはそれぢやの。」

教材（一月三時間中の第二時）

要項（つゞき）

3 現地での指導
　参拜
　氏神と氏子（私達）
　祭神 由來 について
　境内にあるもの
　　本殿
　　拜殿
　　繪馬堂
　　御手洗
　　石段
　　玉垣
　　鳥居
　祭日とその行事
　寶物拜觀
　清掃奉仕
4 學校までの距離
4 教室での整理

注意事項

これは著者が幼い頃母の背で聞いた思出話であるが、これによつて我々は生れ乍らにして神の子であり、神の限りなきめぐみを受け、常に神と共にあることが思はれ、油然と神に對する敬仰・感謝の念の湧くのを覺える。この感情はやがて、この神の意を體し、日常の一投足までも常に神意に副ひ奉る樣心掛けねばならぬといふ清淨で純な決意を起させる。

5 祭神、由來、神德については次の點に注意せねばならぬ。即ち多くの神の中には、わが國史に悖るもの、淫詞邪教に類する如何はしいものがある。これ等については具體的に觸れることを避け、一般的に前記（4）について神德を敬仰させるに止める。

6 本取扱に於いては次の事項を併せ扱はねばならぬ。
　イ、神社の前を通るときの作法
　ロ、皇陵参拜作法は神社参拜作法と同じにすべきこと

7 學校後記號の取扱及び白地圖への記入は是非やらなければならぬ。

連絡

ヨイコドモ上、一ガツカウ　十五シンネン　ヨイコドモ下、　七ヲヂサンヲバザン
十一ウヂガミサマ　初等科修身一、十八圓山應擧　初等科修身二、三靖國神社ヨミ方一、五コマイヌサン　三十ココハドコノホソミチダ　三十一オミヤの石ダンよみ方三、一春十八お祭　初等科國語一、二參宮だより　初等科國語二、三祭にまねく、四村祭　初等科國語三、五靖國神社　カズノホン三　十月の雜題三四番エノホン三、二五お祭　初等科圖畫二男子用　十五神社うたの本十九日本初等科香樂一、十一村祭

教具

郷土白地圖

指導例

◇教室での指導

觀察といふ知的な響きを持つて之が指導に當つてはならない。あくまでも參拜である。だから參拜に際する心構を作らねばならぬ。「拜む」といふ心、この指導が教室での指導のすべてである。校門を出る時すでにこの心構が出來てゐなくてはならぬ。氏神樣への途上に於ける態度それは神の大前に進む者の敬虔な態度でなくてはならぬ。三列乃至は四列に正しく並び、歩調を揃へて、正常歩で行進させる。參拜終つて歸校する場合も同樣、どこまでも規律正しく、ゆるみのない心組であらねばならぬ。要は「拜む心」に盡きる。（但し本取扱に於ては歸校時他の仕事を課すから歸りは特別に許すことゝする。）

「今日は氏神樣へお詣りするが、皆の氏神樣はどこか、何神社か。」と尋ねてみる。恐らく大多數の兒童は正しく答へられるであらう。かうして強く氏神を腦裡に思ひ浮べさせ、その位置、學校からの方位等確める。ついで參拜の心構を充分說き聞かせ、いやしくも無禮無作法の行爲なきやう注意する。

參拜の作法　一揖　二拜　二拍手　一拜　一揖　の訓練をなす。

◇現地での指導

參拜の途中に於ては「私の町」の一部觀察になるのであるから、途中に充分氣をつけるやう注意を與へる。そうして門前町の發達、又はその名殘を止めるものに留意して「この邊の家をよく注意なさい。」「この邊は他と違つてゐるでせう。」とか注意を喚起してその特異な景觀を把握させておく。

社前に到着すれば教師は先づ先頭に立つて、兒童を導く。石段を上り鳥居をくゞり、御手洗で手を洗ひ口をすゝぎ、服裝を正し參拜の心組を示す、兒童にも同樣のことを仕終らせる。

終ればもとの如く隊を整へ拜殿に進んで禮拜をするのである。參拜終れば社前の適當な場所で、取扱上の注意3、4、5を參照して、氏神と氏子（私達）祭神由來等について說話する。この講話は神職の方に依頼するもよからうが、やはり教師自身の深い研究と調査の結果の說話が望ましい。かくて兒童各自は云ひ知れぬ深き神の御惠みに强く打たれるであらう。

さて次にこの感動の内に境内の觀察に入る。「境内にはどんなものがあるでせう。一つこまかに調べさせていたゞきませう。」と告げて、名稱の分るものにはどん〳〵發表させ、分りにくい分は教師が說明を與へてやるやうにする。石段・玉垣・鳥居・御手洗拜殿・本殿・繪馬堂・社務所・末社等の建物や境域をとり卷く鬱蒼たる森、或は清らかな水の流れ等に注意を集めるであらうし、或は社殿の形式等これらの一切が神聖にして清淨な環境の醸成に

意味づけられることに觸れて指導を進めてよい。只餘り深入りすることは警戒せねばならぬ。尙參拜人の參拜の樣子にも注意を向けさせ、その氏神樣を中心として、人も建物も山も樹もすべてが渾然と一體化して、そこに醸成してゐる崇高な氣分は充分感得させねばならぬ。單なる事物の皮相な觀察に止つてはならない。事物以上のものゝあることに留意せなければならぬ。尙年に一度乃至二度の祭に於ける諸行事又皇室の御慶事、國家の重大事、出征凱旋・除隊・入學・卒業・誕生祝等折にふれてお參りすることを想起させ、神域にある一切のもの、一切の行事がすべて神に對する氏子の赤誠の表れであることに想到させ、鄕土の人々が神社を中心に生活してゐる實情を理會させ、神を拜み、神をまつることが、國を治め家を修める根本であることを知らさせねばならぬ。次に日本の總氏神としての皇大神宮や、國を護り、我々を護り給ふ靖國の神のゐますことを知らせ、報恩感謝の心を起させる。報恩感謝の心は禮拜と報謝によつて現實にされるのであるから、毎朝神棚を拜むべきことを訓へ、終つて「皆さんの有難いといふ心持を籠めて境内の清掃させていたゞきませう。」と告げて、清掃奉仕をさせる。兒童等の眞實こめて行ずる清掃の姿こそ、そのまゝに神の姿である。教師はこの生ける神にも又敬虔な氣持を捧げて自己の心を洗ふべきである。

終つてもとの隊形に集め學校まで幾程の距離があるかたゞして、思ひ〳〵に言はせて見る。「それでは學校まで何米あるか、歸りに歩測で調べてみよう。」と告げ、要すれば歩測法を復習してやる。尙この時全兒を數班に分けて各々路を變へて測らせてもよからう。

◇歸校後の指導

教室で、今日の參拜の次第を今一度思ひ浮べさせ說話の要點、鄕土の生活と神社、鄕土の人々の崇敬等について復演し、靜かに神國に生れた有難さに浸らせる。次に參拜途中の觀察事項を發表させ、門前町等については神社と鄕土との歴史的な關係を理會させて後學校までの距離を、それ〴〵に發表させて、適當な値をきめて與へる。

次に鄕土白地圖で氏神の位置を確めさせ、神社の記號を知らせて地圖上に作業させる。

最後に各兒に參拜の感想を云はせて見て終る。その時夫々の感想に從來神に對して持つて居た感じと異るところがあることを期待してよい。取扱が徹底すればそれは自ら出て來るだらう。

◇備考

鄕土の觀察は觀察前の指導、觀察、觀察後の指導の三過程を踏むことを原則とせねばならぬことは今更云ふまでもない。

教材（一月三時間中の第三時）

教材　節分

氣候のまとめ

（三時間中の第三時）

要旨

年中行事の一つとして、古くから廣く行はれてゐる節分の夜の豆まきの行事を中心として、お互に心身清淨の氣分で之の行事を行ひ、その後の一家團欒した美風を知らせると共に、この時期の眞多の氣候狀態を觀察させ、これまでの天氣の繼續觀測の結果をまとめ學校を中心とした地方の氣候の特色をも見出させる。

要項

節分

1 豆まき
2 節分頃の氣候
3「寒」の鍛錬行事

氣候のまとめ

1 晴・曇・雨の日數
2 氣溫の日々、月別グラフ
3 雨量のグラフ
4 學校を中心とした氣候の特色

注意事項

取扱上の注意

1 豆まき

鬼遺（オニヒ）・追儺（ツイナ）とも云ふ。これは土佐日記などに記されてゐる所から見ると千年も前から行はれてゐるのであらう。この豆まきの行事は子供として忘れられない樂しみの一つである。大豆をいつて桝の中に入れ之を神樣に供へ後取おろして最初表口から部屋の隅々まで「福は内・鬼は外」といつてまき歩く。その後めい〳〵の年の數（或は一つ多く）だけいたゞく慣はしがある。この行事を通して一家團欒の模樣を知らせる。

2 節分時の氣候

節分の前は小寒・大寒といつて一年中で一番寒い時とされてゐる。霜・雪・氷・霜柱などこれまでに觀察しなかつたものを觀察することゝなる。この寒い時は寒稽古といつて武道修業が行はれ心身鍊成の好い時期とされてゐる。この時期のお天氣をしらべると共に身心の鍊成時期であることに注意したい。

3 學校を中心として氣候のまとめ

これまで一日一回の觀測ではあるが學校を中心として見る場合どの方向からの風がよく吹くか。又雨の多い月は何月と何月、少い時は何月、氣溫で最高の月は何月。最低の月は何月。これまでの觀測の平均溫度などを取拔ふ。又傾斜地であれば傾斜の方向などで風向溫度なども違ふ。南面と北面、東面と西面との差、高所と低所とによつて風の當り具合が異なり、一方は陽氣に對して陰氣となつてゐる。一方が溫潤であり他は乾燥してゐるなどの小部分の特徴にも注意させる。

其の他

大阪の氣溫及び雨量（永年の平均）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
氣溫	四・二	四・四	七・五	一三・二	一七・七	二一・九	二六・二	二七・四	二三・四	一七・二	一一・六	六・七	一五・一
雨量（粍）	45	58	96	136	125	186	151	109	179	129	77	49	1340

指導例

◇節分　校庭での指導（前半）

霜の著しく降りてゐる朝の第一時限に兒童を校庭に集めて、今日の天氣模樣を觀察しませうと告げて、校庭の隅々・屋根・どぶ板などが白くなつてゐることに注意し、きら〳〵と光つて見える霜に觸れさせて見る。又砂場・運動場の隅々に土が盛上つてゐる樣子をさうでない場所と較べさせる。直ぐに足でつぶすことなく盛上つた土を手にとつて見る。時間が經つにつれて運動場の眞中の霜柱はとけて土が濕つてくる。

用水桶には厚い氷が張つてゐる。川・池・沼などに張つた氷に惡戯をすると危險があるから注意もしておく。冬になるとこれまでにない霜・霜柱・氷雪等は兒童に喜ばれるものであるが、たゞに子供ばかりでなく大人にとつても一年中で一番身心を鍛へるのによい時期であることを色々な鍛錬行事について知らせたい。

この節分時は「寒」といつて一年中で一番寒い時である。「寒に鍛へる」といつて身心を鍛錬するのによい時期であるからどこの學校でも色々な鍛錬行事が行はれるであらう。早朝から裸足・神社參拜・清掃作業等があるであらう。かうしたことから兄・姉さんを持つ子供たちは寒稽古に朝早くから出かけることを話しさせて見る。このやうに寒い冬の日にしかも一番冷たい早朝に鍛へることは本當の鍛錬であるから寒さに負けず、元氣よく活動する氣持を起させる。風邪にかゝる者も次第に多くなる。しもやけ・ひび・あかぎれ等の出來てゐる兒童にはまさつをして血行をよくするやうに衛生のことにも注意をしてやる。

かうして節分時の氣象の狀態を觀察させてゐる中に年中行事の一として又兒童の樂しみの一つである節分の夜の豆まきのことを聞いてみる。そして「それはどんな風にしましたか。」と、尋ねてみる。それは大體左のやうなことゝなるであらう。

「豆をいつて神棚に供へる。その豆でお父さんが豆まきをなされる。表口からつぎ〳〵に家の隅々まで福は内、鬼は外といつてまき終つたならば年の數だけ（或は一つ多く）いたゞく。餡を格の小枝にさして門口にさす。」等、數日後に來る節分の夜の豆まき「早く來ればよいがなあー」といふ聲も自然と出るであらう。

◇天氣のまとめ　教室での指導（後半）

これまでの繼續觀測の結果の中、氣溫・雨量は日々又は月別にグラフに表して教室の後に貼付ける。最初の一、二ヶ月は教師の手になつたものであるが後々は兒童の合同作製にする。このグラフについて左の問答を交はす。

「一番高い溫度の日は何日で何度。一番低い溫度の日は何日で何度。

一番高い溫度月は何月で平均何度（八月――二十七度）

一番低い溫度の月は何月で平均何度（一月――四度）

今年の夏は三十度以上の日が幾日あつたか、始めて三十度になつたのは何月何日か、冬始めて氷點下になつたのは何月何日であつたか、氷點下の日は幾日あつたか

・雨の多い月は――六月・九月　少い月は――二月」

今年の梅雨は雨天が何日あつたか

等を言はせる。そして大阪の氣象臺觀測の記錄などと比較させて見る。是等の數字は後に地圖で比較させる基準となるのであるから記憶させておく必要がある。

又觀測帳からこの學校附近はいつもどの方向の風がよく吹くか櫻の花の咲き始め、蚊帳のつり始め、そのつゝた期間、單衣物に着換へた時、燕などをはじめて見たときなどをお互にしらべ合ふ。梅雨の觀察を始めてから欠かさず觀測したので、今までたゞぼんやりとあまり氣にもかけなかつた事がらにも氣をつけるやうになつた。「一日でも欠いてはグラフにはなりません。しんぼう强くやりませう。」と、元氣づけて、毎日細心の注意を拂つてやればやうに何か面白いものが見出されるかも知れぬ。後々も續けて觀測する

教材（二月四時間中の第二時）

教材 寺院と史蹟

（四時間中の第三四時）

要旨

我々の生命の根源である祖先、祖先の靈の在す寺、この寺に參拜し、この寺を觀察して、神と共にある我々は又佛によつて生を享け生活してゐることに深く思を致させ、敬神と共に崇祖崇佛の念を深からしむると共に、鄉土に於ける史蹟を觀察して鄉土の歷史的遺由の一端にふれ鄉土愛の念を深からしめる。

要項

1 教室での指導
　參拜の心構
2 參拜途中の觀察
3 現地での指導
　○參拜
　○氏寺と檀家
　○境内にあるもの
　　本堂・庫裡・鐘樓・石牌
　○定庭内にあるもの
　　佛壇・位牌・彼岸盆の行事
　○寶物拜觀
　○史蹟觀察
　　歷史的事實
4 教室での指導
　○寺の分布圖

注意事項

取扱上の注意

1 前時取扱上の注意①を體して取扱ふこと。
2 本取扱に於ては寺を氏寺として取扱つてある。多くの兒童の中には氏寺でないものが可成多いと思はれるが前時取扱上の注意③の如き精神で扱ふこと。
3 境内にあるものすべて佛への歸依、先祖の供養のため一般の人々から寄進されたものであることを知らせる事。
4 自分の家の佛壇へは一日一度は必ず禮拜すべきことを訓へる。
5 お彼岸・お盆に於ける家庭での行事、寺々での行事については、その精神的意義を知らせること。
6 我々の生命はこれを父母に享け、父母も亦その生命を祖父母に享けてゐる。かくて我々は何千年來の祖先の血と精神を受けついでゐることに思を致させ、一呼一吸すべて祖先の恩惠によるものであることを思ふとき、無限の感謝敬仰の念が湧くであらう。この境地にまで至らねばならぬ。
7 史蹟について大義名分に照らして、如何はしいものは、單に史蹟としてふれるに止め、史的事實にふれることをさけること。
8 鄉校後寺の記號を扱つて、寺の分布圖を共同作業によつて作製させて分布の特質を吟味し出來ればその地理的歷史的意義を明らかにすること。
　寺の分布については各鄉土について充分の教材研究をしておかねばならぬ。或は鄉土ではそれが古い聚落の地域に限つて分布し、鄉土の發生と密接に連關してゐるものもあれば、或は又舊市内の寺町の如く、政策的に一地域に集合せしめられたものもある。何れにしても鄉土史とは密接な關係のあるものであるから、その心して取扱はねばならぬ。
9 歷史的に關係の多い鄉土では史蹟も多からうから、それらの鄉土では史蹟の取扱に一時間を當てゝよい。

連絡

ヨミ方一、三十三オヘカノサウジ　よみ方三、三國引　よみ方四、十七白兎　二十五羽衣　二千早城　初等科國語一、六八鼓のをろち　初等科國語二、十一蓑老　初等科國語三、十

教具

鄉土白地圖

指導例

◇教室での指導

氏神樣の觀察と同樣、あくまでも參拜の心組でなくてはならない。敬神崇祖は我が國民道德の根源をなすものである。宗旨等といふ小祕的見地にとらはれてはならぬ。均しく我等の祖先の靈の安住の場所として、又無限の慈悲を我等の上に垂れ給ふ靈域として心から感謝し、敬仰する心を養つておかねばならぬ。

先づ氏神、氏子に對して、氏寺（檀那寺）、檀家の名稱を授けて後、「皆さんの氏寺はどこですか。」との問によつて、その寺の名・在所・宗旨等を各自に言はせて見る。進んで兒童自身及び家族の人々が氏寺に對し、如何なる氣持を持ち、平素如何なる態度を以て接してゐるか等を發表させる。

「今日は銘々の氏寺へお參りするかはりに○○寺へ參拜しますから、皆さんには自分の寺へお參りする積りで參りませう。」といつて、寺に於ける參拜の作法を指導しておかなくてはならぬ。

團體の參拜は指揮者の號令によつて一拜し、個人の場合は合掌禮拜するのが普通である。

作法の訓示終れば參拜の心構を充分說聞かせること、神社參拜の場合と同じである。

◇途中の指導

お宮の觀察の條に於いて述べたと同樣に「私の町」の一部觀察になるのであるから、途中に充分氣をつけるやう注意を與へる。步行の訓練も同樣である。神社の場合にもあり、寺の場合にもあることは、門前町の發達である。それは、現在は大都市の一部としてその面目を止めてゐないが、それが市場として發達し、古の風を殘してゐるものや、古風な建物商店の並ぶ特殊な一角が、新しい發展の陰に、わづかに殘つてゐるのが見受けられる。こうしたところに來て、「よくこの邊の家に注意なさい。」とか、「かはつた商賣が目につくでせう。」とか、「何故こんな所に市場が出來たんだらう。」とかの問によつて、その特異な景觀とその意義を把握させる。

◇現地での指導

先づ石段を上り、門をくゞつて本堂の前に進む。參拜するのである。參拜の氣持は神前に進むのと又自ら異つた氣持がするであらう。それは我等の祖先に對する親しみである。禮拜終つて寺の名や、宗旨や寺の沿革を說話する。氏寺と檀家についても說話する。この說話はやはり教師自身の深い教材研究の結果が望ましい。本堂内にある佛像・位牌それから境内にあるものを觀察させて、その名稱を發表させ、不明なものは說話を與へる。同時に家庭内にある佛壇・位牌等を思ひ起させる。これらの位牌や墓地については祖先の働について思ひ起させ、鄉土のため國家のため働いた人達であること、從つて敬虔感謝の念を忘れてはならぬことを指導する。特に戰死者や鄉土の偉人のそれについてはその功績等を話し、眞心こめて感謝させ、ついで寺・家庭に於ける彼岸、盆の行事を想起させて、その意義と、古來の美風であることを授ける。

寺の參拜終つて鄉土の各史蹟に引率し、その有樣を觀察させ更に之が歷史的事實を明らかにして、鄉土の遠き姿に思を致させ、想像のつばさを自由に伸ばさせる。かくて鄉土愛の心は自然と培はれるであらう。

歸途は例によつて學校迄の距離を測步して歸る。

教室での指導

先づ寺や史蹟の記號を明らかにし、多くの寺の所在をたしかめ、鄉土白地圖上に共同作業させて分布圖を作製し、その特徵を把握させ、然る後その意義を授けて終る。

教材（二月四時間中の第三時）

教材

町の歴史

（四時間中の第三時）

要旨

我が町の様子を概觀せしめ、昔から發展し來つた委に觸れしめ且その發展に努力せし鄕土の先人の偉業を偲ばせ、我が町に對する親しみの念を養ふ。

要項

1 現在の町の様子
　榮えてゐる處はどこか
　さびれてゐる處はどこか
2 昔の町の様子
　昔はこの邊はどんな様子であつたか
　昔と大變違つてゐる處はどこか
3 昔の偉業を偲ぶもの
　昔の町の様子を表してゐるものは何か
4 町の變遷
　町は何を中心に變つて來たか
　現在の町は何を中心としてゐるか
5 町の名稱と名の起り

注意事項

取扱上の注意

1 現在の町の様子については、特に今日繁榮してゐるところを考へさせ、且さびれてゐるところを併せて考察させるやうにする。町の盛衰については色々の方面より考へられるが、指導者は單に商賣の盛なところのみを尺度として盛衰を決定してはならない。地理的に考へて住宅地域として發展してゐるところもあるであらうし、休養地域として或は又交通上の要地として發展してゐるところもあるわけであるから充分それらの點に留意せねばならない。

2 昔の町の様子については、到底兒童には分らない筈であるから昔はどんな様子であつたかと尋ねても所詮兒童には分らないであらう。そこで昔のことを知るには如何なる方法をとればよいかを考へさせ、家で老人に訊くとか、或は町の老人に訊くこと等はよい方法であることを說き、調査研究の態度、方法を指導することが肝要である。

更に昔のことを知り得る最も大切なものは現在殘つてゐるもの即ち歷史的遺物である。この重要なことを知らせ、それらについて實地に觀察させる。その際特に留意して觀察せしめたいことは昔の人々の地理的努力の足跡についてである。尙昔と違つてゐるところがあれば、その發展の過程を知らしめる。

3 昔の偉業を偲ぶものとして特に大切なことは、それら歷史上の記念物が我々祖先、即ち鄕土の先人の業績であつて、その業績に對して親しめると共に、常に崇敬の念を忘れず大切に保存し、その精神を繼いで更に發展させるやう努力させることである。

4 町の變遷については、唯漠然と觀察させただけでは無意味である。その町は何を中心として動いて來たか、或は變つて來たかを考察させねばならない。考察させるといつても兒童にとつては隨分困難であるから、適當な具體例をとつて理會させる。例へば交通上停車場を中心として發達して來たとか、市場があつてそれが町の中心になつて動いて來たとか、或は問屋が多くそれが町の發展に非常な影響を與へた等その核心事項を把握させる。尙現在の町の生命となつてゐるもの即ちその地域の職能をも理會させなければならない。

5 町の名稱の起源がはつきりわかつてゐるものについては適當に指導する。併し牽强附會の說にとらはれてはならない。

指導例

◇町の家の様子について

自分達の居住してゐる町の様子を思ひ浮ばせ乍ら「私達の町で一番榮えてゐるのはどこでせう。」と尋ねて見る。その際兒童は主として商賣の盛なところとか、或は所謂にぎやかなところを指すであらう。それはそれとしての意義を持つてゐる故よいのであるが、町の盛衰は單に外見上にぎやかなところのみが榮えてゐるとは限らないのである。その地域が住宅地域として理想的であれば住宅街として榮えてゐるわけであるし、交通の要地として交通機關の發達の顯著なところも亦榮えてゐるのであるから、充分それらの點を理會せしむることが肝要である。

更に今度は「町でさびれてゐるところはどこでせう。」と質問してそのさびれた理由について考へさせる。

◇昔の町の様子について

「皆さんは昔この邊はどんなであつただらうと思ひますか。」と問ひかけて見る。この問題には兒童は返答に困るであらうと思ふ。そこで「昔のことを知るのにはどうすればよいでせう。」と訊いて、家でお祖父さんなり、お祖母さんなり、或はその町に住む老人なりに訊くことのよい方法であることを知らせる。このことは地理事項の勉强上大切なことを知らせ、自分で解決しようといふ習慣をつける。

尙それだけでは充分でないから、歷史上の根據を明らかにせねばならない。それには昔の様子を物語る遺蹟等に依つて確かめることが大切である。さうした適當なものがあれば實地に觀察することが望ましい。その際特に留意せねばならないことは單に形式的な形にのみとらはれて、その内に藏されてゐる精神を見逃してはならないことである。

「昔の人は世の爲、人の爲にこんなに努力して下さつたのです。」とその業績に對して敬虔の念を以て接せしめる。現存せるものにして變つてゐるならばその變遷について話し、發展的な點を把握させて行く。

◇昔の偉業を偲ぶもの

かうした歷史を話し乍ら、我々もこの鄕土をより以上發展させるために努力せねばならないことを感得させて行くことが大切である。

◇町の變遷について

漠然と昔と今を比較し回顧の情に浸つて感傷的になつてゐるといふのでは鄕土の觀察の意義を持たない。どこまでも科學的にものを見て行かうとするところが欲しいのである。

「今まで調べて來たところに依ると私達の町も隨分發達して來ましたね。一體、何が原因でこんなに發達して來たのでせう。」と尋ねてその町が何を中心として變つて來たのであるかといふ中心事項を把握せしめるやうに努めるべきである。このことは兒童には困難なことであるから具體的な例をとつて理會させる。例へば「こゝは交通上大切なところで停車場が出來ました。それから急に發達して來たのです。」とか、「このあたりは昔は水田でありましたが○○頃から市場が出來たので現在の様に榮えて來たのです。」とか、「或は私達の學校が建てられたので附近に家が次ぎ次ぎに建てられました。」等その中心事項を明確にする。尙「現在このあたりは○○業が中心になつてゐるのです。」と地域の職能を明らかにする。

◇町の名稱

この町の名は「どんなところから來たのですか。」と訊ねて土地の名の由來について考へさせる。

教材（二月四時間中の第四時）

教材　大阪市（沿革）
（四時間中の第一時）

要旨

大阪市の昔の姿及び現在に至るまでの發展狀況について知らせ、大阪市の發展に苦心された先人に對して感謝の念を養ひ、更に市民として今後如何なる點に努力せなければならないかを自覺させる。

要項

1 古代の大阪
　神武天皇の御東幸當時の大阪（難波）
　仁德天皇の御事蹟
2 豐臣秀吉と大阪
　大阪城
　豐臣秀吉時代の大阪
3 德川時代の繁榮策
　松平忠明
　安井道頓
　河村瑞賢
4 明治以後の大阪の發展
　市域の擴張
　人口の增加
　現在の町名と大阪城

注意事項

取扱上の注意

1 既習の町の歷史と關聯して取扱ふこと。
2 市の發展狀況については、具體的な例をあげて說明することが大切である。
3 大阪の古地圖（時代の異なる圖）を對照して、その變化によつて發展の跡を會得させること。
4 先人の偉業を偲ぶものとして記念碑がある。その記念碑を通じて先人の偉業を追慕尊敬させ、その精神を繼いで更に發展させるやう自覺させることが肝要である。
5 現在の町名と大阪城では大體大阪城を中心としてつけられてゐることを知らせる。即ち東西の通りを○○町、南北の通りを○○筋と稱して、各町・各筋の一丁目・二丁目……は大阪城の方から順につけられてゐる。
6 人口增加の統計は大阪市（自然）の項に記載してある（同項參照）。
7 古地圖を餘り信じすぎないやうにせなければならない。

教具

大阪市古地圖　大阪市掛地圖　大阪市域の擴張圖　人口增加グラフ

其の他

1 難波の起りは神武天皇の御東幸にあたり、先づ船を此の地に寄せられた時、波が荒かつたので名づけられて傳へらる。日本書記に「皇軍遂に東にゆく、舳艫相接げり。まさに難波碕（なにはのさき）に至る時、奔浪あつて甚だ急なるに會ひぬ。よつて以て名づけて浪速の國となす。又難波（なにはつ）と言ふは訛れるなり」と難波の碕は一押照る難波の碕」と稱せられ、今の上町豪地の尖端を呼んだものと考へられてゐる。
2 豐臣秀吉の大阪築城
　山崎の合戰に明智光秀を破つた秀吉は、信長の志を繼ぎ、天下統一の偉業をなし遂げた。先づ海陸交通の便利な大阪の地に着眼して、天正十一年五月池田信輝に代つて此の地を收め、三十餘ケ國に命じて築城にあたらしめた。秀吉は日夜三萬の人夫を使役し、工事が進むにつれて、人夫を二倍にして、數年で完成したと言ふことである。
3 大阪城
　大阪城は本丸・二の丸・三の丸に分れ、華麗壯大を極め、本丸の中央には外觀五層の天守閣が聳え、瓦に至るまで金箔を塗り、金色燦然としてまばゆいばかりであつた。本丸・二の丸・三の丸の周圍は合せて實に三里八丁に及んだと言ふことである。
4 大阪城天守閣
　大阪落城の際燒けてから再建されたこともあつたが、その後荒廢に歸し、天守礎石のみ殘つてゐた。そこへ大阪市が今上陛下御大典記念事業として、昭和六年十一月再興したものである。
5 松平忠明
　慶長・元和の大阪の役に功あり、又市街地を整理して大阪發展の基礎をつくつた。

指導例

「私達の住んでゐる大阪の昔の樣子はどうであつたか、それがどのやうにして發達して來たかを調べてみませう。」と兒童に話かけて「皆さんは昔の大阪はどんな樣子であつたらうと思ひますか。」と質問する。この答には困るであらう。然し二、三の兒童は答へるだらう。若し答へた時には、それをとりあげてその根據を尋ねる。人に聞いたとか、○○本で知つたとか答へるに違ひない。大きくなつて自分で昔の土地の樣子を知るには、古い地圖や、記錄、遺蹟によらなければならないことを指導しておく。

◇古代の大阪

準備した古地圖を提示して（神武天皇御東幸當時の地圖・仁德天皇御代の地圖・其の他時代の異なる地圖）その一つ一つの地圖について、此の地圖は何年前の地圖であると話し、時代を明らかにしてをく。次には此の地圖では學校は此の附近である。大阪城は此の附近、大阪驛は大體此の附近であると指示して、兒童のよく知つてゐる場所二三ヶ所を選び目印をつけておく。未だ陸地になつてゐなかつたら此の頃は未だ海底であつたと話しておかねばならない。何年前の神武天皇御東幸當時はこの附近は川の中の低い島であつたが、それから約千年たつた仁德天皇の御代には此のやうに川の位置も變化し陸地になつてゐると言ふやうなことを兒童と共に讀圖しながら說明する。「どうして此のやうに變化したのでせう。」と質問し、河水の運搬作用・堆積作用を川底の砂採り、大阪港と木津川・大和川の川口、洪水後の土砂の堆積等の話をして理解させる。そして神武天皇御東幸當時の昔を偲び、仁德天皇の御事蹟を追慕し奉らしめる。

◇大阪城

大阪城に行つた事があるかどうか、一應兒童に尋ねてみる。若し少なかつたら時間を都合して現地指導をする必要がある。

「大阪城は今から約何年前に誰が築きましたか。」と質問し、築城の年代を知らせ、更に豐臣秀吉が大阪の地に着眼した點、大阪城の工事の樣子、大阪城の昔の構等を話して、機械の發達してゐない當時にあれだけの立派な工事を成し遂げた昔の人の苦心談を說く。

それが大阪の役によつて變化したこと、現在高く聳える天守閣について話を進める。

○德川時代の繁榮策については、要項に記載の三氏について簡單に說明し、之等の先人に對し感謝の念を起させると同時に市民として市の發展の爲に努力せなければならないことを指導する。

○明治以後の大阪の發展狀況については種々說明する事項があると思はれるが、面積・人口等の增大によつて、その一班を知らせる事が好都合である。市域の擴張圖によつて市域の擴大したこと、人口增加の棒グラフによつて人口增加の大要並に急速に增大したことを圖から讀みとらせ、明治十年（六五年前）以來商工業が著しく發達し、市內の住宅地が狹隘となつて工場の設置が出來なくなつた。それで大阪市の周圍に發展膨脹した。その爲に附近町村は工場地・市街地となり、人口も增加したので、追々市域が擴張されて行つた事を知らせる。此の場合現在の大阪市の近郊地と市街地の區別が出來ない狀態になつてゐる土地を想起させると一層よく徹底する。

○現在の町名と大阪城については學校附近の○町○丁目がどちらからつけられてゐるか、と言ふ所から發展して大阪市內の○町○丁目は殆んど全部大阪城に近い方から、一丁目・二丁目・三丁目と名付けられてゐることを指導する。

◇備考

古地圖は「神武天皇御東遷聖蹟考」の自一〇八頁至一一五頁參照
著者　勝井純　發賣元　大阪市東區博勞町　功人社

教材（三月三時間中の第二時）

教材 大阪市（史蹟）（四時間中の第二時）

要旨 大阪市を中心とする神社・佛閣・史蹟名所について、兒童の既知事項と關係づけながら記事で地圖に記入させ、敬神崇祖の念に培ふ。

要項

1 大阪市
- 神社・佛閣
  - 高津神社宮
  - 生國魂神社
  - 住吉神社
  - 阿部野神社
  - 坐摩神社
  - 天滿宮
  - 四天王寺
- 史蹟・名所
  - 南・北御堂
  - 小橋公園
  - 渡辺之址
  - 畸形塔
  - 大阪城
  - 教育塔
- 御陵
  - 天皇御陵
  - 仁德天皇御陵
  - 反正天皇御陵
- 神社・佛閣
  - 水無瀬神社
  - 大鳥神社
  - 枚岡神社
  - 觀心寺
- 史蹟
  - 千機羅
  - 早井
  - 城址

2 大阪府

注意事項

取扱上の注意

1 お宮とお寺と連絡して指導すること。

2 大阪市・大阪府地圖に記號によつて神社・佛閣・史蹟等を記入させること。
但し記入順序は、兒童が作業に便利な方法を考へる必要がある。例へば學校所在地の區から始めるとか、兒童の熟知してゐる史蹟から始めるとか。又は神社を先にすましてしまうとか、各學校の兒童の程度に應じて指導するのがよい。

3 兒童に配布する地圖について
- 大阪市内地圖には區の界・學校（自校）氏神樣・既習のお寺を記入しておくこと。
- 大阪府地圖には、市郡界・郊外電車及び主要驛を記入しておくと、郊外教授と連絡がついて都合がよい。

4 教師用として兒童に配布する地圖を擴大し、それを黑板に貼付して兒童と共に作業してゆけるやうに作成すること。

5 大阪府の史蹟については郊外教授と關聯させて取扱ふこと。

6 要項の史蹟以外に指導者が適當に教材を取捨選擇しても差支へないと思はれるがあまり細部に亘る必要を認めない。

教具

大阪市　大阪府掛地圖　今迄の遠足地を記入した圖

其の他

高津宮　東區味原町――仁德天皇の高津の宮のあつた跡、あつた場所については色々說がある。味原町の元の池の畔にその碑石が立つてゐる。

生國魂神社　天王寺區生玉町――官幣大社で生國魂大神・咲國魂大神・大物主命をお祀りしてある。舞臺から大阪市が一目に見える。

住吉神社　住吉區住吉町――神功皇后及び表筒男神・中筒男神・底筒男神をお祀りした官幣大社で昔から名高いお社である。社前から西の方一帶にかけて、住吉公園となつてゐる。

坐摩神社　東區渡邊町――官幣中社で生井神外四柱を祀つてある。境内に陶器神社あり七月の夏祭には陶器で人形を造り、大阪名物の一つに數へられてゐる。

教育塔　東區馬場町――大手前公園内にある。昭和十一年帝國教育會の教育會が教育精神昂揚を圖るために學制發布以來の殉職教育者と不慮の大厄に倒れた學生兒童を合祀し、正面壁面には教育勅語奉讀の圖と昭和九年關西風水害に際し、身を挺して兒童の安全に盡してゐる銅版が浮彫されてゐる。

指導例

「此の時間は今皆さんの手許に配布しました地圖に神社・佛閣・史蹟・名所等を記號で記入しませう」と告げ記號を約束する。（約束記號は地理書附圖の圖例諸記號に從ふこと。）

約束が終ると兒童に配布した大阪市圖の欄外（右下又は左上に一定するとよい。）に凡例して記させる。

次に自校及び氏神樣・お寺の所在地を地圖上で確める。この場合大阪市掛地圖と、教師用の擴大した白地圖とも對照しておかねばならない。

◇大阪市

「大阪市内の神社や、お寺・史蹟・名勝等で參拜したことのある所、又は參拜してゐなくてもよいから知つてゐる所の名を言つてもらひませう。」と話しかけると、兒童は喜んで發表するだらう。その中で適當なものを板書しておくとよい。次は地圖に記入させるのであるが、兒童の最もよく知つてゐるものをその中から一個所を取出して「○○神社はどこにありますか。」と質問すると、市電の停車場の名か、町の名で答へるだらう。それを取上げて掛地圖又は黑板に貼付した地圖で位置を確める。そして指導者が地圖に記號で記入し、○○神社と少さく記す。それが終ると兒童に各自記入させる。その間机間を巡視して指導することが肝要である。全員記入が終つた頃、筆記用具を机上に置かせて、「○○神社はどなたをお祀りしてありますか。」とか、「お祭は何時ですか。」「お祭にはどんな行事が行はれますか。」と尋ね、所在地・祭神・行事等について知らせ、敬神崇祖の念に培ひつゝ取扱ふやうにするとよい。

然し全部一律に取扱ふ必要もなく、又その樣な時間もないから簡單に神社名・所在地・祭神をあげて進む場合もあつてよい。若し兒童の發表せない所で必要と思はれるものは指導者の方で取扱はねばならない。

◇大阪府

「次は大阪府の方に移りませう。大阪府の地圖を出しなさい。」と告げる。

大阪府の地圖で大阪市の位置を確めておく。

「今迄に遠足に行つた所はどことどこでしたか、思ひ出して下さい。」と話して、今までの遠足地を想起させる。「遠足した時に參拜した神社やお寺・史蹟・名勝等で覺えてゐる所に言つて見なさい。」と質問して、兒童の發表に從つて大阪府の掛地圖上で指示してやる。そして遠足地と關聯して大阪市にならつて、指導するとよい。

阿部野神社　住吉區住吉町――別格官幣社・北畠親房と顯家を祀つてある。

天滿宮　北區大工町――府社、菅原道眞を祀つてある。七月二十五日の鉾流祭は水都大阪にふさはしい夏の大祭で、近郊からの參詣者で雜閑する。

南・北御堂　東區北久太郎町にある南御堂は難波別院とも言はれてゐる。東本願寺に屬してゐる。
御堂筋の名は南・北御堂に起因してゐる。

四天王寺　天王寺區――聖德太子がお建てになつたお寺で、我國最初の佛教道場である。有名な五重塔は昭和九年九月に關西一帶の大風水害の爲めに倒れたが、その後再興されて、現在のは昭和十五年五月復興したものである。

教材（三月三時間中の第二時）

教材　大阪市（自然）
（四時間中の第三時）

要旨
既習事項と關聯して、大阪市の位置・面積・行政區劃・人口・地勢・氣候の大要を知らせる。

要項
1 大阪市の標章
2 大阪市の位置
日本全體から見てどの邊か
大阪府からみてどの邊か
3 大阪市及び大阪府の行政區劃
大阪市は何區に分れてゐるか
大阪府下はどう分れてゐるか
4 大阪市の面積
どれ位か
大阪府の面積と比較して
5 大阪市の人口
何人か
東京市・大阪府と比較して
密度は
人口增加の樣子
6 地勢
高い所はどの邊か
大阪府の他の地と比較して
7 氣候

注意事項

取扱上の注意
1 既習の町の位置・面積・人口と連絡して取扱ふこと。
2 大阪市の標章澪標（ミヲツクシ）は昔船舶航行の目印としたものである。
明治二十七年に大阪市章として制定された。
3 大阪市の面積では約一九〇方粁（一八七・一方粁）として取扱ひ、大阪府の面積は大阪市の約一〇倍で一八〇〇方粁餘（一八一六・六方粁）であつて府縣別面積では最小である。
4 大阪市の人口は三二五萬人であるが、增加表をグラフにして提示するとよい。
東京市は六八〇萬人で大阪市の二倍以上で世界第二位である。大阪市は日本では第二位で世界では第八位の大都市である。
5 大阪市の二十二區・他の七市七郡の區域については、夫々白地圖に着色させるとよい。
6 地勢については、どの附近が高いか、市電に乘つてゐる時抜になつてゐる處はどの邊か尋ね、更に高さは何米位かを發表させるのも面白い。上町臺地を除くと他は低平で、特に海岸沿ひの土地や、河岸の地は低く、風雨が少し激しい時には氾濫する。
7 氣候については既習のお天氣と關聯して取扱ふとよい。（お天氣のまとめ參照）

教具
日本地圖　大阪府　大阪市地圖　人口增加グラフ　大阪市の標章

其の他
大阪市の人口增加

明治元年	萬人	大正九年	萬人
〃一〇年	二六・一	〃一四年	二二五・三
〃二〇年	四三・七	昭和五年	二四五・四
〃三〇年	四五・八	〃一〇年	二九九・〇
〃四〇年	二七・二	〃一五年	三二五・〇

指導例

◇大阪市の標章について
「大阪市の標章はどんな形をしてゐますか。」と尋ね、兒童の學習帳に記させてみる。萬一正確に記すことが出來ない者があつたら手近にある適當な大阪市章を指示して記憶を正確にしておかねばならない。記し終つたらその由來について話すとよい。

◇大阪市の位置
日本地圖を示して、「私達の住んでゐる大阪市はどこですか。」と質問して掛地圖上で大阪市の位置を指示させる。そして「大阪市は日本のどの邊にあると言へますか。」と尋ね、日本の略中央部にある事を知らせる。次に大阪府地圖を示して、大阪府のほゞ中央部に位して、淀川の下流にあつて、大阪灣に面してゐることを見させる。

◇大阪市及び大阪府の行政區劃について
「大阪市は何區に分れてゐますか。」と質問して、兒童に配布してある大阪市地圖の區の界を色鉛筆でたどらせ、二十二區の名稱をも指導する。（大阪市域の擴張と速絡をとること。）
大阪市を除く市郡の區劃についても、大阪市と同樣にして七市・七郡の界・名稱を取扱ふと都合がよい。

◇大阪市の面積
既習の町の面積と關聯して、大阪市の面積を取扱ひ、更に大阪市の面積と比較して大阪府の面積を知らせる。大阪府の面積は大阪市の約一〇倍であるが、日本の府縣別の面積では一番小さい。今後面積比較の對照となるから數字を記憶させておかねばならない。

◇大阪市の人口について
「大阪市の人口は何人ありますか。」と尋ね、三二五萬人であることを記憶させ、東京市と比較すると約半數である。東京市は人口六七七萬人で世界で第二位の大都市であることを知らせ、大阪市は日本では東京に次いで第二位で世界では第八位の大きな都會である事をも合せて指導する。次に大阪府の人口を知らせ、大阪市と大阪府の人口密度を町の人口密度の算出方法に從つて出して、兩者を比較對照させると面白い。

◇大阪市の地勢
「大阪市の中で土地の高い所は何の邊ですか。」と質問する。この質問に對して兒童の答は一小部分に限られると思はれる。特に東西に上町臺地を横切る機會の多い兒童にとつては一層甚だしいと思はれるから南北に長く續いてゐる事を知らせ、その一段高い土地が比較的平であることを話し、臺地（上町臺地）と呼んでゐることを指導するがよい。上町臺地の最高點は二一米餘である。學校の運動場の標高、校舍の高さと比較して指導すると兒童は了解すると思はれる。又遠足地の山地の高さ、例へば生駒山（六四二米）の高さ、頂上の狀態と比較させることもよい。

◇氣候
「一年の平均溫度は何度か、最高氣溫の月はいつで何度か。蒸し暑くて困る月は何月か。一ヶ年の降水總量は、雨の多い月は何月と何月で最も少い月は何月で、雨量は、是等の數字は後に地理で比較の基準となるから記憶させる。

教材（三月三時間中の第三時）

教材 大阪市（人文）
（四時間中の第四時）

要旨
兒童の生活環境及び既習事項と關聯して、大阪市の總括的指導をなし、大阪市の現況を理會させ、併せて市民として今後努力すべき點を自覺させる。

要項
1 產業
どんな產業が盛か
○商業
大阪市のどの邊が盛か
外國貿易の樣子は
○工業
大阪市のどの邊が盛か
どんな物を製造してゐるか
阪神工業地帶について
○大阪府の產業
大阪市に近い所は
大阪市を離れた所は
2 交通
・大阪市内の交通
川と橋について
道路・電車・自動車について
・大阪市外との交通
道路について
郊外電車・汽車について
航空路について

注意事項

取扱上の注意
1 大阪市の總括的取扱ひを主とするのであるから、深入りすることなく、大觀的に大阪市の個性を掴ませて行く態度で指導せなければならない。
2 間接的觀察が伴ふため、兒童が地圖に親しむやう描圖に工夫することが必要である。
3 町の產業と連絡して取扱はねばならない。
4 大阪市内で最も商業の盛な區域は、東區・北區の一部で（船場・島之内・堂島・中ノ島）あつて日本銀行支店・取引所を初めとして銀行・會社・商店等が軒をならべて活氣を呈してゐる。
5 外國貿易については、大阪は神戸・横濱と共に日本の三大貿易港の一つで輸出超過になつてゐる。輸出品は工業製品と連絡して指導せなければならない。
6 工業は大阪市の北部から西部にかけて盛んで、（淀川や運河に沿ふ地域）造幣局・陸軍工廠・鐘ヶ淵紡績・大阪鐵工所・藤永田造船所・住友金屬工業等の大工場を初め、大小の工場が連り、林立する煙突の煙は常に大空を覆つてゐるので、大阪市を「煙の都」と呼んでゐる。
7 工業の盛大なことを表現してゐる。
工業製品は綿糸・綿織物・船舶・藥品等である。然し支那事變、大東亞戰爭勃發以來工業品の變つたこと、並びに今後の大阪の工業について簡單に說話する。
交通については既習の町の交通と關聯して取扱ひ、細部に亘らず、總括的に指導するやうにせなければならない。
大阪市は淀川の河口に位し、その分流や數多の運河と共に水運の便が甚だ大で、昔から水の都と言はれてゐる。川や運河には形式のちがつた橋が多數架けられてゐる。現在は内外の各地に通じ、船舶の出入が多い。
陸上交通に於いては、明治七年以後鐵道の開通と共に主要驛となり、現在では隣接各地に電車及び自動車道路が通じ、市内電車・地下鐵・バス・自動車と相俟つて西南日本に於ける交通の中心地となつてゐる。

教具
大阪府地圖　大阪市圖　大阪市工業分布圖　大阪市中心交通網圖　大阪府農業分布圖　大阪中心の交通網圖

指導例

◇產業

「私達の町にはどんな產業が盛んでありましたか思ひ出して下さい。」と既習の町の產業を想起させる。そして町の產業から更に發展させて「大阪市全體から見て大阪市にはどんな產業が發達してゐますか。」と尋ねると、兒童は色々自分の觀察を通して發表するだらう。種々發表した中で、大阪市として特に發達してゐるものは工業と商業であることを大阪市獄と連絡して知らせるとよい。

◇商業について

「大阪市の商業の最も盛な區域はどの邊でありますか。」と尋ねる。若し答へる者がなければ、此の附近であると掛地圖上で示し更に白地圖上に色彩で區域を示してやるとよい。此の區域で日本銀行支店・取引所・銀行・會社が軒を並べてゐる。と話しても兒童には十分理會が出來なければ、北濱・三越百貨店附近とか、中ノ島の高い建物の立ちならんでゐる所であると言つてやればわかるだらう。

次に大阪市は國内商業の中心であると共に又外國貿易の中心地であることも知らさなければならない。外國貿易は主として大阪港を通じて行はれてゐる。大阪港は日本の三大貿易港の一つで、滿洲・支那・南洋・印度・アフリカ方面と取引を行つてゐる。そして之等の地方と取引してゐる諸國の商品を驅逐してゐた。今後大東亞共榮圏が確立された曉には從來より以上、之等の地方と經濟的に密接相提携してゆかなければならないが、その中心となるものは大阪の土地であつて大阪商人の責任は重大である。我々はこの責任を完ふする樣に今から努力せなければならないことを說く。

○工業については、大阪市又は大阪府工業分布圖を讀ませて、商業の盛な地域と同樣式に取扱ひ、具體的な話をして指導するとよい。次に是等の工業の盛んな區域は、只大阪市のみでなく、西は神戸から西宮・尼崎・大阪と續き、南は堺・岸和田まで帶のやうに延びてゐる。その中心地が大阪市と神戸市とであるから、之等の工業の盛んな所を阪神工業地帶と呼んでゐる。阪神工業地帶は我國の四つの工業の發達した地帶の中の一つである。工業製品に就いては主要なものをあげて說明することが大切である。又支那事變大東亞戰爭勃發以後の大阪市の工業について指導することも一層大切なことである。

○市の產業がすめば大阪市外の產業の指導をする。

「大阪市の產業は商業・工業が盛でありましたが、大阪市外にはどんな產業が發達してゐますか、今迄に遠足に行つた時に見たこともあるでせうし、又家から郊外へ連れて行つてもらつたこと等を思ひ出して下さい。」と話し、農業が主であること、中でも近郊地に野菜畑が特に發達してゐること。濱郊には米作・麥作・菜種作・傾斜地の利用として葡萄・密柑の栽培等過去の觀察を思ひ出させて大阪市の產業と比較させる。

◇交通

町の交通と關聯して取扱ひ、大阪中心の交通網圖を提示してそれを讀む事によつて大阪市内と市外各地との連絡は汽車・電車・產業道路とバス・自動車と相俟つて而も水上交通と連絡して西南日本交通の中心地となつてゐることを指導することが大切である。

439
47

昭和十七年四月一日印刷
昭和十七年四月六日發行
昭和十八年四月一日修正

大阪市國民學校教育研究會
國民科地理研究部
編輯兼發行人　代表者　田中範四郎
大阪市南區鰻谷仲ノ町三九
印刷所　株式會社　中村盛文堂
大阪市南區鰻谷仲之町三九
印刷人　釘澤孝
發行所　大阪市國民學校教育研究會

終